平成２５年度

大学院生による授業評価結果報告書
（後期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
7	広領域コア科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	伴　恒信,曽根　直人
8	広領域コア科目	30043100	コミュニケーションと言語・教育	原　卓志,伊東　治己, 畑江　美佳
9	広領域コア科目	30046000	教師のための声とからだとことば	頃安　利秀,余郷　裕次, 綿引　勝美
10	広領域コア科目	30047000	学校危機管理研究	大西　宏
11	広領域コア科目	30048000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ	小西　正雄
12	広領域コア科目	30049000	予防教育科学	内田　香奈子,安藤　有美
13	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井一暁
14	人間形成	30114000	教育哲学演習	木内　陽一
15	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川　直凡
16	臨床心理士養成	30422000	精神医学文献演習	今田　雄三,小倉　正義
17	臨床心理士養成	30427000	臨床心理学演習	今田　雄三,葛西　真記子,吉井　健治, 中津　郁子,小倉　正義,久米　禎子, 新見　員子,粟飯原　良造
18	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西　真記子
19	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	佐藤　亨
20	臨床心理士養成	30443000	心理療法研究	古川　洋和
21	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津　郁子,久米　禎子
22	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田　雄三
23	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	田中　秀紀
24	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村　直子
25	幼年発達支援	30517000	こころの発達支援演習	浜崎　隆司
26	幼年発達支援	30519000	幼年発達心理演習	田村　隆宏
27	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	湯地　宏樹
28	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路　晶子
29	現代教育課題総合	30631200	現代総合学習論	谷村　千絵,小西　正雄
30	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	谷村　千絵,近森　憲助, 太田　直也,田村　和之
31	現代教育課題総合	30636000	総合学習カリキュラム開発演習	村川　雅弘

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
32	現代教育課題総合	30644200	人間とコミュニケーションⅠ （基礎研究）	谷村　千絵,金野　誠志
33	現代教育課題総合	30645200	人間とコミュニケーションⅡ （実践研究A）	金野　誠志
34	現代教育課題総合	30648200	人間と環境Ⅰ（基礎研究）	田村　和之
35	現代教育課題総合	30650200	人間と環境Ⅲ（実践研究Ｂ）	田村　和之,近森　憲助
36	特別支援教育	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上　とも子
37	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上　とも子
38	特別支援教育	31162000	特別支援教育課程特論演習	高橋　眞琴
39	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷　博俊
40	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原　光恵
41	特別支援教育	31167000	特別支援教育学習支援演習	島田　恭仁
42	特別支援教育	31169000	発達障害児支援医学演習	津田　芳見
43	特別支援教育	31170000	発達障害児神経学演習	田中　淳一
44	言語系	32139000	日本事情・日本文化	小野　由美子
45	言語系	32142000	日本語Ⅲ	田中　大輝
46	言語系	32143000	日本語Ⅳ	妹尾　春子
47	言語系	32145000	日本古典語演習	原　卓志
48	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木俊伸
49	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	小島　明子
50	言語系	32160000	日本語文法演習	田中　大輝
51	言語系	32162000	日本語語彙論	田中　大輝
52	言語系	32174000	国語科教育学演習	村井　万里子
53	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田　伸司
54	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷　裕次
55	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ （言語文化研究）	杉浦　裕子
56	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野　美穂
57	言語系	32229000	アカデミック・ライティングⅠ	鎌田ースザーン

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
58	言語系	32279000	英語科教育演習Ⅰ	伊東　治己
59	言語系	32280000	英語科教育演習Ⅱ	山森　直人
60	言語系	32281000	英語科教育演習Ⅲ	畑江　美佳
61	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	西尾　和美
62	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	大石　雅章
63	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田　哲
64	社会系	33158600	歴史学演習Ⅲ	原田　昌博
65	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生　多聞
66	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上　奈穂
67	社会系	33178000	社会科教材開発演習Ⅰ （地理領域）	伊藤　直之
68	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ （歴史領域）	梅津　正美
69	自然系	34127000	幾何学研究	松岡　隆
70	自然系	34128000	幾何学演習	松岡　隆
71	自然系	34129000	解析学研究	成川　公昭
72	自然系	34130000	解析学演習	成川　公昭
73	自然系	34173000	数学科教育学演習	服部　勝憲
74	自然系	34174000	数学科授業研究	佐伯　昭彦
75	自然系	34176000	数学科教材開発演習	秋田　美代
76	自然系	34214100	物理学特論Ⅲ	粟田　高明
77	自然系	34219000	無機化学特論	早藤　幸隆
78	自然系	34224100	生物科学特論Ⅰ	米澤　義彦
79	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤　大成,村田　守, 香西　武,足立　奈津子
80	自然系	34272000	理科授業研究	早藤　幸隆,寺島　幸生, 佐藤　勝幸,香西　武
81	自然系	34274000	理科教材開発研究Ⅱ （自然環境と生物）	佐藤　勝幸,香西　武
82	芸術系	35112000	音楽劇総合演習	真鍋　美恵
83	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安　利秀

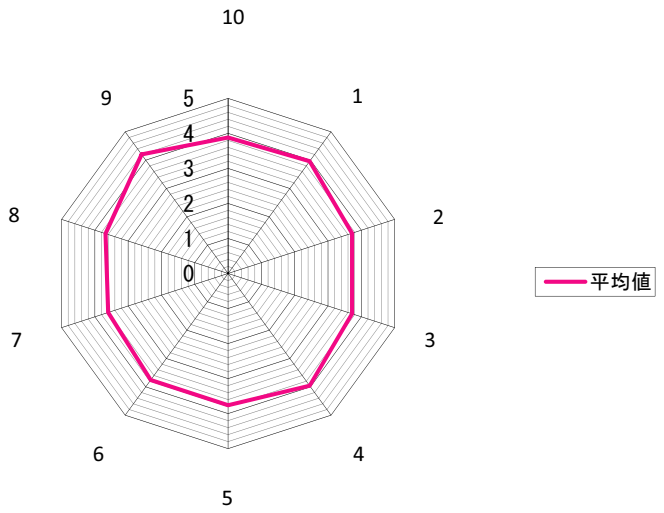
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
84	芸術系	35122000	ソルフェージュ研究	山田　啓明
85	芸術系	35127000	室内楽（器楽）	森　正,山根　秀憲
86	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡　貴史
87	芸術系	35173000	音楽科授業研究	小山　英恵
88	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木　久人
89	芸術系	35215000	彫刻制作研究	野崎　窮
90	芸術系	35218000	デザイン制作研究	内藤　隆
91	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤　隆
92	芸術系	35221000	工芸制作研究	栗原　慶
93	生活・健康系	36116000	スポーツ社会学演習	木原　資裕
94	生活・健康系	36118000	学校体育経営演習	藤田　雅文
95	生活・健康系	36126000	スポーツ・トレーニング演習	南　隆尚
96	生活・健康系	36130000	学校保健学演習	吉本　佐雅子
97	生活・健康系	36132000	健康科学演習	廣瀬　政雄
98	生活・健康系	36212100	情報技術演習	菊地　章
99	生活・健康系	36217100	エネルギー工学研究	畑中　伸夫
100	生活・健康系	36218100	エネルギー工学演習	畑中　伸夫
101	生活・健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤　陽介
102	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	林　秀彦
103	生活・健康系	36228000	ディジタル制御研究	菊地　章
104	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曽根　直人
105	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本　賢治
106	生活・健康系	36231000	シミュレーション研究	高曽　徹
107	生活・健康系	36234000	機械工学演習	宮下　晃一
108	生活・健康系	36272000	技術科教育演習	尾崎　士郎,宮下　晃一
109	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井　典代

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
110	生活・健康系	36318000	食生活学演習	松永　哲郎,西川　和孝
111	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水　多佳子
112	生活・健康系	36376000	家庭科授業・教材開発研究	渡邉　廣二,福井　典代, 松永　哲郎
113	国際教育	37135000	国際教育協力特論Ⅱ	小澤　大成,近森　憲助
114	国際教育	37180000	国際教育協力演習	石坂　広樹,近森　憲助
115	国際教育	37182000	国際理解教育特論Ⅱ	近森　憲助,小澤　大成
116	国際教育	37183000	国際理解教育演習	近森　憲助,小澤　大成
117	国際教育	37185000	国際教育総合セミナーⅡ	石村　雅雄,近森　憲助, 小澤　大成,石坂　広樹

結果報告書

授業科目名　子どもの規範意識の現状と課題
評価実施日　平成26年2月19日
担当教員名　伴　恒信，曽根　直人　　回答者数　25　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	15	2	1	1		4.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	11	5	1	2		3.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	11	4	3	1		3.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	9	5	1	1		4.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	12	6	1	1		3.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	11	5	2	1		3.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	10	6	3	1		3.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	10	5	3	1		3.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	12	2		1		4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	10	5		2		3.9



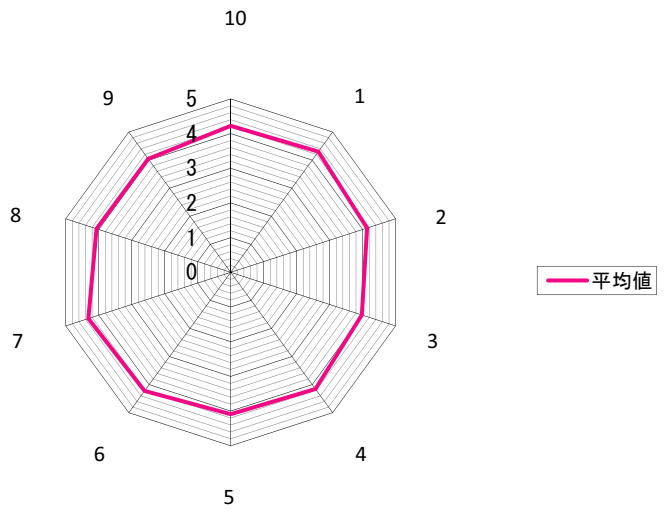
教員のコメント

講義の前半は情報化社会に必要な規範意識について扱った。また最近のソフトウェア開発でも重視されるグループでの活動を活性化させるためのワークショップも実施した。実際の活動を伴うワークショップは好評であった。講義の後半部は、KJ法をベースに集団討議とその取りまとめの方法論を実践的に取得し、集団活動が不得手になった現代の子ども達が主体的に集団活動に関わることで如何に規範意識の醸成に効果あるか、また子ども達をどのように指導していったら良いか、を実践的に学習した。授業で良かった点として受講者が挙げた感想・意見は、「KJ法をグループで仕上げていく中で、他の人の考え方やとらえかたがわかった。」「グループワークで協力して作業して1つのことに取り組めた。」「時間をかけてKJ法を体験でき、親しく話せる人が増えた。」など大旨好評だったようである。ただ、25人も受講者がいると必ず「へそ曲がり」や「人間関係不適応者」がいるもので、1の評価ばかりで反応を返した者もいた。教育大学としては受講者におもねるだけでなく、こういう者を教育界に送り出さない手立ても必要であろう。

結果報告書

授業科目名　コミュニケーションと言語・教育
評価実施日　平成26年2月5日
担当教員名　原　卓志，伊東　治己，畑江　美佳　　回答者数　90　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	42	35	11	2			4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	35	12	2	3	1	4.1
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	32	31	18	5	2	2	4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	39	29	18	2	1	1	4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	31	40	15	1	2	1	4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	38	37	11	2	1	1	4.2
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	43	35	8	2	1	1	4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	38	30	13	5	3	1	4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	29	40	18	2	1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	41	34	11	2	2		4.2



教員のコメント

コミュニケーション能力の基礎能力としての言語について考察することを通して、コミュニケーション能力育成のための手がかりを与えるとともに、異文化間コミュニケーションに焦点を当てながら異文化理解と自文化理解について，さらに言語と国家，言語と教育など，多岐にわたる話題を提供し，コミュニケーションと言語，コミュニケーションと教育に関わる問題について考えるヒントを受講生に与えることを目指した。

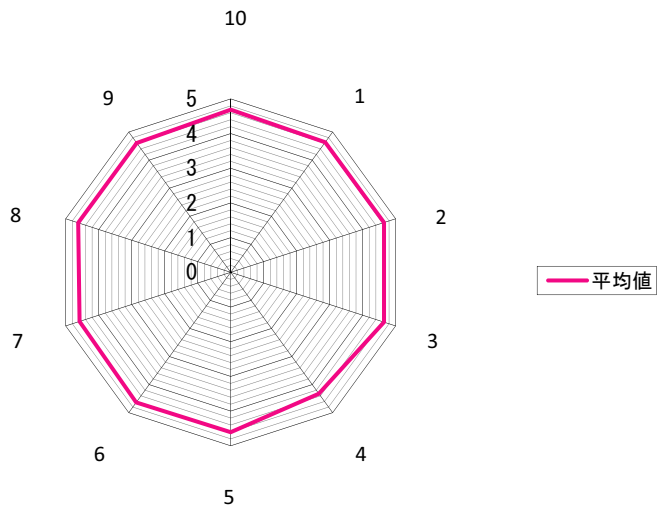
受講生も熱心に参加し，留学生との意見交換も活発に行われた。受講生の評価（総合評価が4.2）を見る限り，授業の目標は概ね達成できたものと判断される。具体的には，「三人の授業担当者が違った側面からコミュニケーションを語った点」，「学生との対話を作りながら授業を進めた点」，「事例を示しながら分かりやすく説明した点」，「考える活動，話し合う活動を多くとりいれて進めた点」などが受講生に評価されていた。また，「コミュニケーションにおいて言葉の選び方，用い方が重要であると再認識できた」，「国際社会では言語についてしっかり考える必要があり，考え直さなければならないと理解できた」など，好意的なコメントがよせられた。その反面，授業の進度が早すぎた，ノートを取る時間を確保してほしいなど，授業の進め方について辛口のコメントも寄せられた。ほか、受講生の数のわりに教室が狭かったなどの意見があった。

受講生から寄せられたこれらの意見を斟酌しながら，教師の実践力を高めることにどう発展させていくかを今後の課題として授業改善に取り組みたい。（原・畑江・伊東）

結果報告書

授業科目名　教師のための声とからだとことば
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　頃安　利秀，余郷　裕次，綿引　勝美　　回答者数　74　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	52	17	5				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	54	14	6				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	52	18	4				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	35	28	11				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	48	23	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	50	21	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	50	17	7				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	52	16	6				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	49	21	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	55	15	4				4.7



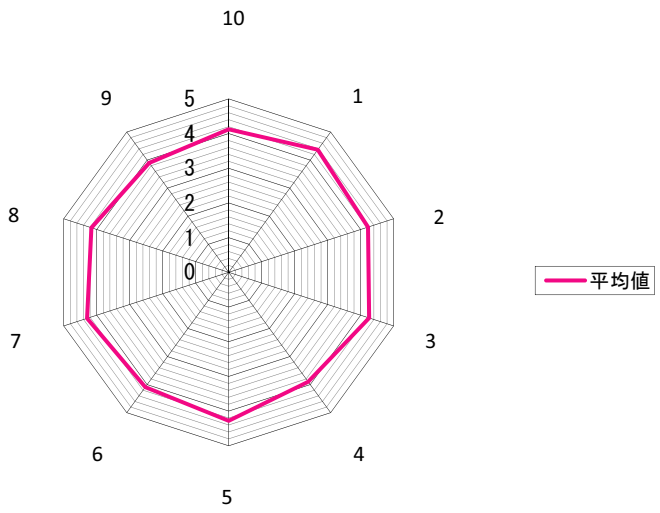
教員のコメント

「教師のための声とからだとことば」は広領域コア科目として行われており，国語・音楽・体育の教員が分担して担当している。
評価については，(4)の成績評価に関する項目以外は，すべて4.6という高い評価が得られている。(4)の成績評価については，各教員とも授業内容として実技的な要素を含ませているので，各教員ごとの評価の方法の違いについての説明が充分にできなかった結果，4.3という多少低い評価として現れたものと考えている。総合評価として4.7という高い評価が得られており，専門を異にする大学院生全体に対応した広領域コア科目としては，充分な成果が得られたものと考えられる。
この授業でよかったと思われる点については，「教師の実践力につながることを学ぶことができた。」また「自分の声とからだとことばに向き合うことができた。」との記述があり，教師としての実践力をつけるために，身体論に基づく授業内容の必要性が肯定的に評価されている。また感想として「大学の中だけにとどめておくのもったいないので，全国的に発信してください」という意見もあった。
今後も教師としての身体のあり方について，声とからだとことばから追究する実践的な授業を心がけていきたい。

結果報告書

授業科目名　学校危機管理研究
評価実施日　平成26年2月5日
担当教員名　大西　宏　　回答者数　89　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	46	33	8	1	1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	45	28	10	3	3		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	45	26	16		2		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	28	34	20	4	3		3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	43	31	12	3			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	36	32	15	5	1		4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	40	38	8	3			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	39	31	13		4	2	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	37	18	3	4		3.9
総合評価	**(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。**	35	38	12		4		4.1



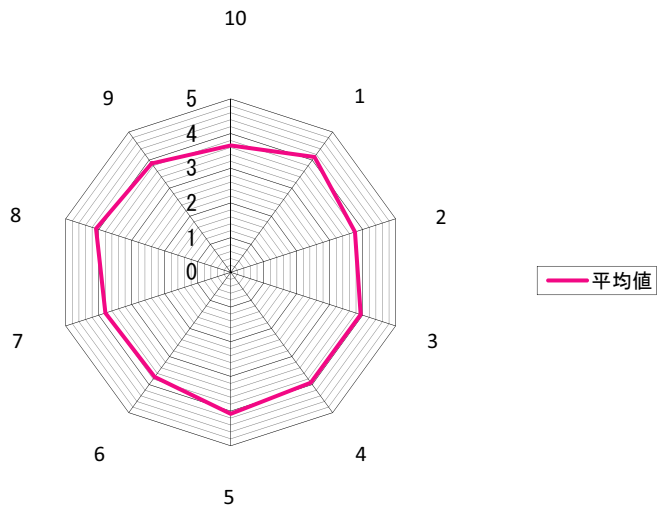
教員のコメント

評価の平均点は4．1となっているので，本授業は概ね肯定的に評価されていると思われる。本授業は実践力を修得することを大きな目的としているので，多くの具体的事例を活用した授業を進めてきたことが，項目2･3で高い評価を得ていると思われる。また，毎時間資料を提供し，適時パワーポイントなども活用したことが項目7･8で評価されているが，さらに写真･表などを効果的に活用することが必要と考えられる。項目9の評価を高めるためには，グループ討議や全体ディスカッションをもう少し取り入れることが有効と考えられる。受講生が多いのでなかなか難しいことだが検討してみたい。また，各項目において評価1･2を選択している者が数名いることも念頭において，さらに授業改善することを今後の課題とする。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅱ
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　100　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	44	35	12	6	3		4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	39	22	22	8	8	1	3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	42	29	13	7	7	2	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	49	22	12	7	10		3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	44	30	16	7	2	1	4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	31	35	14	13	6	1	3.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	36	30	18	7	8	1	3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	42	34	14	7	2	1	4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	35	31	23	6	4	1	3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	33	28	20	7	11	1	3.7



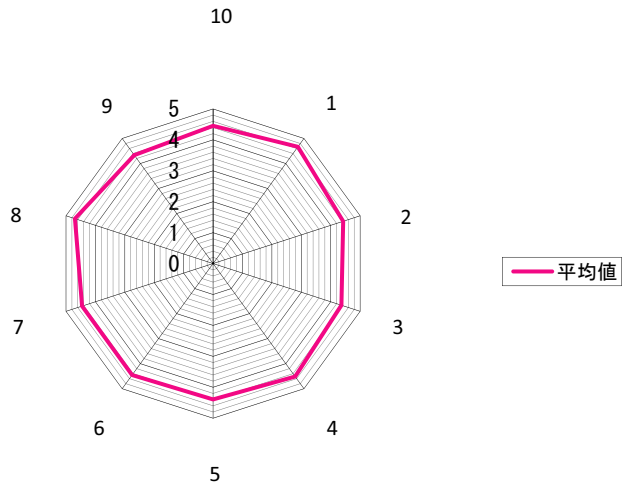
教員のコメント

「現代の諸課題と学校教育Ⅱ」は、25年度も110人を越える、大学院としては異常な人数での開講となった。学部とは異なり、多様な問題意識をもち、教職経験の有無による捉え方の違いや、教育学に関するレディネスの違いなどがとくに顕著で、多くの受講生の興味関心にストレートに応えられるような内容構成を考えることは事実上不可能な状態であった。最大の悩みは、抽選にもれたためやむなく受講したという不幸な学生が少なくなかったことである。おたがいにとって非常にやりにくいなかで忸怩たる思いをひきずりながらの展開であった。26年度はこの異常事態を解消することができたので、もう少しよい結果を得ることができそうである。

結果報告書

授業科目名　予防教育科学
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　内田　香奈子，安藤　有美　　回答者数　33　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	24	7	2				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	9	2	2			4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	19	8	5	1			4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	12	2				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	19	8	6				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	20	8	5				4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	21	7	4	1			4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	27	3	2	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	6	5	2			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	9	3	1			4.5



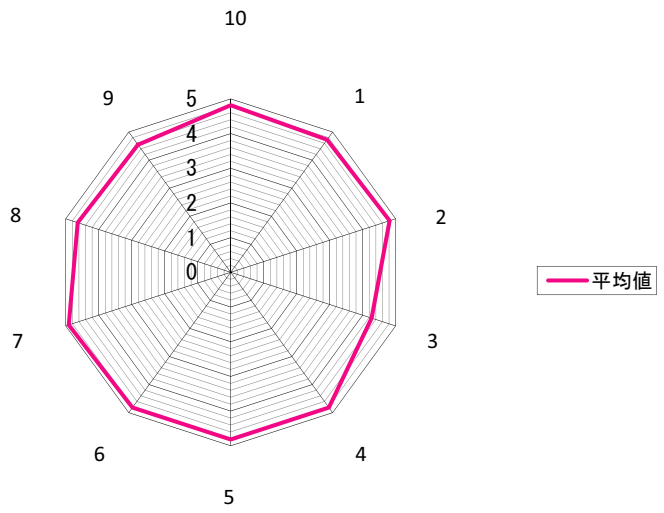
教員のコメント

本授業は、文部科学省「学校において子どもの適応と健康を守る予防教育開発・実践的応用研究事業」の一貫として開講された授業科目であり、大学院では今回で3度目の開講となる。総合評価として4.5の評価となり、概ね高い評価を得たものと思われる。
昨年度は（4）成績評価の方法の説明欄について4.2と若干数値が低かった。そこで、今年度は明確な成績評価の基準を設定し、説明を行ったことが評価の改善につながったものと考えられる。また、本講義ではグループワークやディベートを多く取り入れた授業を展開しているが、他コースの学生と分野を超えて意見交換が出来る点などが、大変好評であった。
ただし、（9）の授業への主体性・積極性を問う項目が他の項目に比べて数値が低かった。コメント欄から拝察する原因の一つとして、先述のグループワークやディベートにおいて、自ら積極的に発表できなかったとを評価した学生が低めの評価を行った点が考えられた。今後は、よりディベートなどへの参加度を高めることが出来るよう、教員側の教示方法の再考や授業内容の改善につとめたい。

結果報告書

授業科目名　近代教育文化史演習
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　梶井一暁　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	3				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2					4.8



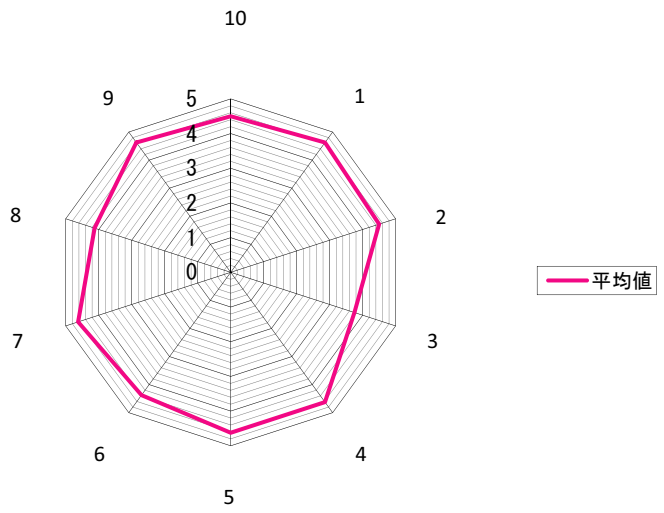
教員のコメント

おおむね積極的な評価が得られたと考える。授業は前年度（文献講読中心）から内容を大きく変更し、史料演習やフィールドワークを中心とする内容で構成した。「9授業に主体的・積極的に取り組んだ」で消極的な評価を回答する受講生が1名いたが、概して前向きに取り組んでくれたようである。よりよい総合的評価（10この授業を総合的に評価すると、よかったと思う）が得られるように、今後も授業改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名　教育哲学演習
評価実施日　平成26年1月23日
担当教員名　木内　陽一　　回答者数　　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	2	1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	3					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	3	2				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2	1				4.5



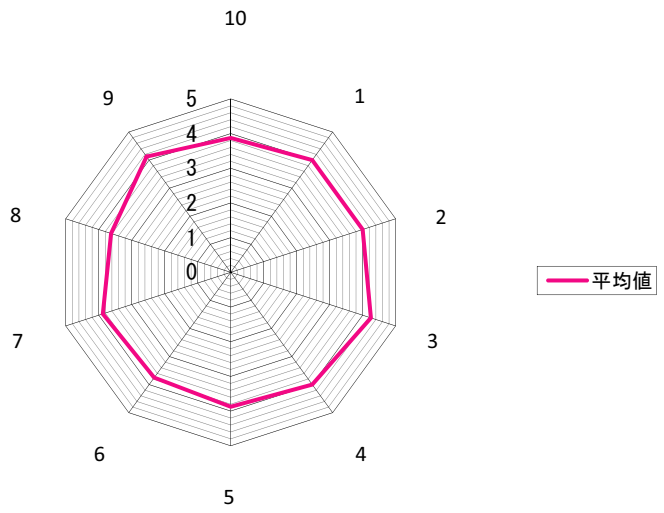
教員のコメント

使用したテキストは、西田幾多郎著『善の研究』(講談社学術文庫)の後半部分である。本書はかつて旧制高校生の必読書として、当時の若きエリートの座右の書とされていたが、じっくりと読みとおす事が出来た者がどの程度いたのか、大変に心もとない。十代のエリートたちの必読書に、現代の大学院生が果敢に取り組むことになったのが、この演習である。すでに前期の授業で、西田幾多郎の哲学の特質を理解できていたためだろう、総合評価が4．5というのは、大変に喜ばしい。教師の実践力の育成につながりにくい、との評価があるが、哲学と言うのは「漢方薬」のようなもので、効き目がないわけではないが、効能が出てくるまでにはずいぶんと時間がかかるものである。味のある教師になるためには、忍耐力も持ってほしいと願う。早く効く薬は毒性も強く、また効き目もたちまち薄れてしまうかもしれない。また、授業の進め方については、おおむね満足していただいているのは授業者として安心した。視聴覚機器の使用の評価が低い。この時点では出来ていなかったが、その後、教務担当事務職員のご指導で、実物投影機の使用方法を習得した。今年度の本項目の平均値はより高くなると思う。受講生の授業への取り組みは、非常に熱心であったと思う。「自分の考えを言葉で表現するのが世界基準」「発言しなければいないのと同じ」と何度も繰り返して議論への参加を求めたので、受講生は辟易したかもしれないが、積極的に参加できるようになった。学生が新聞も読まなくなった時代に、近代日本思想史の名著の読破を強要するという「破天荒」な演習となったが、この経験を糧として、受講生にさらに飛躍していただきたいというのが、年老いた授業者の願いである。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学演習
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	4	2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	5		1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		8					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	5	2				3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		6	2				3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	2	1			3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	3	1			3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	1				4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	6		1			3.9



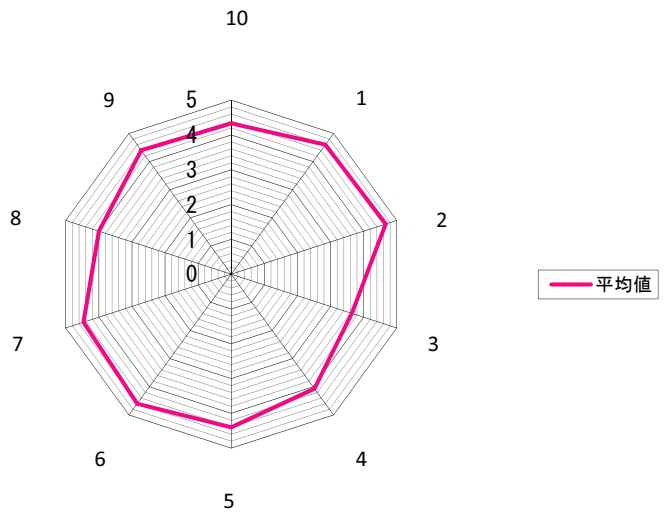
教員のコメント

本授業に対する総合評価は平均値が3.9であるが，評価4以上を選択した回答者が8名中7名であり，おおむね良好であったと言える。しかし，項(1)(2)(3)(5)(6)(7)(8)の7項目では評価3以下の受講者が複数名おり，全項目に対して4以上の評価をした受講生は3名にとどまった。これらは，改善の方向性を指し示している。因みに，総合評価を2とした受講者(1名のみ)は，5つの項目において評価3，2つの項目において評価2としており，他の受講生と比べてきわだって満足度が低い。本科目は高い水準に目標をおく専門科目であり，すべての受講者の要望に応えることは難しいが，専門科目としての質を落とさないことを最優先に，できるかぎり多くの受講者のニーズにも応えられるよう努力したいと考える。

結果報告書

授業科目名　精神医学文献演習
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　今田　雄三，小倉　正義　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	4	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3	1				4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	2	3	1	1	3.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3	2	1	1		4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	9	4	1	1			4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	11	2	2				4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	10	2	3				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1	3	1	1	1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1	1			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	4		2			4.3



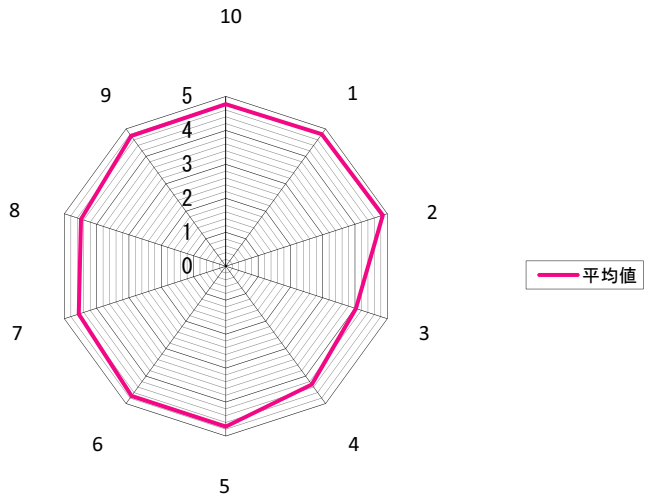
教員のコメント

質問10項中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると,よかったと思う。」の評価では4.3点と評価されて おり、受講生からは高い評価を得られたものと考える。唯一評価の平均点が4点に達していなかった、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、精神医学の英語の文献を輪読するという内容が表面的には教師の実践力の育成と関連して理解されなかった結果だと思われるが、専門領域についての知見を深めるため、必要に応じて外国語の文献に当たって知見を得るということは教育者として学問の本質に触れる機会を持つという意味では貴重な体験であり、今後そうした点について更に受講生に喚起を促したい。また自由記述ではグループ分けをして翻訳を分担する授業形態について「負担が多き過ぎなくてよい」という意見と「その回の担当者以外は退屈」という異なった意見がみられた。また授業への主体的な取り組みについても「グループで積極的に何度も準備に取り組んだ」という意見と「グループに積極的な学習態度がないと準備が大変になる」という正反対の意見もみられた。今年度は授業担当者が交代した最初の年度であり、外国語の文献講読についての基本的な取り組みの姿勢や、発表の準備の進め方、あるいは発表者ではないグループの授業での役割などについて指導が十分に行き渡っていなかった可能性が考えられる。効果的な授業の構成や学習準備については引き続き検討していきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学演習
評価実施日　平成26年2月27日
担当教員名　今田　雄三，葛西　真記子，吉井　健治，中津　郁子，小倉　正義，久米　禎子，新見　員子，粟飯原　良造
回答者数　36　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	29	7					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	5					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	8	6	3	1	2	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	14	4	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	26	10					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	27	8	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	10	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	9	3	1		1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	26	9				1	4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	8				1	4.8



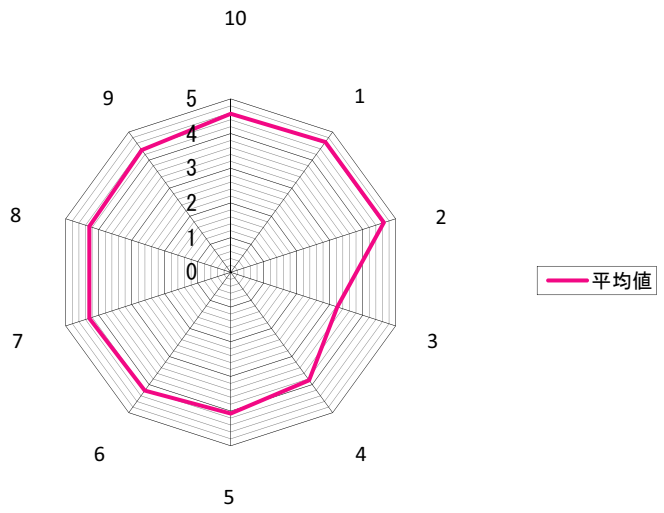
教員のコメント

質問10項中8項目での評価が4.5点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価すると,よかったと思う。」の評価では4.8点と評価されて おり、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考える。なお、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、評価の平均点が4.0点であった。これは決して低い評価ではないが、今後とも臨床心理士の実践の場として学校臨床は重要な位置を占めており、本授業で体験的に学んだ内容も学校現場での相談活動、教員との連携における実践力と関連することを明確に伝えるようにしたい。自由記述では小グループの深まり、受講生の主体的な活動の場になった、実践的な内容であった点などが評価されており、授業に関する不満や改善点については特に意見が寄せられていなかったが、今後も引き続き受講生の満足が得られる授業となるように十分な配慮を行いたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成26年2月12日
担当教員名　葛西　真記子　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	1	2	3	1	3.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	5	3		1	1	3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	4	3	1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	9	1				4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	8	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	8	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	7	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	6					4.6



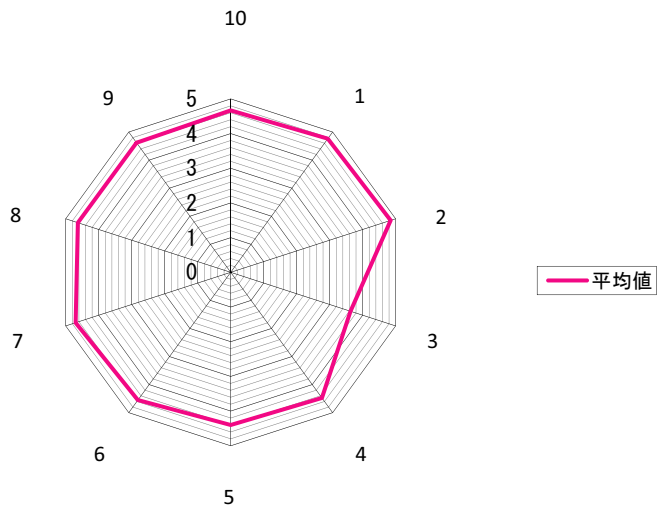
教員のコメント

本授業科目の総合的評価は、4．6であり、6割の受講生が「そう思う」、4割の受講生が、「ややそう思う」と肯定的な評価であった。その中でも低かった項目「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」と、項目「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。」であるが、前者については、毎年この項目は他の項目より低く、本授業内容が臨床心理学の専門分野であること、特に、病院臨床等を専門とする者にとっては必須の内容であるが、学校教育においては、関係が薄いことが影響していると思われる。専門的な検査結果を理解することには役立つということを説明しているが、やはり、教師の実践力の育成にはあまりつながらないようである。しかし、その中でも5割の受講生が「つながる」と答えている点も評価できると思われる。後者については、成績評価の方法を初めに説明し、シラバスにも記載してあるが、出席が足りなかった学生や、確認試験の結果がよくなかった学生がいたので、その影響ではないかと思われる。そのほかには、項目「(5)授業の進む速さは適切であった」については、自由記述の欄に、「少し速すぎてついて行くのが難しかった」というコメントがあり、受講生の到達程度に合わせて進めていく必要性を感じた。他の自由記述では、本授業の進め方(演習を中心としている、質問の時間を設けている、グループでの話し合い、発表を義務付けている)を高く評価しているものが多かった。また、授業の雰囲気についても、「質問しやすい」「暖かい」と肯定的なコメントがあった。受講生自身も「興味のある専門的な分野であり、積極的に取り組んだ」とコメントしている者も数名あった。来年度もこの評価内容をもとに、さらに授業改善を行いたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成26年2月5日
担当教員名　佐藤　亨　　回答者数　21　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	3				1	4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	6	2	1	2	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	8		1			4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	6	1		1	1	4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	6		1		1	4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	4	1			1	4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	5	1			2	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	6	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	3	2				4.7



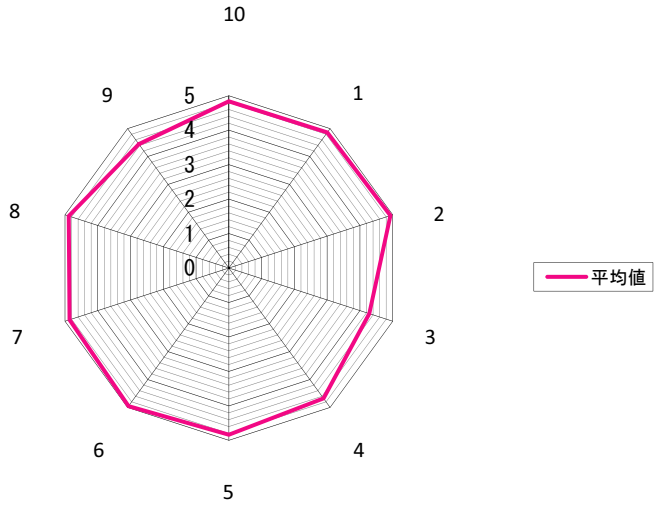
教員のコメント

総合評価を含め，ほぼ全ての項目で平均4.5以上の評価を得ており，本授業は概ね受講生にとって満足のいくものであったと考えられる。唯一「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」のみが，平均3.6と4.0以下となっているが，これは本授業が教員の実践力向上ではなく，臨床心理士としての力量形成を目標としているため，やむを得ない点であると考えられる。また，全体に低い評価となった受講生が1名いたが，自由記述欄に特に何も書かれていなかったため，低い評価となった理由は不明である。なお，他の受講生の自由記述欄の記載については，「専門的な力がついた」，「説明がていねいでわかりやすかった」など，概ね高評価であった。

結果報告書

授業科目名　心理療法研究
評価実施日　平成26年2月7日
担当教員名　古川　洋和　　回答者数　43　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	37	6					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	40	3					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	22	12	7		1	1	4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	33	8	1		1		4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	37	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	41	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	37	6					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	38	5					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	14	2	2			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	37	5	1				4.8



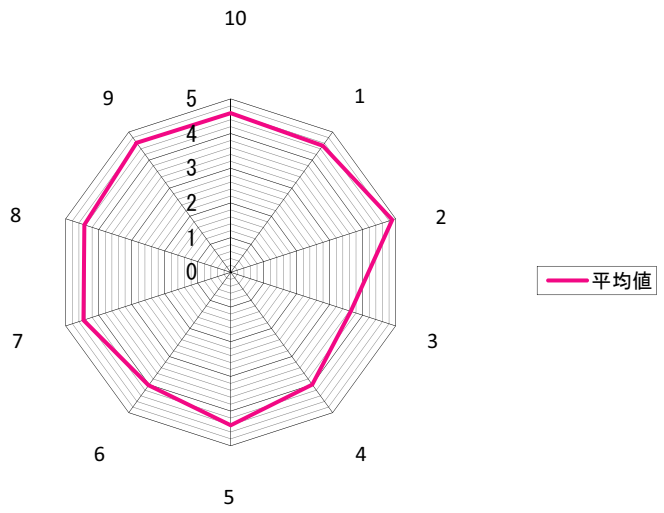
教員のコメント

「(3)教師の実践力の向上につながる内容であった」および「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」については、評定平均値が4.5を下回っていた。教師の実践力の向上に関する事項については、本講義受講者の大半が臨床心理士を目指す大学院生であり、教育以外の領域の内容も含めなければならないため、このような評定値となることは仕方がないと思われる。授業への主体性・積極性に関する事項については、課題の設定等で工夫する必要があると考えられる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅰ
評価実施日　平成26年1月30日
担当教員名　中津　郁子，久米　禎子　　回答者数　39　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	24	12	2	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	4					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	4	10	3	4	3	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	10	9	2	1	1	4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	20	16	2	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	17	13	3	5	1		4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	24	10	4	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	11	4	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	26	11	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	26	10	3				4.6



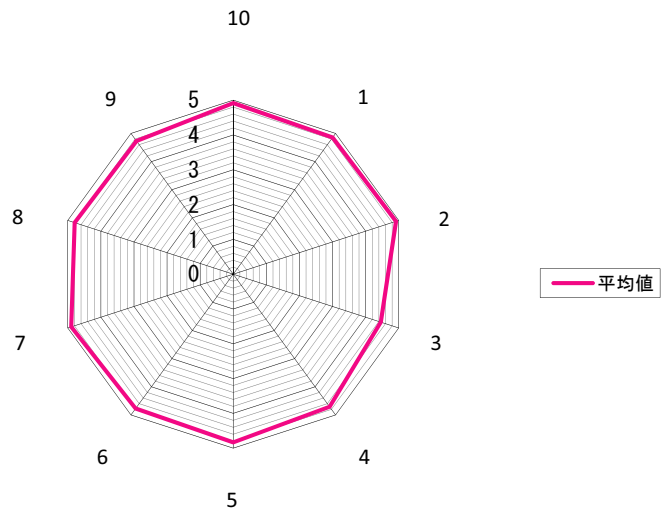
教員のコメント

この授業は例年，教員2人で前半後半に分かれて授業を行なっている。前半は講義形式の多い授業だが，演習を入れたり，振り返り用紙を使って学生の反応を確かめつつ行なった。後半のグループごとの調べ学習形式の授業では，グループの進み具合を確認しつつ行ない，最後に全体的な振り返りを行なった。総合評価が4．6であり，昨年同様、概ね学生にとって満足のいく授業であったと考えられる。自由記述の中では，【2】よかった点として，「心理臨床に必要な概念を学べた」「毎回の授業が心に残るものだった」という意見が多く，「個人分析につながった」というものもあった。特にグループ発表によって，グループ内での話し合いや発表などは「大変だった」が「積極的・主体的に学ぶことが出来た」という人が多く見られていた。前年に引き続きグループ別の調べ学習の満足度は高いと考えられる。しかし，【3】改善すべきとする点では，少数意見ではあるが，グループ学習のテーマ選び方や，教員の発言や批判に終始しているという態度を改善してほしいという厳しい意見も見られていた。このことに関しては真摯に受け止めて改善していきたいと考える。【4】授業に積極的・主体的に取り組んだ理由を聞いたものでは，「調べたことを発表するという形態であったから」という義務的な意見も見られていたが，「知識の吸収を楽しいと感じたから」「自分に向き合う貴重な時間であると感じたから」「調べること，勉強することの大切さを学べたから」など前向きで意欲的な意見も多かった。【5】その他，感想のところにも数人の学生の記述が見られ，「充実した時間が過ごせた」などの謝辞と，「グループで仕事をした人，しない人の評価が同じかと思うとやりきれない」などの不満も見られていた。総じて，今年度も，この授業が学生にとっては良くも悪くもインパクトが強く，点数的な評価に見られるように概ね良い評価なのだが，学生の中には，心を揺さぶられ，治まりがつきにくい人もいたようだ。なお一層，個別の配慮が必要かと考えられた。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学演習
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　48　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	41	7					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	44	4					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	30	11	6	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	37	9	1	1			4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	40	8					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	39	7	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	43	5					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	40	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	36	11	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	44	4					4.9



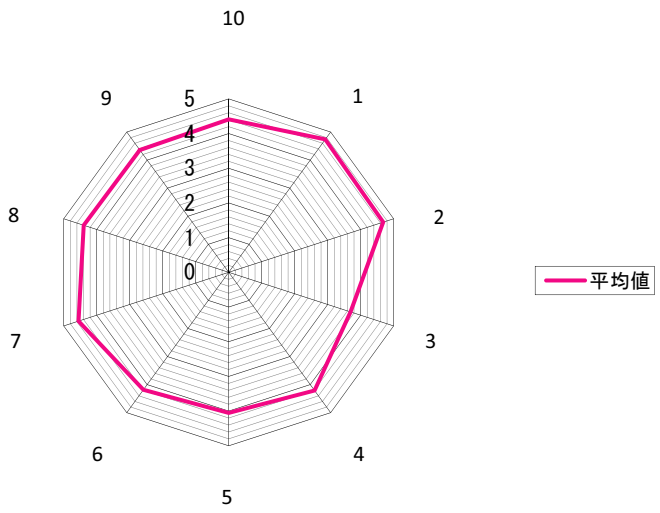
教員のコメント

質問10項目のすべてにおいて評価の平均値が4.5点以上、そのうち9項目では評価の平均値が4.7点以上であった。特に(10)の「この授業を総合的に評価すると,よかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考える。昨年度は評価の平均点が4.2点であった、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しても、評価 の平均点が4.5点に達していた。これは臨床心理士の実践の場として重要な位置を占めている学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という観点を強調し、本授業に教師の実践力育成とつながる内容を盛り込んだことの効果によるものだと思われる。なお、授業の改善点として自由記述に「毎回前回の演習用紙に教員からの書き込みという形でフィードバックが貰えることが励みになったが、一部教員の字が読みづらいことがあり残念だった」という意見があった。この点については、何らかの工夫を次年度では考えたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学統計法
評価実施日　田中　秀紀
担当教員名　平成25年12月22日　　回答者数　39　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	29	8	1			1	4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	5	2	1		1	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	8	11	3	2	3	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	12	3	4		1	4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	19	10	4	5	1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	10	4	3	1	1	4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	24	11	3			1	4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	11	3	2		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	15	5				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	11	3	2			4.4



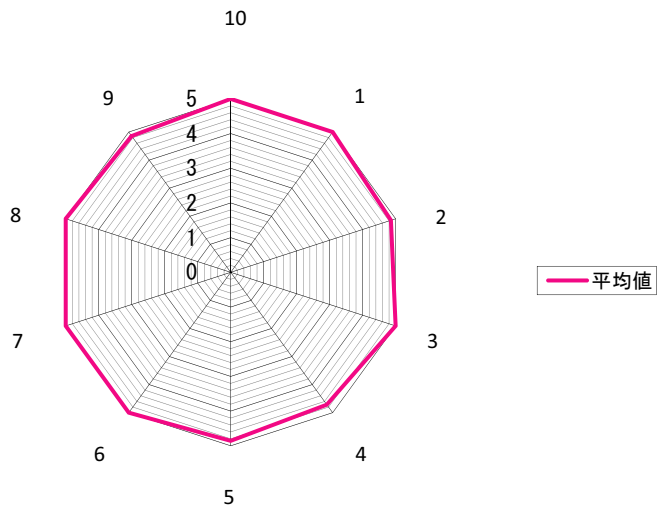
教員のコメント

心理統計という学生が最も苦手としやすい分野の授業ではあったが、学生はよく取り組んだように思う。授業は限られた時間の中でどうしても伝えないといけない基礎知識や理論があり、理解するのに後れを取った学生もいたと思われる。今後は、学生の理解に応じた授業内容に変更することも必要となるかもしれない。一方で統計の理解やエクセル・統計処理のソフトの扱いについて全く理解できていないと思われる学生もいた。そのような学生には補習を行うなどきめ細やかな対応が必要となってくると考えられる。

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉演習
評価実施日　平成26年2月6日
担当教員名　木村　直子　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



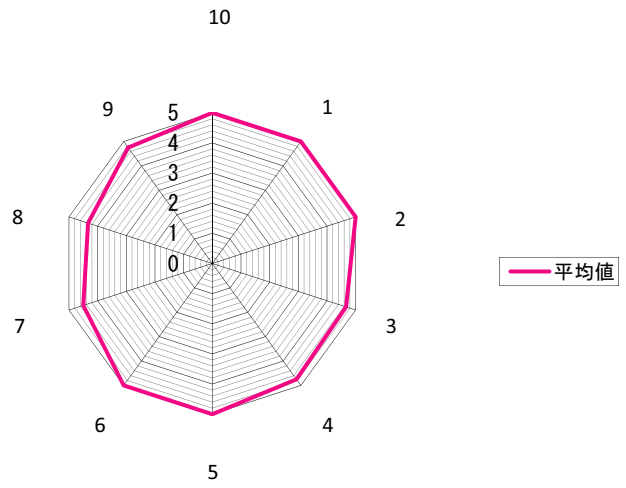
教員のコメント

今年度の演習は受講生も少なく、授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができる状況にあった。例年感じていた受講生の予習・復習・授業外学習の少なさという課題に関して、今年度も、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていくための授業改善を試みた。演習は大きく2つの側面から構成した。1つは、具体的なケースについての処方箋や援助の方針を考える事例研究、もう1つは、援助や援助者の価値に関わる古典を読み深めるレビュー研究である。昨年度レビュー研究に個人差が大きく受講生の学びにつながりづらかったことを踏まえて、今年度は古典に示されている理論枠組みを用いながら、現代の事例を考える形式にした。その結果、すべての院生から「学ぶことがたくさんあった」等の評価を得ることができた。

結果報告書

授業科目名　こころの発達支援演習
評価実施日　平成26年2月28日
担当教員名　浜崎　隆司　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				1	4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1			1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



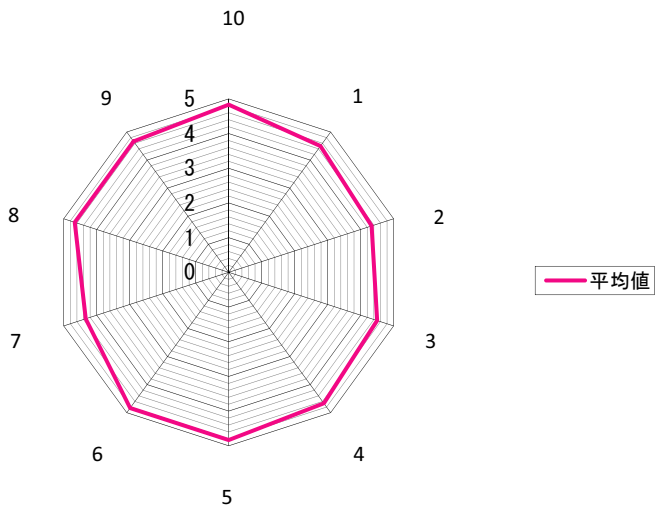
教員のコメント

受講生で指定した文献を分担をし要約したものを発表し討論する演習形式の授業である。したがって、修士論文の作成に役立つものであるが、教師の実践力の育成という視点からは、評価しにくい受講生があった。シラバスや授業開始時にこの授業の主旨や目標等を明確に述べる必要がある。その他については、概ね高い評価を得ており、次年度以降も最新の論文、書籍等を用いて討論を中心とした授業を進めたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理演習
評価実施日　平成26年2月6日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



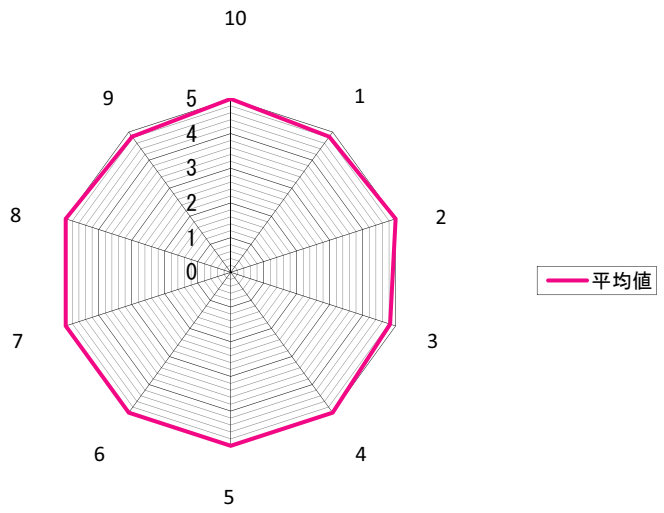
教員のコメント

すべての質問項目において4以上の平均評価点を得ていることから，概ね高い評価を得た授業ないようであったと判断される。ただし，質問項目「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」と，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった。」については，わずか1名ではあるが評価点3をつけた受講生もいたことから，今後の授業では，さらに専門的な知識を深めることに貢献する内容を検討することと，配付資料についてより適切なものを検討することが必要である。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学演習
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　湯地　宏樹　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5					1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



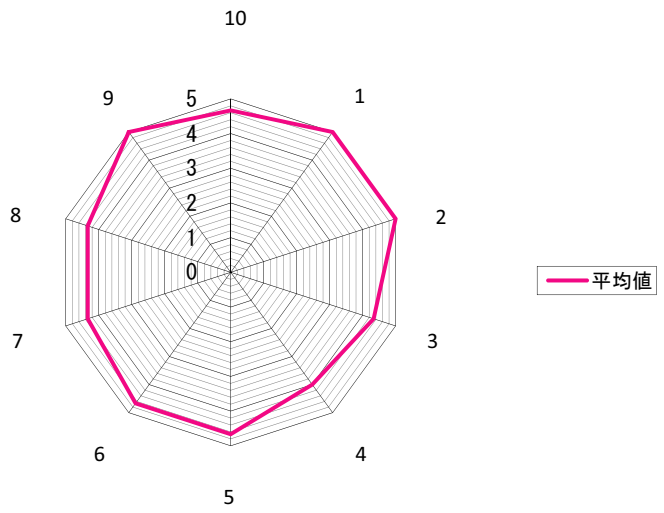
教員のコメント

今年度の受講者は6名であった。本演習では、実証的かつ理論的に究明するための研究方法及び研究発表の方法などを修得することを到達目標としている。そのために前半は、とくに運動会などの「行事」をテーマに設定して、各自調べてきたことをパワーポイントにまとめて発表し、それをもとに討論した。後半は、「高校生を対象に幼児教育の授業をする」という課題で、実際に各約45分間の模擬授業を行ってもらった。どの受講生も「行事」についてユニークな視点で発表していたし、模擬授業でも導入・展開を考えていたり演習を取り入れたり工夫しており、討論においても積極的に発言していた。授業評価では、3つの項目に「4」の回答もみられたので、受講生がさらに実践力を身に付けられるように配慮していきたいと思う。来年度は、学生が主体的に取り組める演習に考慮しつつ、文献もじっくり購読しながら熟考する時間も大切にしていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論演習
評価実施日　平成26年2月5日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1	1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



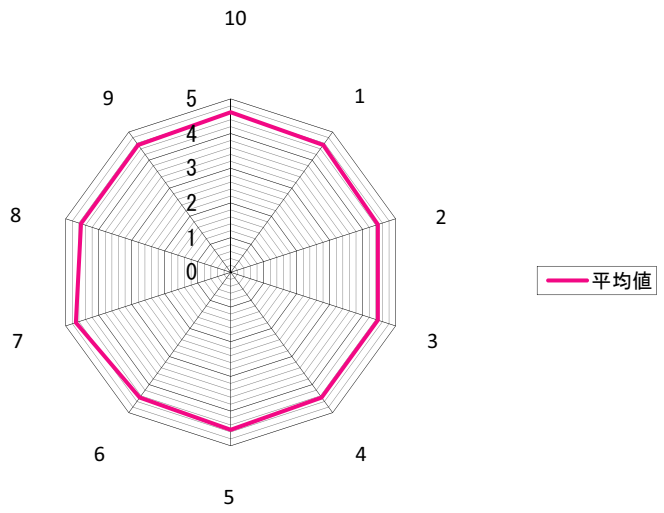
教員のコメント

受講生全員が主体的･積極的に取り組むことが出来たと自己評価されているのは大変よかったと考えている。受講生の積極的取り組みを促すため、保育実践につながる資料を検討の対象として、その背景にある歴史や理論を、受講生が自ら探る手立てを提示することができた。今後とも受講生の興味にもとづきつつ、論理的思考につながる授業の工夫を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名　現代総合学習論
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　谷村　千絵，小西　正雄　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	4	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3	2				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	4	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1	3				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	4					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	3	1				4.6



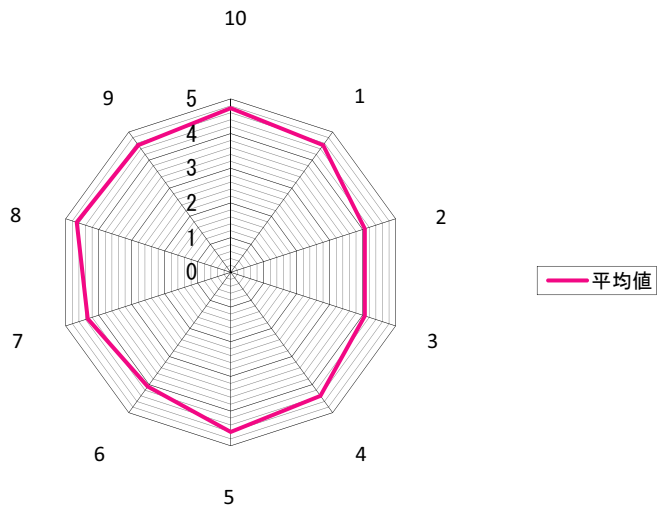
教員のコメント

概ねよい評価であった。良かった点について「学生同士の意見の交換が盛んに行われたので、考えを深めることができてよかった。」「教育について深く考えることができた」「ビデオをみることで新しい気づきがあった」「授業で使用される資料がよかった」というコメントがあった。改善点については特にコメントはなかった。学生自身の授業への態度については、「発言をたくさんした」「教育の深い部分に触れることができた」「あっという間に時間がすぎた」とあった。また、その他の感想には「ビデオや絵本が面白かった。教育にもさまざまな問題があることを知ることができた」とあった。ビデオや絵本を見て意見を出し合う形は、学生の思考を促し発展させていることが分かった。

結果報告書

授業科目名　現代教育人間論
評価実施日　平成26年2月20日
担当教員名　谷村　千絵，近森　憲助，太田　直也，田村　和之　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	2	1	1			4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1	3	1	1		4.1
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1	5	1			4.1
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	5	2				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	11	2	2				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	2	3	2			4.1
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4	3				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	3	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	2	1				4.7



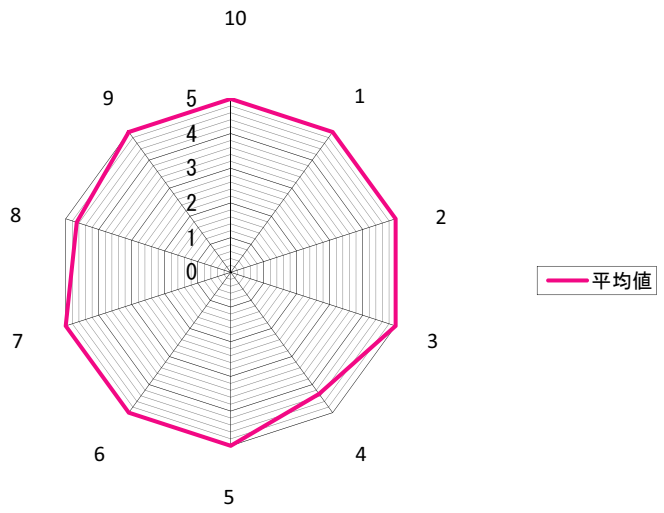
教員のコメント

概ねよい評価であった。この授業のよかった点として「複数の先生方の考えを知ることができてよかった」「未知の世界に触れられた。院生さん（ストレート）の考えがきけてよかった」「いろんな学びをすることができた」「刺激的だった」「教師のあり方を考えなおす授業で論文のヒントにもなりました。」「さいごのシェアリングをきいて、たくさんの新しい感想があった」「先生方がいいたいことをいって、学生が考えたいことを考える点」「自由な思考を働かせられたこと」とある。改善点として、「シラバスを現実に合わせる」という指摘があった。シラバスと異なった点は、4人の授業者の講義順である。講義のオリエンテーションでは、その理由を説明しているが、次年度から順序に変更の可能性があることをシラバスに明記するようにしたい。学生自身の授業への取り組みについて、以下のコメントがあった。「大学院だからこそできる講義だったと思う。毎回、よく考えることができた。」「分からないなりに頑張った。」「授業後も話し合いをするときもあった。」「面白かったから。」「たくさんのことを考え続けた。」「常に思考をめぐらすことだできた。」そのほかの感想として「来年もぜひこの授業を続けてください」「最高でした」「授業は好きで楽しかったです。人数が多く、ほとんど一番乗りで席取りをしました。」とあった。本授業の内容は極めて抽象度が高く、難しい内容も多いが、受講生の多くが旺盛な知的関心を示してくれた。そして、授業内・授業後にも思考する時間が生まれていたことは、大変すばらしいことであったと考える。

結果報告書

授業科目名　総合学習カリキュラム開発演習
評価実施日　平成26年1月14日
担当教員名　村川　雅弘　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



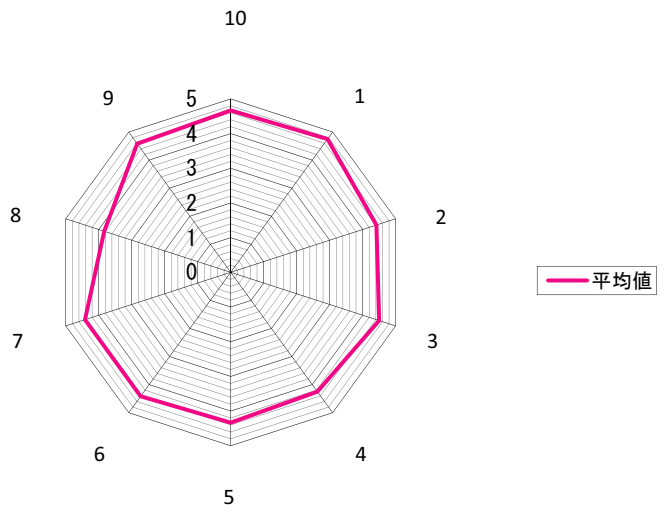
教員のコメント

受講生は4名であったが，一人3回程度の発表と全員による協議は活発であった。1名は病気のために途中から欠席しているために，アンケートは3名分である。殆どの項目で高い評価を得ている。自由記述によると，「よかった点」としては「具体的な事例を紹介されたので自分が教員になったときに真似したいと思うイメーが時できた」「総合的な学習の時間の運用と効果が明確になった」「実際に現場で役立つ，実践的な手法や授業を進める上でのポイントをたくさん学べた」「ただ事例を読むだけでなく，それからの学びが深まった」というように，私が研究上で開発したりかかわった学校現場の具体的な事例を元に，各自による分析や全員による協議を行ったことが有効だったと考えられる。改善点としては「教室の機器不良」が書かれていた。授業実施に先立ち，施設・設備の点検・整備が必要である。また，「授業に主体的・積極的に取り組んだ」理由として「面白い取り組みばかりで現場で実践したいと感じたから」があった。授業で取り上げた事例が適切であったと考えられる。基本的には，次年度以降も同様の内容・展開で進めていきたい。受講生の数については，平成25年度後半より，国内外において総合的な学習の時間に関して，その意義や必要性，成果について文部科学省の報告やマスメディアの報道等が盛んに行われてきているので，増加することが期待される。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　谷村　千絵，金野　誠志　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	3					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	7					4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	6					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	5	2				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	6	1				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	3	2				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	4		1			4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2	6				3.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2	1				4.7



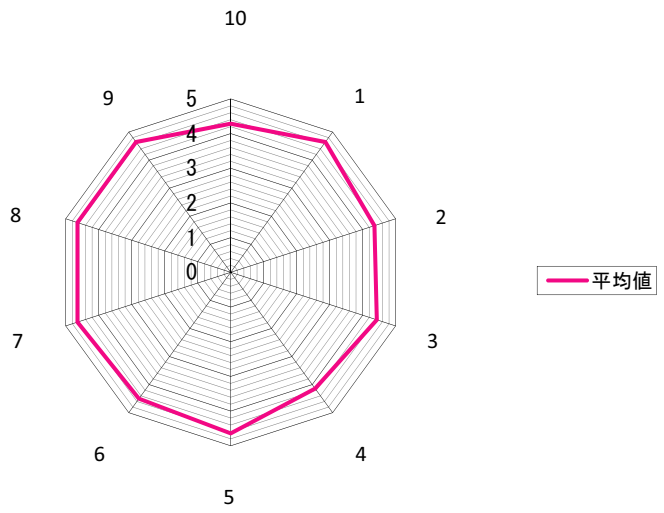
教員のコメント

概ねよい評価であった。良かった点については「考えてきたものを皆でシェアする点」、「多くの人と意見を交換し、新しい気づきがあった」「隔週で（グループワークが）行われるのは、じっくり読めてよかったです。グループで話し合うと、それぞれの視点があり、面白かったです。」「一冊の本を最後までしっかり読めたこと。グループで様々な意見を聴きながらまとめたこと。」、「課題方式であったこと、本を読んでこないと授業についていけないというプレッシャーのもとでできたのでよかった。」、「一章ごとに要旨をまとめていくことで、詳細な内容や参加者の多様な考えがわかった。」「二週に一回という形で、「自立学習することができ、理解が進んだ」、「話し合うことにより、みんなの意見が聞けた」「本を読む機会が設けられていた」とあった。文献講読の授業で、隔週で読書のための時間を設けた。学生の読書を促すためであるが、効果があったと思われる。もっとも、読書のペースは個人差もあり、早く読める学生からは、改善点としてグループワークや発表の時間をもっととりたいという意見もあった（1名）。また課題図書を夏休みに読むようにすればよいという指摘もあった。前者については、積極的な意見なので取り入れたいが、多くの学生がこのペースがよいといっているのも事実である。後者については、学生の努力を期待したい。また、読んでこれない弱い意志をもつ人（自分も含む）のために、前日17時にワークシート提出などの対策も必要か、との意見もあった。これについても、学生の努力を期待したい。グループ構成の仕方やスケジュール確認の徹底についても改善が指摘された。グループによっては話しにくい状況もあったというコメントもあったが、机間巡視をして必要を感じた場合は介入しているが、来年度はさらに気を付けたい。なお、課題図書の選定理由が不明確、また課題図書の購入させないでほしいとのコメントがあったが（同一者）。課題図書の選定理由についてはシラバスと授業オリエンテーションで説明し、課題図書は本学図書館と研究室から複数貸し出し可能にもしており、何人かが利用していた。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　金野　誠志　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	1	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5	2				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4	2				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5	2	1			4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	5					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	5					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	5					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6	2				4.3



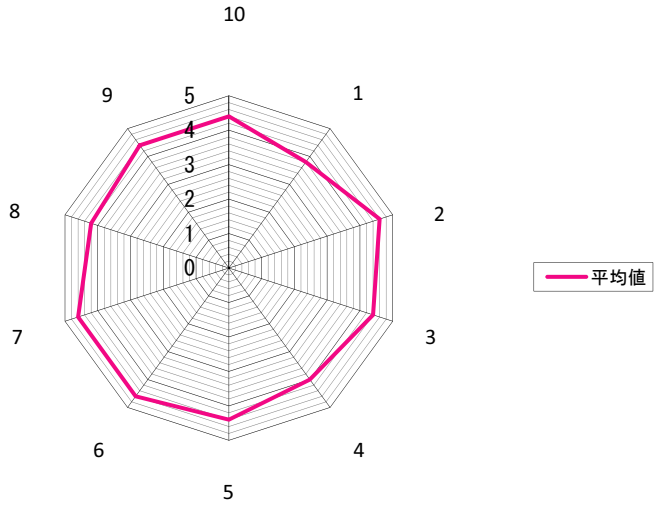
教員のコメント

授業を受ける者のレディネスに大きな差があり、授業を受けるに当たっての知識が不足している院生の底上げはおこなってきたため、授業の内容、取り組みについては、概ねよかったととらえている。ただし、それでも、授業を受けるに当たっての知識が不足している院生がいることは確かで、授業外での予習を促すなどの対策も今後、考えてたい。成績評価の説明については、初回、第8回終了時、最終回と3度行い、その内容もペーパーにして配布している。他の項目より評価が低いのは、その際の内容を十分理解できていないためであると考えるので、もう少しかみ砕いて説明をしていきたい。他の進め方については、特に、問題はないと考える。授業では、毎回グループワークを取り入れ、積極的な参加を促したことが好評であった。今後も継続していきたい。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅰ（基礎研究）
評価実施日　平成26年2月7日
担当教員名　田村　和之　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	3		1			3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	3	1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	4					4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	3					4.4



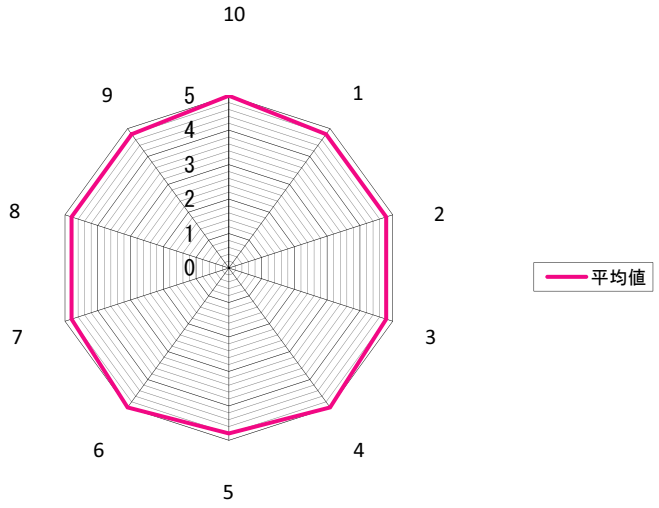
教員のコメント

今回の授業は食育を中心テーマとした結果、前年度と比べて内容が単一的になってしまい、それが評価を総合的に下げてしまったようである。次回はこれを踏まえ、もう少し授業でカバーするテーマを増やし、学生にも様々な教材例を提示できるように心がけたい。ただし、学生には新しい視点から教材を見ることができたので、授業本来の目的は達成できたものと考える。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅲ（実践研究B）
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　田村　和之，近森　憲助　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



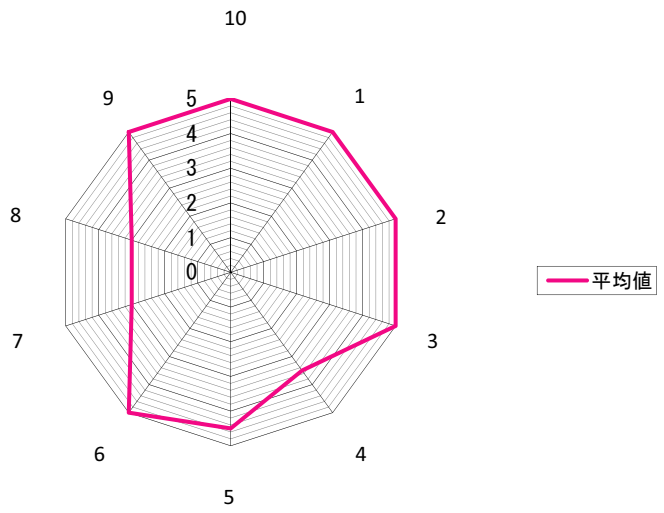
教員のコメント

本授業では「生活と水」を中心テーマとして日本やモザンビークでの生活と水に関することを中心に模擬授業を繰り返し行った。実際に我々の生活とは違うアフリカの子どもたちの事を思ったり、日本とは違う「水」の考え方に直に触れることができ、学生は非常に楽しかったようである。次回もこのように、通常の授業だけではなく、国際的な視点を取り入れて実践授業を行って行きたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実践論
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1	1				3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。			2				3.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。			2				3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



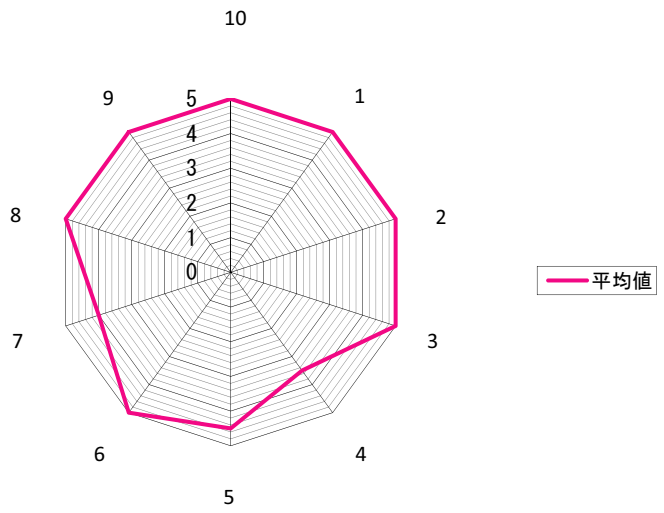
教員のコメント

「(7)教科書や配布された資料は，適切であった。」に関しては、この授業は、教育臨床的授業であり、授業分析も動画記録などを元に話し合い形式で進められるので、教科書はなく、参考著書は当初に示してあるだけで、活用は受講者に任せたため、「授業の中で」活用した意識がなかったと考えられる。「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」に関して、カンファレンスの時の説明など板書等で、丁寧に進めるべきであったと思われ、動画記録は指導の見直しに活用されており、授業としての視聴覚機器の使用は充分されていたと思われる。授業者がさらに動画記録を活用したカンファレンスにするなどの工夫が必要という事であろう。受講者の「発達障害幼児の支援に関する指導者」として、技量は高くなってきており、この授業を通じての学びは今年度も大きいものと考える。

結果報告書

授業科目名　社会資源開発運用・連携論
評価実施日　平成26年1月28日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1	1				3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



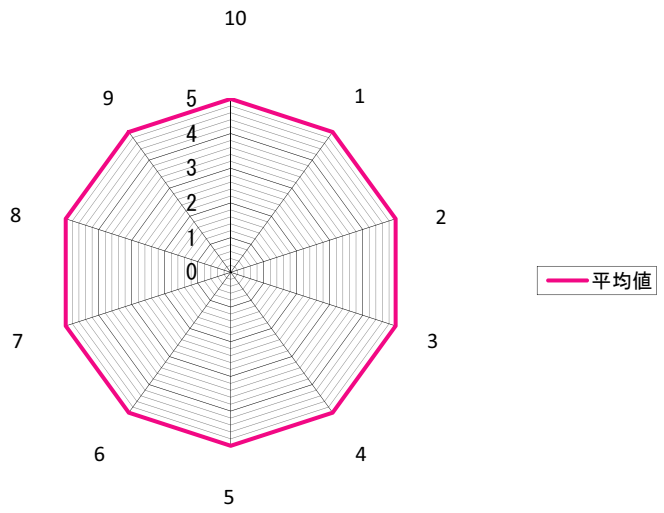
教員のコメント

この授業の最初に期末レポートの内容を伝え、後期を通して、受講者が「資源開発」に取り組むことができるように工夫している。この取り組みとレポートとしてのまとめ方を評価しているが、充分成績評価の説明がなされていなかった事を反省し、次年度（今年度）の留意点としたい。授業資料としては、大学院生には、基本として、すべてを配布する形式を取っていない。自身の必要な箇所を、また、参考となる箇所をデジカメなどで、入手するように勧めている。今後も、「知識を与える」授業ではなく、院生「自ら、考え、実践の指標を自ら探る」、コーディネーターとして校内、および、地域の特別支援教育の推進に尽力できる実践家を養成する授業として展開していきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育課程特論演習
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　高橋　眞琴　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



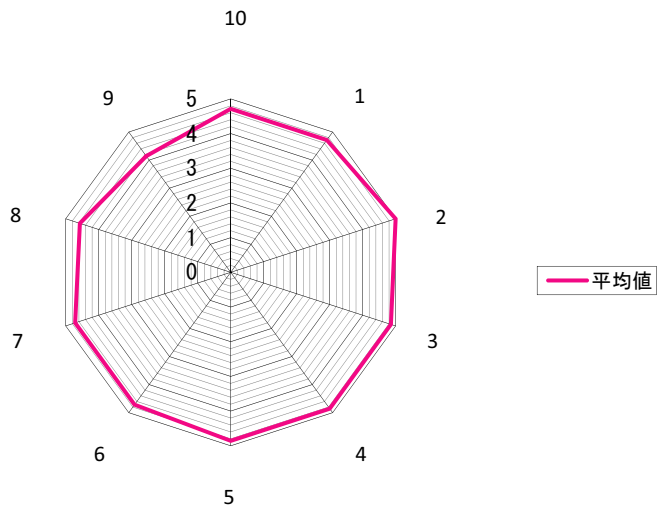
教員のコメント

本授業の受講生は、いずれも学校教育での教育経験を有しており、特別支援学校学習指導要領の内容や特別支援学校の教育課程について、受講生の関心に基づき、授業を進めた。受講生も討議等に熱心に参加し、問題意識をもって相互に意見交換を行っていた。本授業終了後も研究会開催の要望があったため、追加で1回研究会を開催した。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育指導特論演習
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6		1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4	1				4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



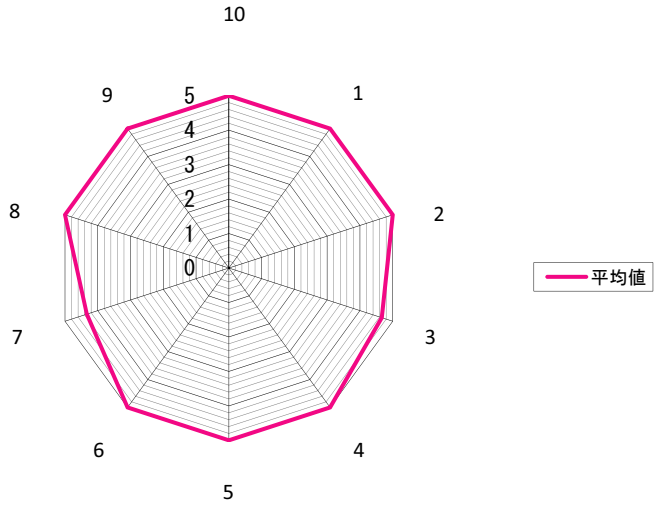
教員のコメント

授業の内容に対する評価は、4.7～5.0、授業の進め方に対する評価は、4.6～4.9であり、共に評価は高い。特に授業の内容において、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」という項目では、全員が「そう思う(5)」と評価している。知的障害教育における進路指導を焦点をあて、授業内容として設定したことは、適切であったと考えられる。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床支援技法演習
評価実施日　平成26年1月31日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2		1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



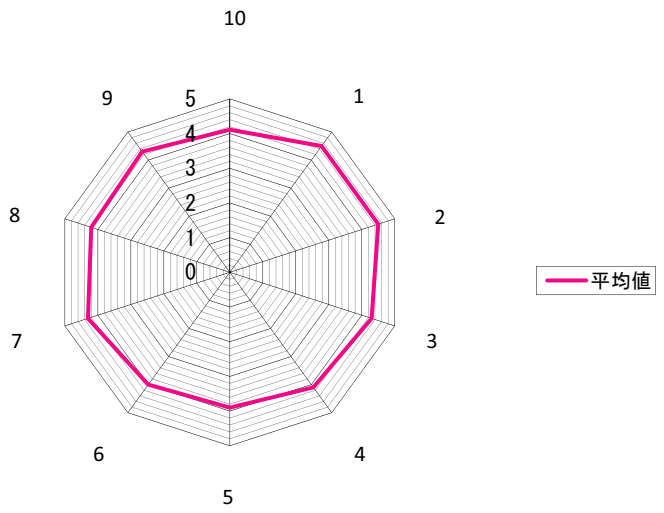
教員のコメント

少人数の授業であり、授業中の討議が丁寧にできたことが上記評価の結果になったと思われる。受講生は全員、毎回の授業課題に対する予習を欠かさず行い、資料準備等で生じた疑問点などにも積極的に取り組んでいた。そうした姿勢から、授業時間内での討議も活発に行われ、派生する問題について考えを深めることができていたように思う。今後も引き続き、受講生が主体的に取り組みやすい授業設定となるよう注意して行きたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学習支援演習
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　島田　恭仁　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	5					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5	2				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	5		2			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	3				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	5	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	8					4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	7					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	6	1			1	4.1



教員のコメント

10項目中4項目(問1・2・8・9)で，受講生10名全員(含，聴講2名)が5または4の高い評定を行ったことから，授業概要と授業内容には整合性があったこと，専門的知識を深めるのに役立つ内容であったこと，板書の仕方は適切であったこと，また，受講生は授業に主体的・積極的に取り組めたことが確かめられた。特に，問1・問2で5の評定が多かったことから，授業概要の到達目標に示した専門的知識(検査結果に基づいて知的障害児や発達障害児の支援計画を立案する技法)を浸透させることができたと言える。また問3・問7でも5の評定が多かったため，教師の実践力の育成につながる内容であり，配布した資料類も適切であったことが分かった。

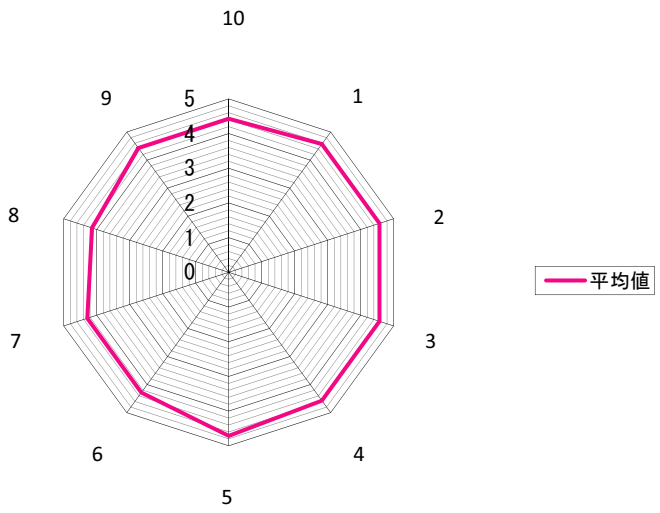
近年，新しい認知能力検査が次々と開発されているため，従来の各種検査の実習に加えて，WISC-Ⅳの実習も本格的に導入し，さらにK-ABCの改訂版であるKABC-Ⅱの内容説明も補足した。このように実習内容が増えたため，各種の資料類を周到に準備し，グループ内での意見交換をしやすくしたことが，理解を促すために功を奏したのだと言える。

しかしながら，問5で2の評定が見られ，問6では3の評定が多かったことから，授業の進度が速くて分かりにくく感じた受講生もいたことが分かった。今回は特別支援教育の専攻生のみでなく，他専攻から聴講に来た受講生もいたため，授業の進度について来にくかったのかもしれない。また，専攻生であっても，実習量が増えれば増えるほど，ついて来にくくなる院生が増えると推察される。今後，実習内容をより精選して，基礎力を涵養するとともに，応用力を向上させる方法について，検討してみたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児支援医学演習
評価実施日　平成26年2月3日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	2				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	4					4.4



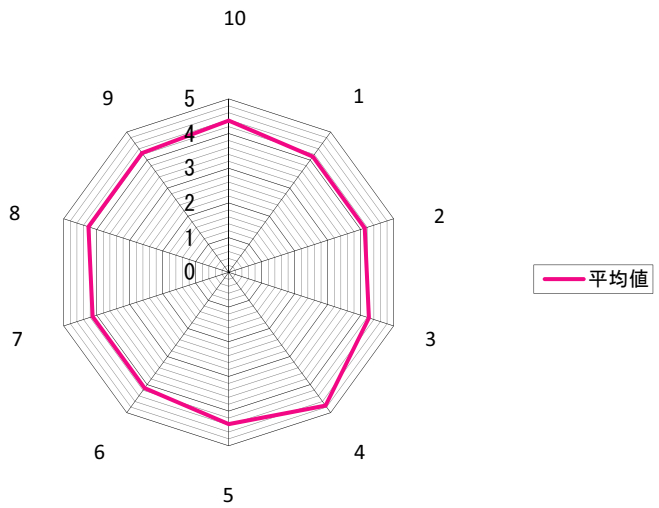
教員のコメント

全体的に平均してまずまずの評価を受けているようである。
特に専門的知識や、概説などが高い評価4．6を受けている。
学生の授業への積極的取り組みについても、4．6と高くなっていた。これについては、学生にとって教育現場の課題と関連づけることが、イメージしやすいような内容となるよう意図した。しかし、視聴覚資料など、いくつか改善すべきことも、感じた。
ワークショップ的な授業を取り入れたため、積極的な授業参加が図られたと考える。

結果報告書

授業科目名　発達障害児神経学演習
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3	2				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	2				4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	3	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	2				4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3	2				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3	1				4.4



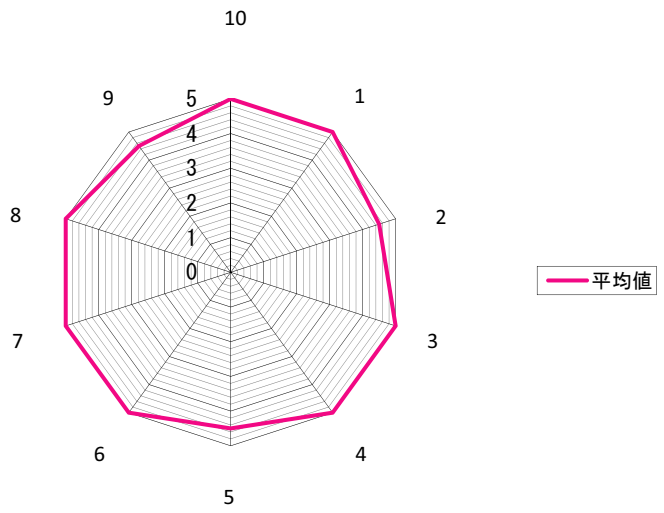
教員のコメント

多くの質問項目の平均値が4.0を上回っていることから、ある程度適切な演習が出来たと考えられる。同時に、評価を上げるような努力が必要であるが、特に教師の実践力を上げるような内容に改善の重点をおきたいと思っている。高度の知識や専門性を考慮すると、どの程度の理解が出来ているのか知っておく必要がある。この点については理解しやすいような説明を行うよう努力しているが、問題点も有り十分とはいいがたい。例年、興味や関心のある学生が受講するので、熱心に演習にとりこんでくれ、また調査や発表を熱心に行ってくれたように感じている。内容は、昨年度よりもさらに興味のあると思われるものを多くするように考慮した。アンケートでの良かった点、悪かった点のほとんどは空白であり、具体的に指摘して頂ければ、今後の演習の改善につながるものと思える。

結果報告書

授業科目名　日本事情・日本文化
評価実施日　平成26年2月20日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



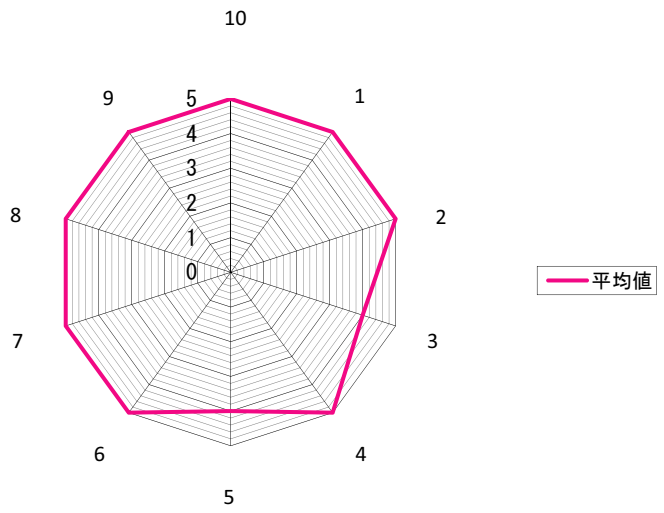
教員のコメント

この授業は、留学生に日本の社会や日本人の考え方について理解を深めてもらうとともに、留学生が自分の考えを日本語で適切に表現できるようになることを目指しました。この授業には、教員研修留学生や特別聴講学生など、留学目的・出身国・日本語学習歴など様々な点で異なる学生が多数参加していたため、それぞれの観点から日本での経験や発見を発表し合うことができました。また、日本の文化や日本人の考え方を学ぶだけでなく、互いの文化や考え方を教え合うこともできたので、日本の理解に留まらず広く「異文化」理解に繋がる授業となりました。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅲ
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



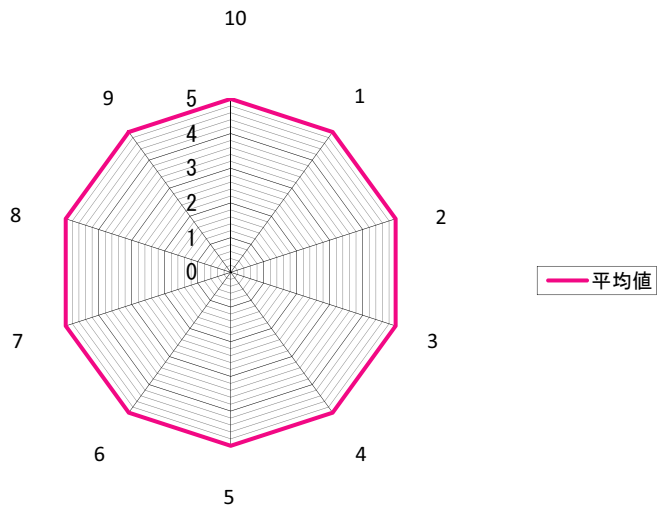
教員のコメント

本授業では、留学生により高度な聴解能力を身に付けさせることを目的として、「必要な情報だけに注目して聞く」「話の展開を予測しながら聞く」といった様々な聴解ストラテジーを用いた実践練習を行った。受講者数は1名（＋聴講11人）であり、「授業の内容も雰囲気も良かったので、とても楽しかったです」「先生の説明は分かりやすいし、細かく説明してくれて、よく分かりました」「この授業は本当に役に立ちます」など、授業内容やクラスの雰囲気を評価する声が多く見られた。一方で、「もっと難しい内容を加えたら完璧だと思っています」「ドラマとかニュースとかも聞かせてもらいたいです」「説明がときどき長すぎる」など、難易度や教材の選定について改善（再考）を求める声も出ていた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N4レベル）ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅳ
評価実施日　平成26年2月26日
担当教員名　妹尾　春子　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



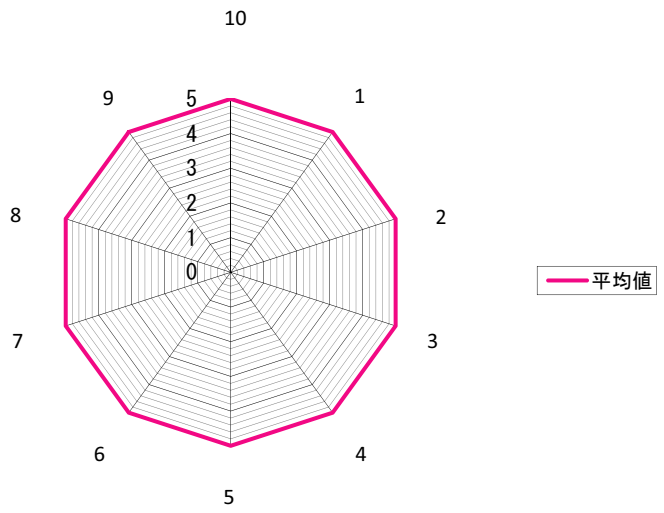
教員のコメント

この授業では、新聞記事や新書を読み、その内容の要約文を書くという練習を行った。要約を行うには、まず読んだ文章を理解しなければいけない。この作業に時間がかかったため、多くの要約に挑戦することはできなかったのは残念であった。しかし新聞記事の読解では、内容について学生同士色々な意見を交換できた。また、自分の興味ある分野の記事を選び、要約し、それを他の学生に楽しそうに伝える発表の場面は印象的であった。

結果報告書

授業科目名　日本古典語演習
評価実施日　平成26年2月24日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



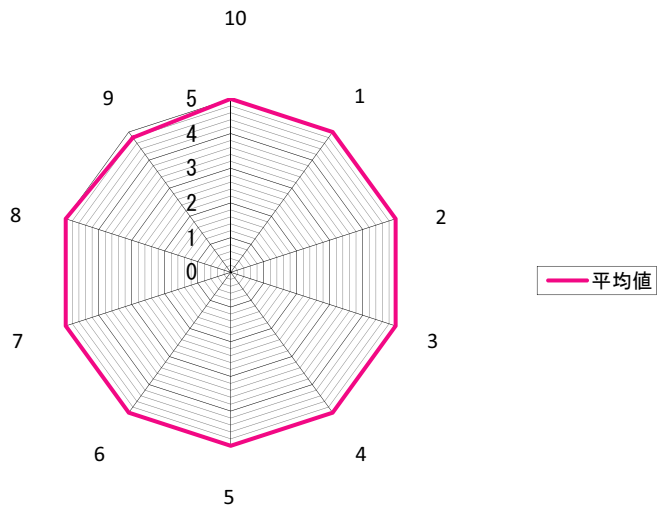
教員のコメント

学生の総合評価5.0は、5名という受講生の数から生まれた数字であり。必ずしも喜んでばかりいられない数字であると考えている。
授業は、江戸時代の古写本を資料として、その読解に挑戦するものであった。受講生からは「専門的な古典の知識や、読解法が学習できた」「変体仮名・くずし字が読めるようになった」などの好意的な意見が寄せられた。また、授業で指名して読むことから、「必ず予習をして授業に臨んだ」というコメントがあり、そのことが、変体仮名・くずし字の読解力向上につながったと考えられる。

結果報告書

授業科目名　現代日本語演習
評価実施日　平成26年1月30日
担当教員名　茂木俊伸　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



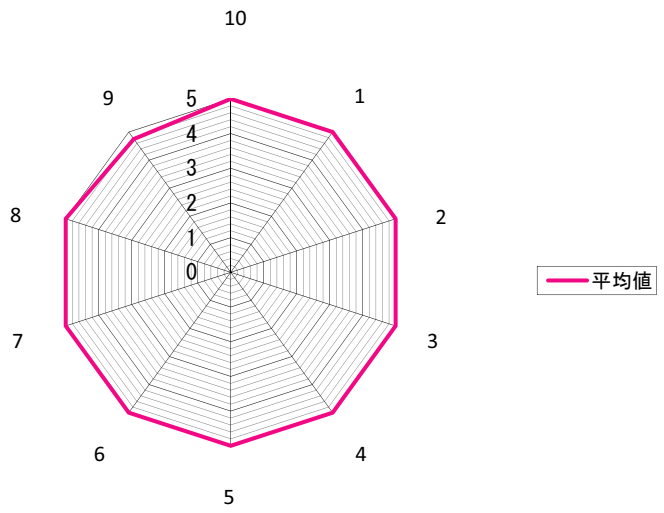
教員のコメント

本授業では，現代日本語に関する研究論文を批判的に読みながら，「意味分析」をテーマとする演習活動を行った。受講者数は，6 名であった。
授業評価は，総合評価の平均値が 5.0 ，全項目の平均値が 4.98 である。
自由記述欄に関しては，改善すべき点の指摘はなく，よかった点として「少人数なので，いろいろ意見を出し合い，全員で1つのことをじっくり考えることができた」「様々なことばの意味について深く考えることができ，たくさんの新しい発見があった」等の意見が見られたため，演習形式の利点が十分に発揮できたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅱ
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　小島　明子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



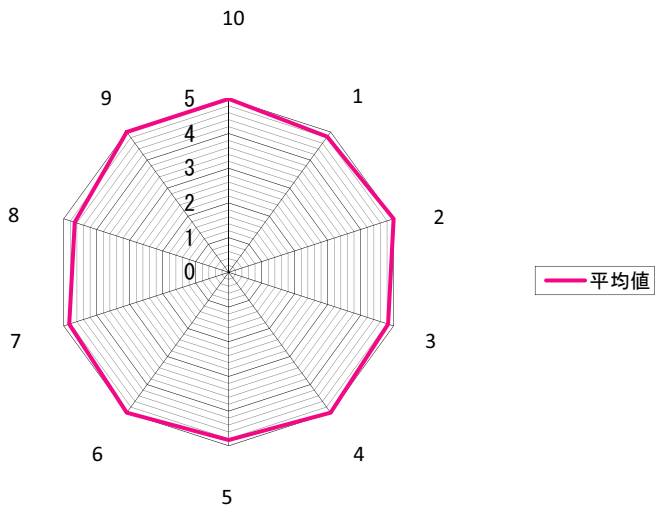
教員のコメント

平成25年度の「日本文学演習Ⅱ」は取り分け熱意にあふれた院生4名が履修していたため、授業に対する評価も高いポイントを出してくれていた。今回は履修者の意欲の高さに負った結果であるので、今後は学習意欲に欠ける履修者を対象とした場合の方策を考えていく必要性を強く感じている。

結果報告書

授業科目名　日本語文法演習
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5		1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



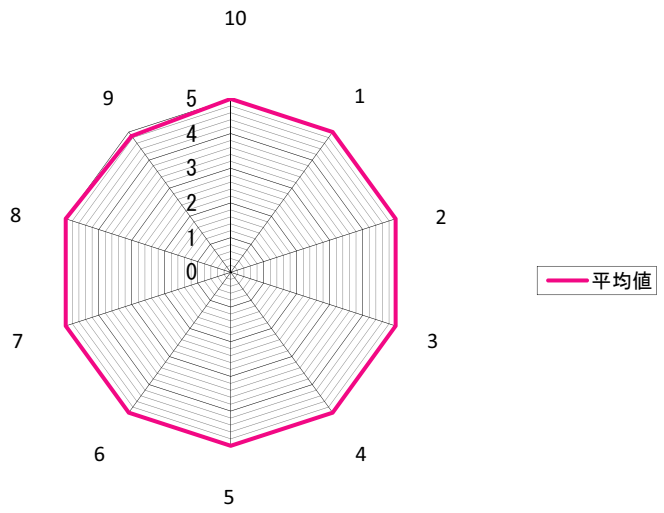
教員のコメント

本授業では、「指示詞（コ・ソ・ア）」について、古典的な論文から最近の論文までを幅広く検討することで、従来何が問題とされてきて、現在何が問題として残されているのかを理解することを目指した。また、そのような研究の積み重ねによって得られた知見を日本語教育の現場でどのように活かすべきかを議論した。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「取り扱う論文について丁寧に解説や補足説明があり、内容が理解しやすかった」「学生が主体的に参加できるような授業のしくみになっている」「一人につき一つの論文を担当し、発表したので、自分で考えることが多く、力がついたと思う」など、授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「発表する内容の難易度、大変さが違いすぎる。難易度の高い論文は2人が担当するなど、課題の負担をもっと均等にしたほうがいいと思う」「あまりにも専門外の受講生が参加した場合、授業のレベルが下がる危険がある。この点は教員の問題ではなく、大学の方針として検討していただきたい」など、学生の負担の公平性や授業の質の確保に関して改善（再考）を求める声も出ていたため、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　日本語語彙論
評価実施日　平成26年2月7日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



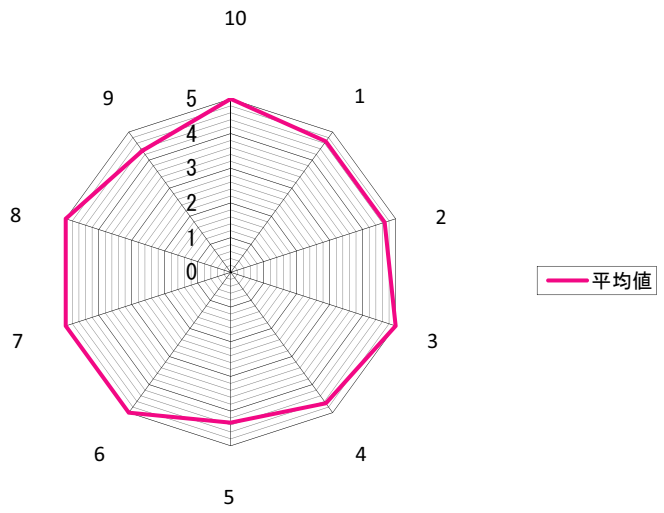
教員のコメント

本授業では、語の意味や語の出自、語の使用者や社会との関わりなど、語彙に関する様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「私たちの興味関心に合わせて内容が構成されていて、とても興味深い授業でした」「疑問点があがれば、その都度、一緒に考えてくれたり、分かるまで説明してくれた」「課題内容、評価について具体的にご指示いただき、個別指導も丁寧にしてくださった」など、授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「1つの項目が、時間の都合上、なくなってしまったことが残念でした」など、授業全体を通しての進度調整に改善（再考）を求める声も出ていたため、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学演習
評価実施日　平成26年2月6日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



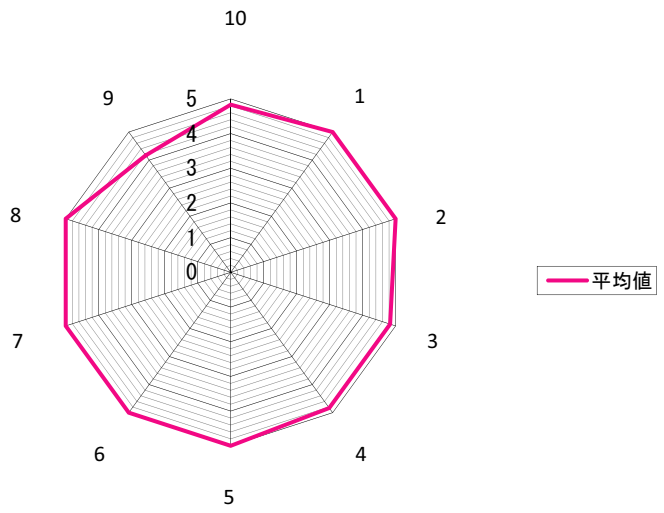
教員のコメント

受講者数が少なかったため、効果や反応が限定されたものであると判断される。総合的に最も評価の低かった「3．授業の進む速さ」については遅すぎたのか、早すぎたのか、明確でない。「9．主体的・積極的取り組み」を引き出すことと連動している可能性が考えられる。

結果報告書

授業科目名　国語科授業演習
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	5					4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



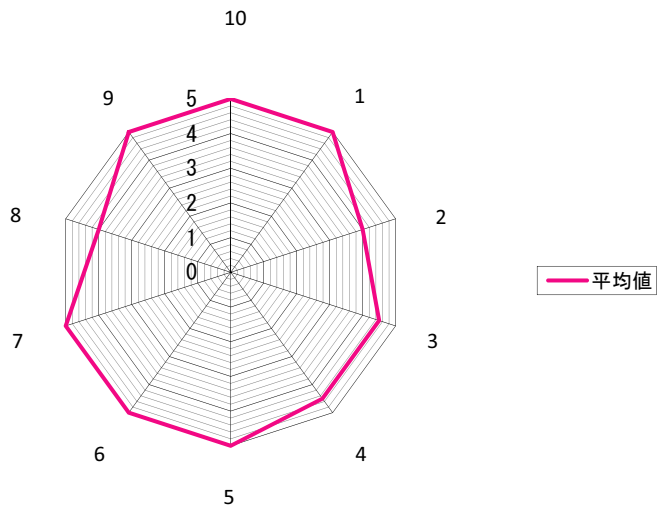
教員のコメント

受講者数が少なかったこともあり、全体的に非常に高い評価をしていただきました。例年通り、演習発表－質疑・討議という形式でしたので、受講生自身が主体的・積極的に取り組んだことが、満足度の高さにつながったのだと思います。「主体的に取り組んだ」という質問項目は、自己評価としては相対的に低いのですが、「討議の場でもっと発言できればよかった」という思いから出てきた自己評価のようです。授業者としては全員がきちんと議論に参加できていたと感じていたのですが、もっと話せたはずだと受講者のみなさんは感じたということです。授業者がもっとうまく話し合いを導ければよかったと反省しています。今後の課題とします。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発演習
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



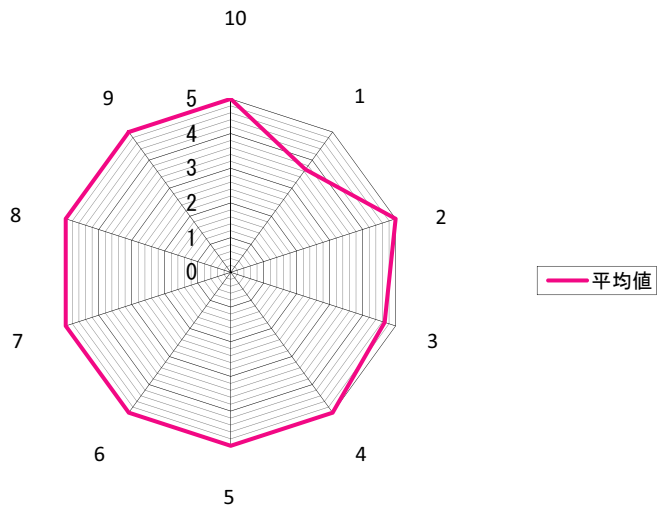
教員のコメント

総合評価は、本年度も5の評価であった。しかし、欠席もいて回答者が2名のみであったことが、この演習の最大の課題である。
受講生の「この授業でよかったと思われる点」のコメントとして 「ゼミ形式で授業が行われたため、他のゼミの受講生のアドバイスもいただくことができた点」との指摘があった。受講生が3名のみであったため、受講生各自の問題意識に即して、十分な指導ができたと考えている。来年度は、多くの演習受講者を望んでいる。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　杉浦　裕子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2				1		3.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



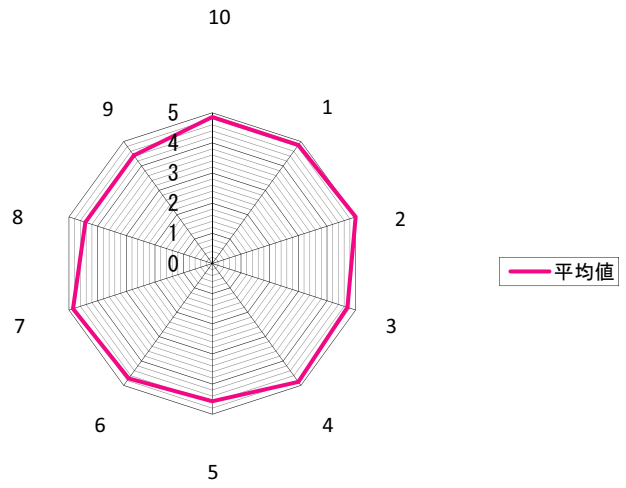
教員のコメント

授業概要で示した作品と変更したが、受講生の了解を取った上でであり、また授業そのものは全員熱心にかつ楽しんで受講してくれた。毎回の発表も頑張っていたし、ディスカッションの時間も十分に取ることができて、よい授業になったと思う。ちなみに受講生は4人いた。

結果報告書

授業科目名　学習英文法演習Ⅰ
評価実施日　平成26年2月5日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



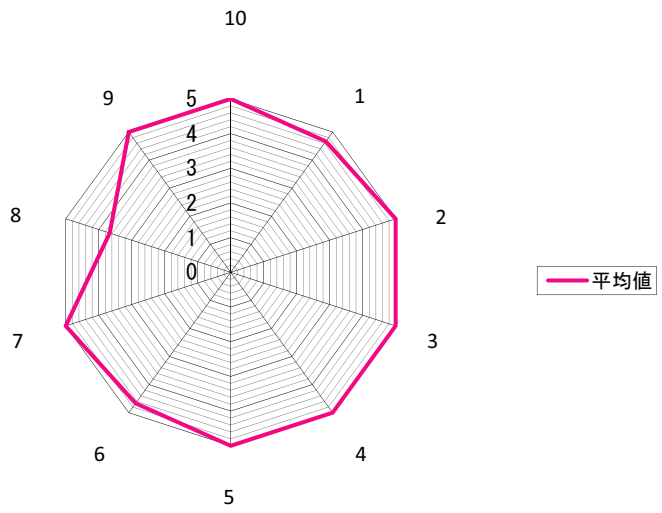
教員のコメント

数値からもコメント欄からも、一定の評価を得ることができたと考える。発表やディスカッションが中心となる授業だったため、予習や復習には時間が必要だったと考えるが、ほぼすべての学生が積極的に授業に参加し、互いの意見を理解し、知識を深めることができたと考える。

結果報告書

授業科目名　アカデミック・ライティング Ⅰ
評価実施日　平成26年1月29日
担当教員名　鎌田・スザーン　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		2				3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0

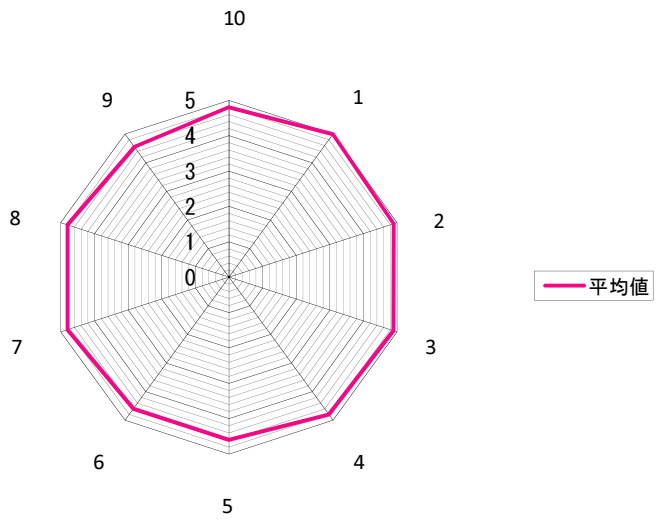


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅰ
評価実施日　平成26年2月21日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				1	4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8		2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1		1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7		2			1	4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



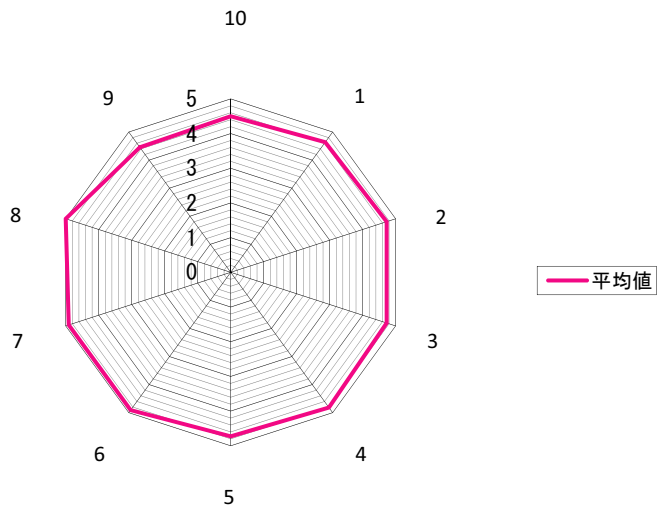
教員のコメント

本授業の目的は，英語のリーディング指導に必要な三つの主要なインターラクション、つまり、①学習者内部でのBottom-up ProcessとTop-down Processのインターラクション，②テキスト内部での部分と部分、部分と全体の間のインターラクション，③教室内部での技能・教材・個人の間でのインターラクションに焦点を当てながら、Interactive Reading Instructionの理論と実践について、基本文献の講読とワークショップ等を通して、多角的な考察を加えていくことであった。本授業に寄せられた受講生からの評価結果（全体の平均値は4．8）から判断する限り、授業の目的を達成する上で一応の成果が得られたものと考えることができる。具体的な成果としては、授業のメインテーマであるInteractive Reading Instructionの理論について原書講読とそれに基づく講義を通して一定の理解を受講者に授けるとともに、具体的な教材をもとにした授業実践方法についても受講生の理解を深めることができたと思われる。受講生からも「本当に現場の教師もすぐに実践で使うことができる大切な授業でした。」「実際の教育現場で生かせる話が多かった。」「毎回非常に興味深い内容で、いい勉強になりました。」「This course is highly recommended for English teacher trainees.」「Very useful and most important to progress on reading skills」など，好意的な意見が寄せられた。ただ，「(5)授業の進む速さは，適切であった。」「(6)受講生に分かりやすく説明した。」「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の3項目では相対的に低い評価を得ており，改善の余地が残されている。今後，受講生の反応を見ながら，必要があれば改善していきたい。理論ほど実践的なものはないというのが持論であり、今後も実践につながる理論と理論に支えられた実践の連係を模索していきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅱ
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	5				1	4.5



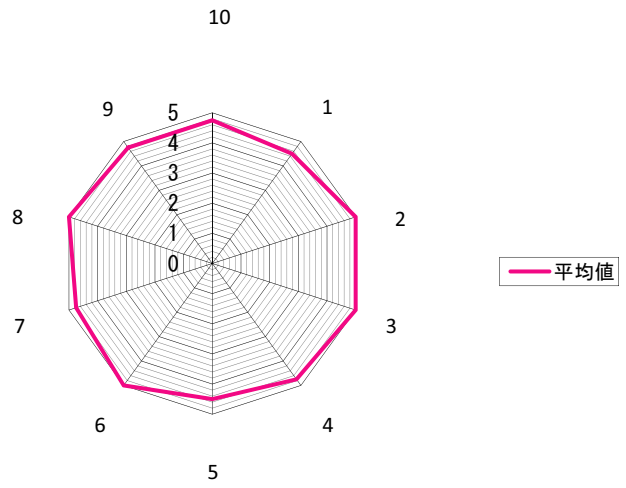
教員のコメント

全項目において数値が4.5以上であったことを考慮すると，本授業の内容と方法は概ね良好であったと判断できる。以前より相対的に数値が低い項目である「(5)授業の進む速さは，適切であった。」と「(6)受講生に分かりやすく説明した。」については，授業内容を精選したり，毎時間，前時の内容を簡単にふり返り本時の目標を設定してから授業を始めたり，授業時に話し合いの時間を増やしたりしたことが，功を奏しているようで，前年度に引き続き成果に表れたものと考える。授業者としては，ここ数年は特に授業の方法面（例えば受講者の学びの深まりや学習のしやすさ）を中心に授業改善を図ってきたが，今後は教育研究という視点から授業の内容面の質の充実をさらに図っていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅲ
評価実施日　平成26年1月30日
担当教員名　畑江　美佳　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



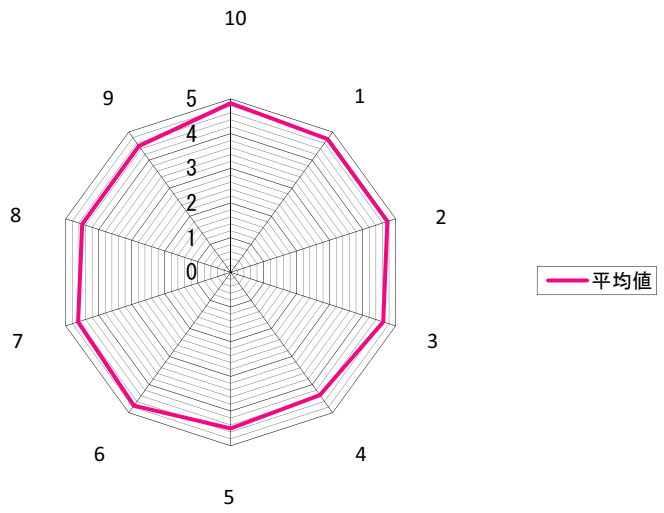
教員のコメント

授業内容，教員の授業の進め方，学生の授業への取り組み，全て平均的に4.8ぐらいだと思うので，総合的にみて学生にとって満足のいく授業だったと考える。一番のポイントは，授業を双方向型にしている点である。教員が提示したトピックについて，学生が自分で問題点を考え，それについて全体で討論したり，それぞれが問題解決に向けた資料を持参したり，積極的に授業に参加していたことは，毎年のことだが，学生のためになっていると思う。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅰ
評価実施日　平成25年12月21日
担当教員名　西尾　和美　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	3					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1					4.9



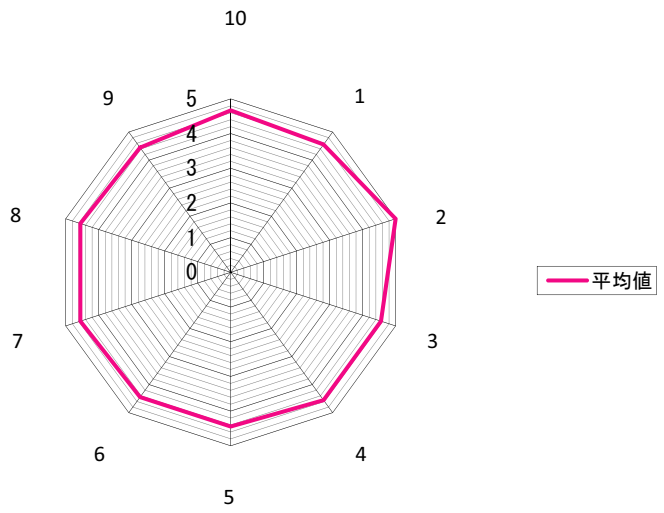
教員のコメント

授業の内容、授業の進め方いずれの諸点においても、概ね良好な結果であったと思われ、授業担当者として喜ばしい。とくに昨年度、一昨年度と懸案であった(3)、(8)については、本年度は受講生の発表とディスカッションの導入、および視聴覚教材での画像史料提示によって、数値が改善したものと思われる。前者については、受講生が主体的に参加する双方向的な授業運営の有効性を示すものと考えられる。なお、個別には(4)、(5)について3と回答した受講生が1名ずついることが注意される。今後はこれらの諸点についてより配慮に努めたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅰ
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　大石　雅章　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	5					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	4					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3					4.7



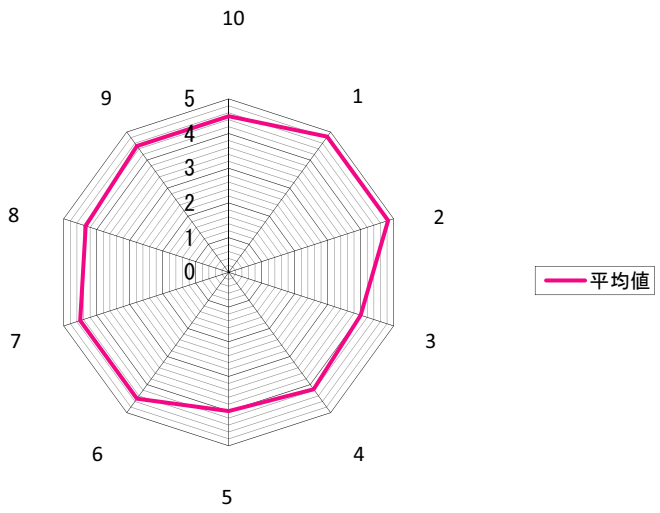
教員のコメント

すべての項目で4．4以上の評価を得、総合評価でも4．7の高い評価を得た。なお今後は授業の進む早さや説明などをさらに改善し、より良い授業になるように努める。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅱ
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2			1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1			1		4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2	2				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	3					4.5



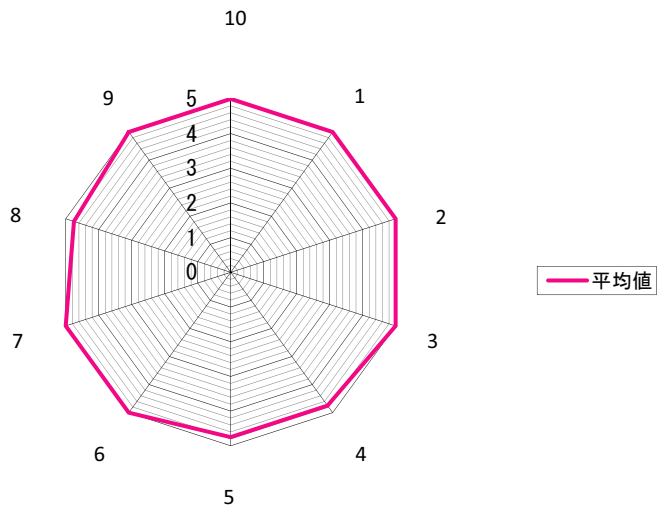
教員のコメント

今年度の歴史学演習Ⅱでは、近年調査を進めている札所寺院に残った史料をもとに、近世の宗教社会について理解を深めること、あわせて地域の歴史を掘り下げる手法を通して、歴史的思考を培うことを目標とした。こうした地域史料を活字であれ読むことは、大半の受講生にとっては初めての経験であったが、受講生の多くは予習を行い、積極的に授業に参加していた。授業評価も概ね好評であった。ただ、若干史料の分量が多かったことから、授業進行のスピードについてはタイトなものとなってしまった。成績評価について一人極めて低いのは、評価の甘さを指摘するものであった。授業者としては、出来る限り、受講生の気付きや努力を拾い上げることを意図していたつもりであったが、逆にそれが甘いと受け取られたのかもしれない。今後の授業改善の参考にしたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅲ
評価実施日　平成26年2月6日
担当教員名　原田　昌博　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



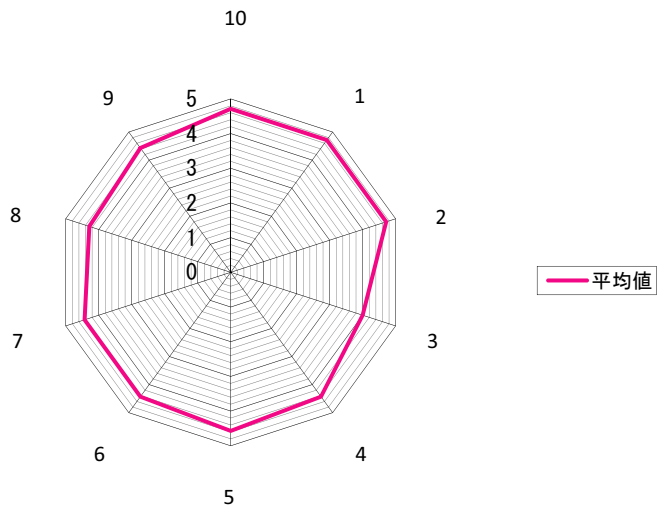
教員のコメント

本授業は受講者が決められたテキストの内容を毎週輪番で報告し、それに基づいてディスカッションする形で進められ、さらに、受講者はテキスト以外にも追加的に配布される関連論文も読んでテーマに対する理解を深めた。2013年度はW・ヴィッパーマン『議論された過去—ナチズムに関する事実と論争』(未来社)をテキストにした。若干難解な内容ではあったが、受講者数は4名と少なめであったが、全員が毎週丁寧にテキストを読んで議論に参加していた。ほぼすべての質問項目が「5」の評価となっており、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。例えば、質問2で全員が「5」と評価していることから、受講者にとって本授業が歴史学(外国史)の専門的知識を習得にするうえで役立つものであったこと、また質問10でも全員が「5」と評価している点から、受講者が本授業に満足していたことが言えるであろう。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学演習
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4		1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	4					4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	4					4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	5					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



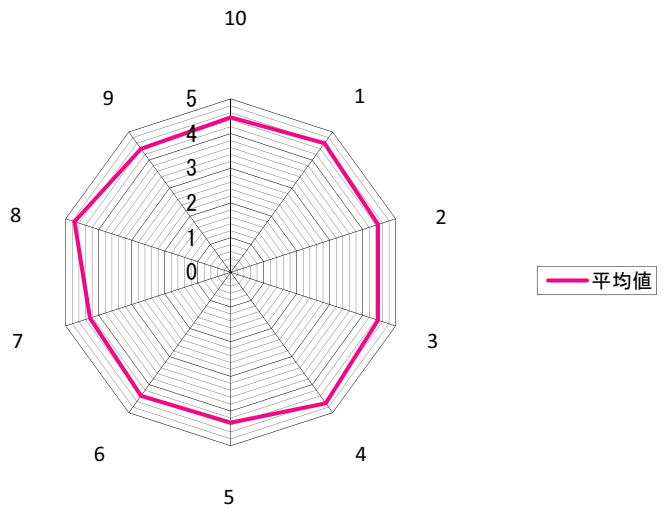
教員のコメント

今期の「法学・政治学演習」では、受講者数も例年に比べると多めとなり、また意欲のある学生の参加によって活気ある内容になったように思います。テキストの予習についても受講者各人がしっかりとその責を果たしていることがわかりました。担当章の報告についても、ただ内容を要約するだけではなく、各自の問題意識を具体的に明示しながら内容を整理し報告するという課題をしっかりとこなしてくれていたように思います。なかなか教育実践の文脈に応用することが難しい内容であったかもしれませんが、一冊の書物を読破し、内容を整理しつつ議論するという本講義の過程を通じて、今後の修了研究に際しても有用な視座や学問の方法論というものを学んでもらうことができたのではないかと考えています。活気ある講義にするべくしっかりと参加してくれたという点において、受講者全員に感謝したいと思っています。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と社会認識教育
評価実施日　平成26年2月11日
担当教員名　井上　奈穂　　回答者数　15　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	2	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1	2	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	5					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	8	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	5	2				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	7	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2	3				4.5



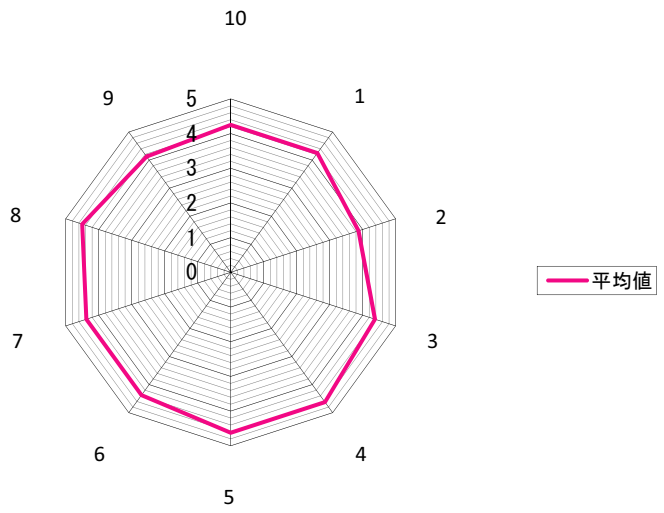
教員のコメント

アンケートに示されている10項目全体の平均は4.5であり、概ね満足できると言える。カテゴリー別にみると、「教員の授業の進め方について」の項目が低い。このことから、特に、授業の評価、進め方の点での改善が必要と言える。また，昨年度，「あなたの授業への取り組みについて」の項目は，一昨年は4.1、昨年4.4,今年は4.7であった。比較すると、まだまだ改善の余地があると言える。今後は、学生が参加する活動を増やし、学生が取り組める場を積極的に設定していくことで授業改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅰ（地理領域）
評価実施日　平成26年2月6日
担当教員名　伊藤　直之　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1	1	2			3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	5					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1	1			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3		1			4.3



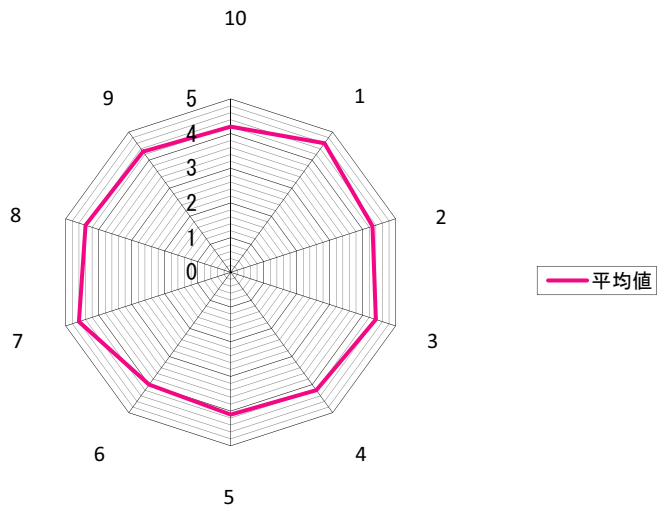
教員のコメント

概して「教員の授業の進め方」において課題があることを示す結果となった。
一人の学生のコメントには「授業進度が遅い」というものがあった。
演習形式によるものなのかもしれないが，大学院修士課程の専門科目ということを鑑みて，今後は，よりスムーズに，新たな課題の提示を心掛けたい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）
評価実施日　平成26年2月28日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3			1		4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2			1		4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2	3				4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	2	2	1			4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1	1	1		4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	2	1				4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1		1		4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	2	1		1		4.2



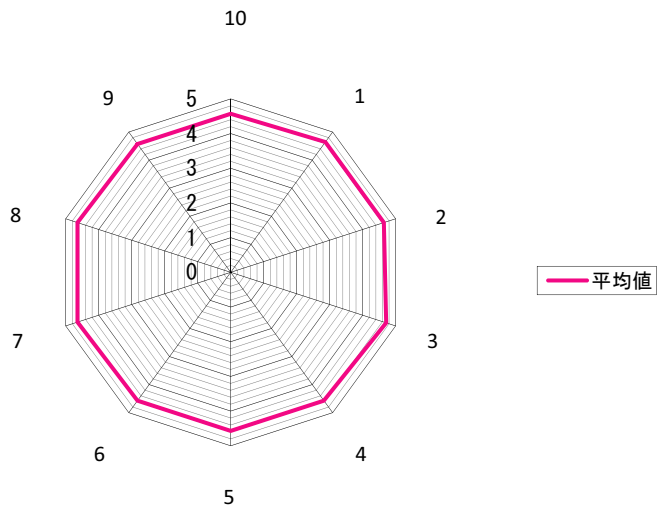
教員のコメント

本講義は、受講学生の歴史授業研究能力、特に授業の事実を分析し評価し、改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。受講生は全部で10名であった。上記の目標を達成するために、教員は社会科教育学研究としての授業研究方法論を、実践の事実にそくして講じた。受講生は、その方法論を活用して、授業論と実践の性格を異にする複数の歴史授業研究例（仮説を組み込んだ授業計画書と実践）を分析し評価を加え、グループごとに発表した。そして、教員と受講生がともにそれぞれの理論と実践の特質・限界・類型について討議した。受講生による授業評価の全体平均点は、4.2であった。本授業の目的と結んで、特に重要な評価項目である評価項目（2）（3）については、それぞれ4.3と4.4であった。学生の授業への主体的取り組みに係る評価項目（（9）については、4.3の評点であった。今年度の評価について、総合評価の4.2は、授業担当者として必ずしも高い評点とは考えていない。授業の構成や学生への課題提示の仕方についてさらなる工夫・改善が必要であると考えている。特定の学生が、評価1あるいは2を付けているが、アンケートの自由記述欄にその理由なり要望が記載されていないので、具体的な改善策をすぐには考慮出来ないが，今後とも受講生の意見・要望をふまえながら、学生の理解が深まるよう授業の改善に務めたい。

結果報告書

授業科目名　幾何学研究
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	4					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	6					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	6					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	4	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	5					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	5					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	4	1				4.6



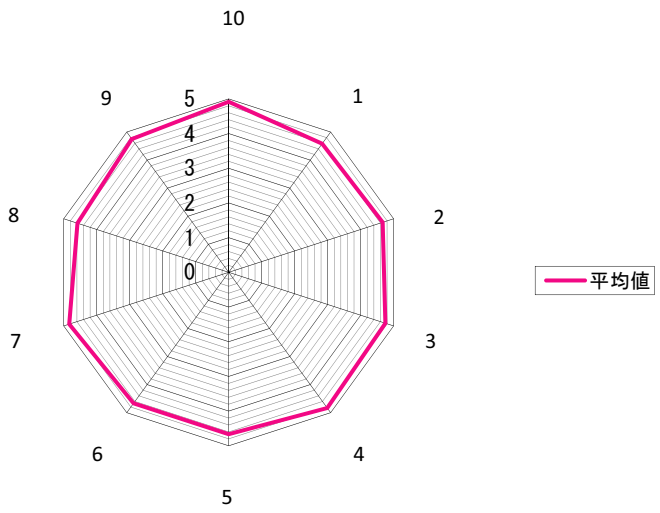
教員のコメント

各項目の評価平均値は4．6または4．7であり，高い評価を得ている。自由記述の「よかった点」欄には以下の回答があった。「とても楽しく勉強できたと思います」，「この授業は素晴らしいです」。一方，改善点には「モアレ酔い」との回答があった。授業で，現実世界で現れる数学現象の例としてモアレ模様を取り上げているが，人によってはモアレ模様を長時間観察すると気分が悪くなることがある。これを避けることは困難であるため，そのような場合には，すぐに観察をやめるよう授業で説明を行っている。

結果報告書

授業科目名　幾何学演習
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	4					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	1					4.9



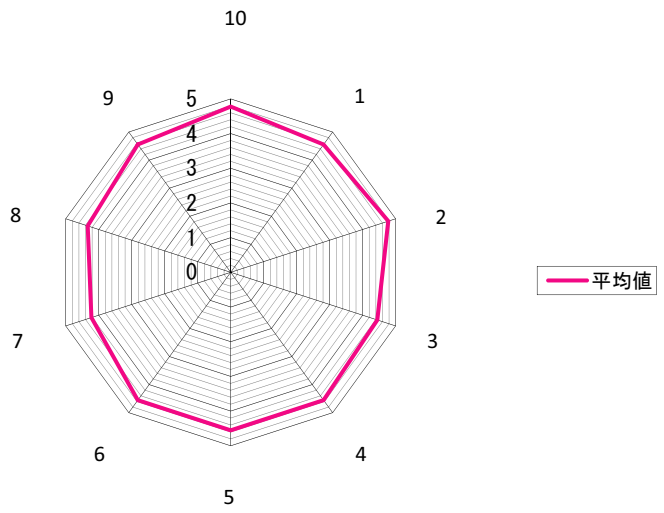
教員のコメント

各項目の評価平均値は4．6から4．9の間にあり，特に総合評価は4．9と高い評価を得ている。自由記述は1件だけあり，「よかった点」欄に「とても面白かった」との回答があった。

結果報告書

授業科目名　解析学研究
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	2				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



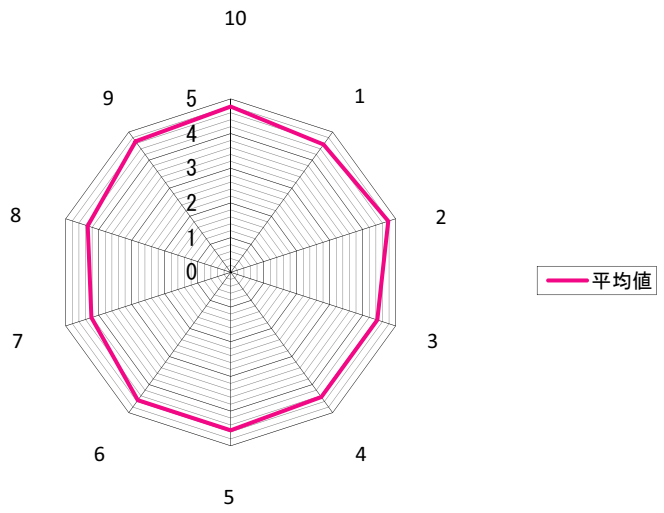
教員のコメント

受講生の理解や興味に応じて授業を進めるとともに，学生自身の考えを尊重し，積極的に授業で発言させたり考えさせたりすることにより，授業に主体的に参加できるよう努めた。その結果，ほとんどすべての項目において4又は5の評価が為されており，授業者，受講者ともに満足のいく授業であったと判断される。総合評価においても，受講者9名中7名が5，残り2名が4の評価を出しており十分に良かったと評価されている。自由記述欄に記載されていることは少ないものの，[2]の良かったと思われる点についてで，「新しい知識をたくさん得ることができた。」とある。これは，普段と違ったものの見方について幾つかの事例を挙げることにより説明を行ったことによる感想と思われる。また，[4]の授業に主体的・積極的に取り組んだ理由について，「持ち越しの課題については学習をして臨むことができた。」とある。課題としては，ただ単に調べただけでは解答のわからない問題であり，なおかついろいろ考えを巡らすことによって面白いアイデアが浮かび，その糸口が見えてくるようなものを考えて提出した。そのことが課題に積極的に取り組み学習意欲をかき立てることに繋がったと思われる。

結果報告書

授業科目名　解析学演習
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	2				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



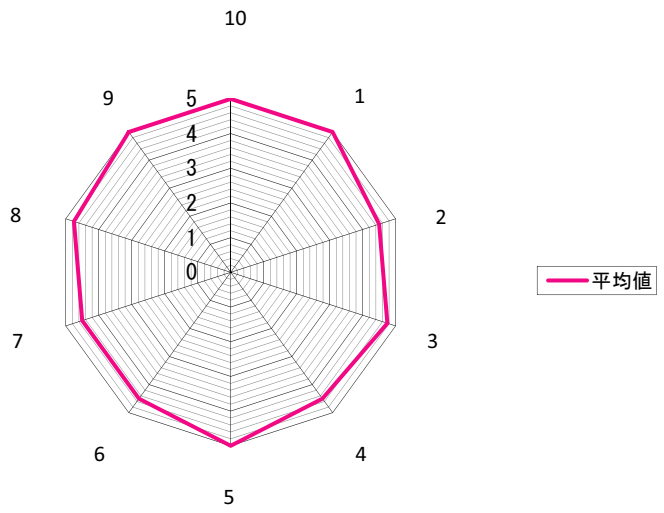
教員のコメント

とくに解析学演習においては学生が主体的に授業に参加し，演習を通して専門的授業内容は勿論，授業実践力やコミュニケーション力もまた身につけることができるよう授業の工夫を行った。具体的には学校教材を意識した課題を提示し，学生自らがその課題について調査，研究を行い，演習の時間にその研究結果のプレゼンを順番に行う，という形態をとった。アンケート結果にあるように学生は積極的に興味を持って参加することができていた。課題については，学校教材も意識し，なおかつ発展的な要素を含むもの，またその内面に重要な基本事項が隠されているものを提示できるよう努めた。学生は自己学習していくうちにそれらの事項に自ら気づき，引きつけられていったようである。その結果，総合評価においては，9名中7名が5，残り2名が4の点数を出しており，良かったと評価されている。自由記述には多くが記載されてはいないが，「新しい知識をたくさん得ることができた。」「持ち越しの課題などに予習をして臨むことができた。」「与えられた課題をパワーポイントにまとめ，講義で発表した。」「日常と数学をつなぐ上で有意義な講義でした」とあり，いずれもこちらがこの授業において意図していたものが反映されているコメントが記述されていた。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学演習
評価実施日　平成26年2月24日
担当教員名　服部　勝憲　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3		1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



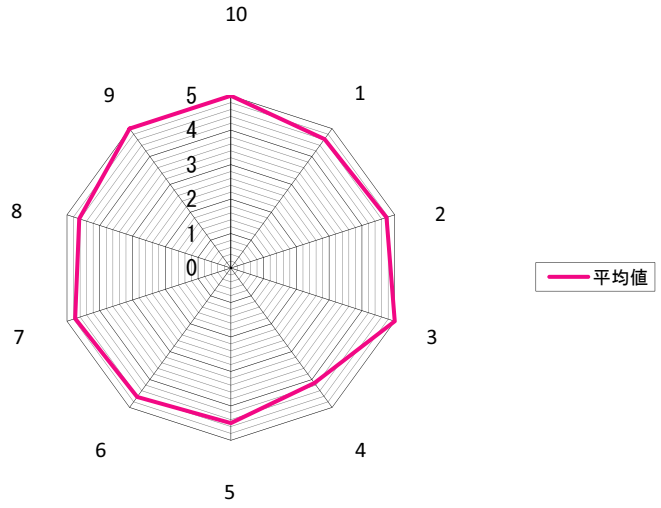
教員のコメント

算数・数学の指導内容及び指導方法の事例に着目し、その改善のための考え方と方策について受講生個人またはグループで研究し、互いにその過程と結果を報告し議論する形態の授業を展開した。受講生の真摯な課題への取り組みは評価できる。この授業展開によって個人の院生の関心に即応することができたが、さらに議論を深めるには時間的な余裕が十分ではなかったといえる。

結果報告書

授業科目名　数学科授業研究
評価実施日　平成26年1月16日
担当教員名　佐伯　昭彦　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	2				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	4					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



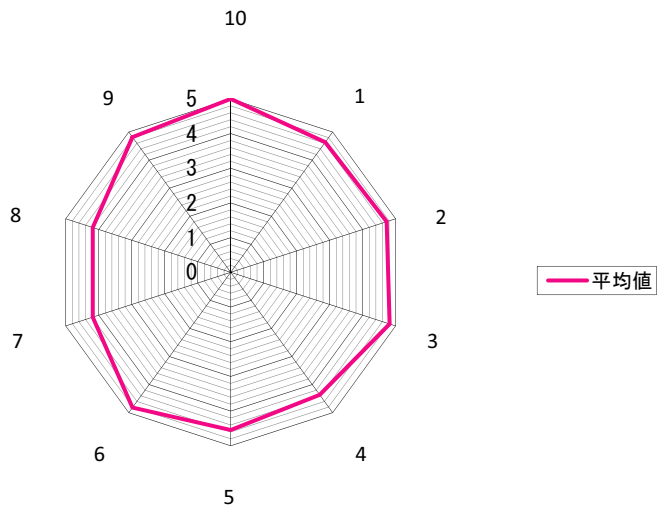
教員のコメント

全ての項目において「4」以上，総合評価では「5」という高評価を得ることができた．本授業では，大塚国際美術館の来場者に芸術作品を数学の視点で紹介する活動を通して，教科の枠を超えた横断的・総合的な教材開発に関わる資質・能力を高めるとともに，多種多様な来場者に応じて分かりやすく説明する能力を高めることを目的として行った．その結果，項目「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」が「4．8」，項目「教師の実践力の育成につながる内容であった」が「5」，項目「授業に主体的・積極的に取り組んだ」が「5」の高評価を得ることができた．

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発演習
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	5	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	5					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	5	2				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11						5.0



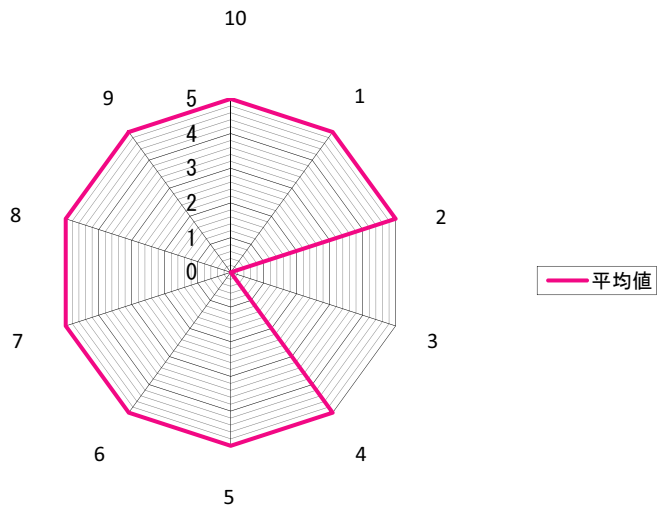
教員のコメント

この授業科目の主な目標は，前期の授業科目「数学科教材開発研究」の内容をもとに，生徒の思考力や創造性を育成する数学教材を開発し，教材の開発方法・活用方法についての理解を深めることであった。評価項目(1)から(9)の平均値の平均は4.5，総合評価の平均値は5.0であった。評価の平均値が高かった質問項目は，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」であり，評価の平均値が低かった質問項目は，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」，「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」であった。全ての質問項目で4以上を選択した履修者が8割を超えていたことから，授業の内容は履修者に適した内容であったと考える。履修者の記述の中に，授業に主体的・積極的に取り組んだ理由として，「自分自身で開発した教材を発表したり，他の人の発表を聞いたりして，よく考えることができた」とあった。履修者の思考活動を活性化できたことが自主性に繋がったと考えられる。演習であり，履修者による教材作成と発表・質疑応答が主な内容であったため，教員からの資料の配布や板書はほとんどなかった。この点については，次年度以降，履修者の理解を一層深めるために，何か工夫をしたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　物理学特論Ⅲ
評価実施日　平成26年2月25日
担当教員名　粟田　高明　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						1	######
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



教員のコメント

受講者は1名であった。すべての項目で”良い”という評価をしていただいた。

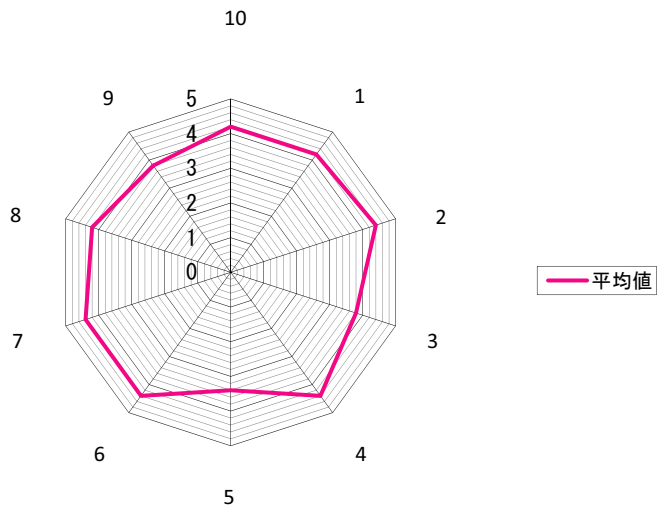
大学院において授業評価をする必要があるのか考える時期に来ている。アンケートの内容は，”高等学校”の授業に対する項目の様であり，専門的な内容を講義することが主要な大学院のものとは思えない幼稚極まりないものである。この様なアンケートを行うことは，学問に対して真摯に向き合い知識を獲得していこうという自立的な態度を阻害し，講義を受けて単位を獲得すれば自動的に知識が身につくかのような受動的な幻想を抱く原因となる。

また，評価項目を5段階で行い，最後に平均値を計算しているが，このような統計処理は根本的に間違っている。5段階の評価は数値的に等間隔に並んでおらず順序の尺度である。これを等間隔の尺度と見なし，単純に算術平均を計算して出てきた数値（特に小数部分）はどのように解釈してよいのか分からなくなる。どうしても評価を平均化したい場合は，母数全体の中央値（メジアン）をその代表値として表すのが通常である。それも適切でなければ，評価の全データを尺度毎に帯グラフで表現するのがよい。

結果報告書

授業科目名　無機化学特論
評価実施日　平成26年2月21日
担当教員名　早藤　幸隆　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	4					4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		4	1				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		3	1	1			3.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	3					4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	4					4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4	1				3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	4					4.2



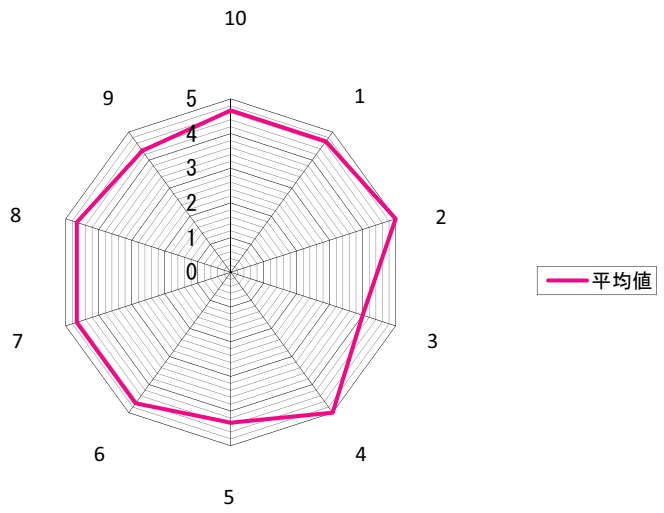
教員のコメント

受講者数が少ないため評価を把握する事は難しいが，全体的に受講者から講義内容に関する好意的な評価を受けている。質問項目(1)の結果より本講義における目標と目的は達成出来たと考えられる。無機化学の基礎・基本的な内容を重視した講義の構成と展開により，質問項目(2)が評価されると共に，単元の終わりに演習問題を繰り返しながら，詳細な解説と説明により，質問項目(6)が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め，パワーポイントの提示内容を資料として配付した。質問項目(10)より講義に関して好評価が得られた事から，来年度以降も講義内容や演習問題の形式などに改良を加えながら進めて行きたい。

結果報告書

授業科目名　生物科学特論Ⅰ
評価実施日　平成26年2月27日
担当教員名　米澤　義彦　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2			1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



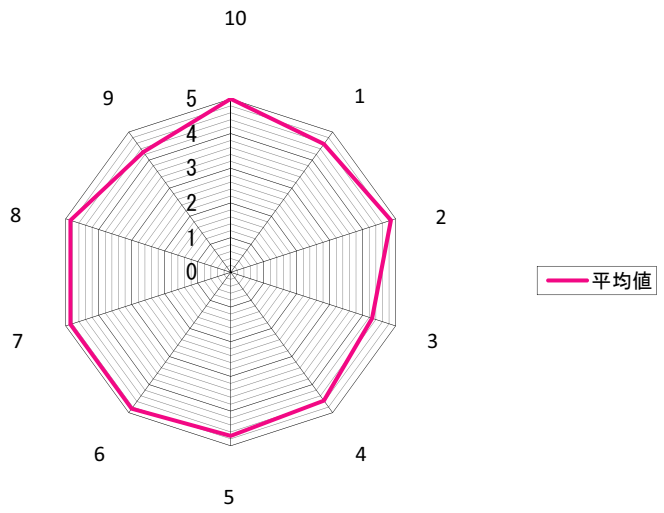
教員のコメント

受講生が少なく、アンケートの内容を分析してコメントできない。ただ、「教師の実践力につながるか？」という問いに関して、1名の受講者が「2」という評価をしている。授業者としては、受講者を「高校の生物教員」という意識でとらえており、内容が難しすぎたのかもしれない。教科のコースに入学してくる大学院生は、主に中学校や高校の教員もしくはこれを目指しているものであるので、本授業科目の内容くらいは理解してほしいと願っている。

結果報告書

授業科目名　地学実験法特論
評価実施日　平成26年2月12日
担当教員名　小澤　大成，村田　守，香西　武，足立　奈津子　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



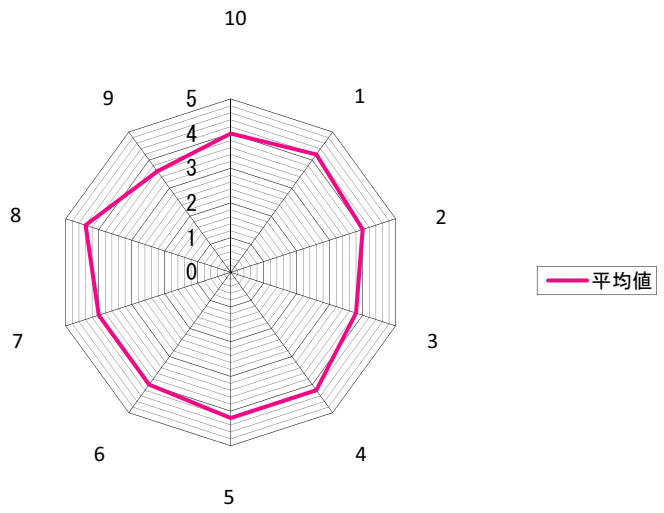
教員のコメント

本講義の目的は基礎的な地学分野の実験法の理解を通じて，地球物質科学の論理を学ぶことである。
受講者のコメントからも「顕微鏡やEPMAを体験できた」「顕微鏡での鉱物鑑定や化石の写真撮影は現場での指導に役立つ」という好意的な反応が多かった。

結果報告書

授業科目名　理科授業研究
評価実施日　平成26年2月27日
担当教員名　早藤　幸隆，寺島　幸生，佐藤　勝幸，香西　武　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	4					4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3		1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2	1				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	4					4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		5					4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		5					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	2				3.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	3	1				4.0

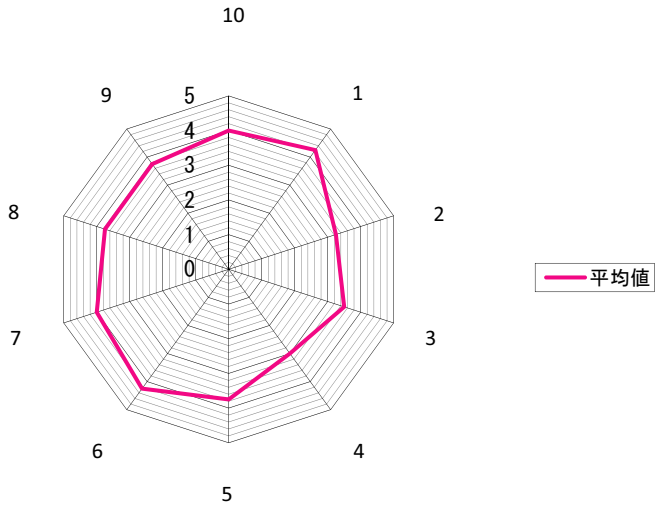


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　理科教材開発研究Ⅱ（自然環境と生物）
評価実施日　平成26年2月21日
担当教員名　佐藤　勝幸，香西　武　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	3					4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2	1	1			3.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。		3		1			3.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1		1	1		3.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	2		1			3.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1				4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2	1				4.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		3	1				3.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	1				3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2	1				4.0

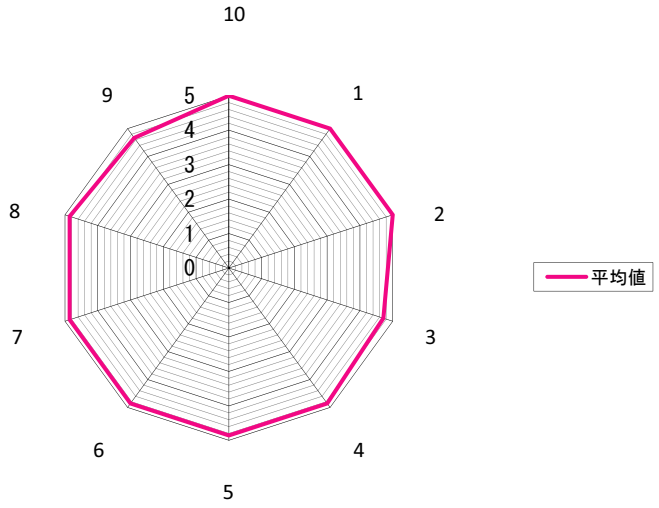


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　音楽劇総合演習
評価実施日　平成26年2月20日
担当教員名　真鍋　美恵　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				1	4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6					1	5.0



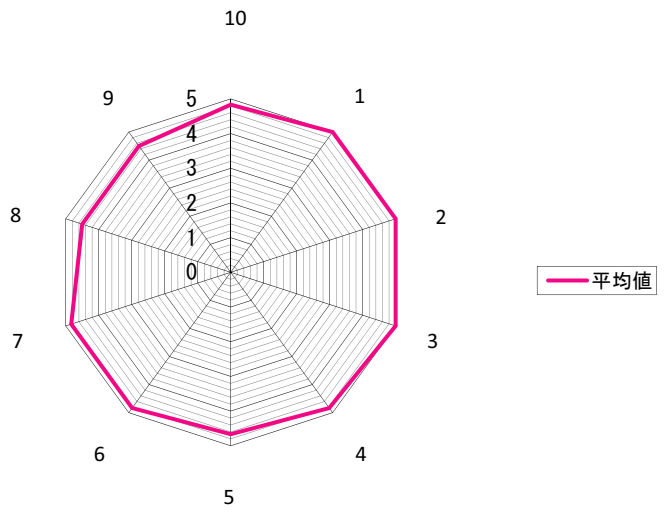
教員のコメント

本年度より新しく受け持った授業科目であったが、概ねの計画に沿って授業を進めることが出来た。授業科目の性質上、実践による学生同士の関わりが密になる。そのため、履修学生の数やそれぞれの学生の既習状況等、授業中の学生の理解度、反応に十分留意した上で、進度や内容（課題の劇中配役等）を柔軟に整えて行く必要があると感じた。本年度の履修学生については、能動的に授業に参加していたことに感謝するとともに、今後の現場での更なる研鑽を期待している。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

歌唱表現演習の授業内容についての評価は5.0という高い評価になっており，教師の実践力の育成に適っているものと考えられる。授業の進め方については，「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」がやや低い4.5という評価になっているが，実技主体の授業のため元々板書することは少なく，加えて今回は視聴覚機器を使用する機会が少ない授業内容であったためと思われる。総合評価は4.8という高い評価がなされている。

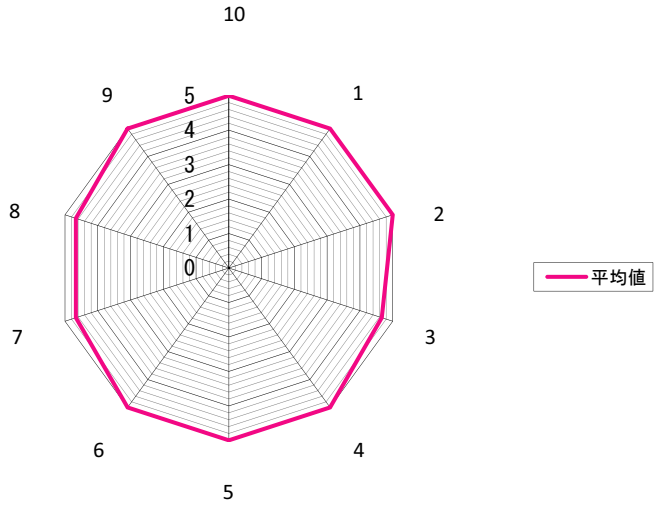
よかったと思われる点については，「体のしくみと(声を出す)感覚を結びつけることができた。」，また「(受講生)それぞれの(声の)状態を見きわめてご指導頂けて，自分なりの新しい発見ができました。」等，個々の受講生に応じたきめの細かい授業内容が肯定的に評価された。

これからもできる限り受講生一人ひとりに応じたきめの細かい授業を実践していきたい。

結果報告書

授業科目名　ソルフェージュ研究
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



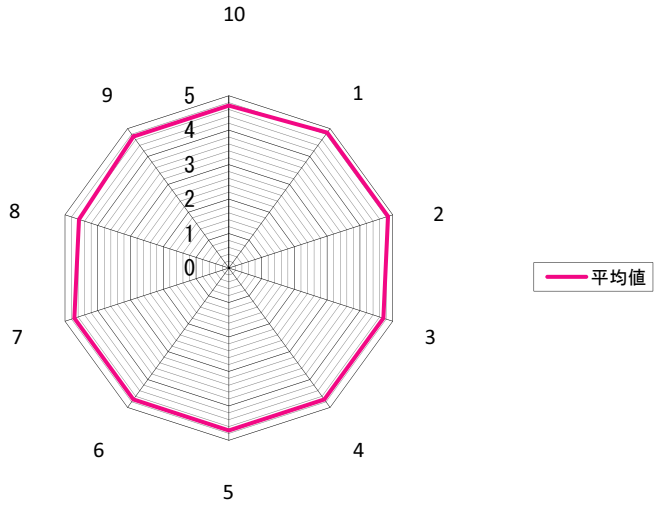
教員のコメント

この授業の内容は年度毎に異なるが，本年度は普段学生達が接する事の無い様々な音楽をヴィデオを通して紹介するというものであった。学生達の好評課に正直驚いている。

結果報告書

授業科目名　室内楽（器楽）
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　森　正，山根　秀憲　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	3					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



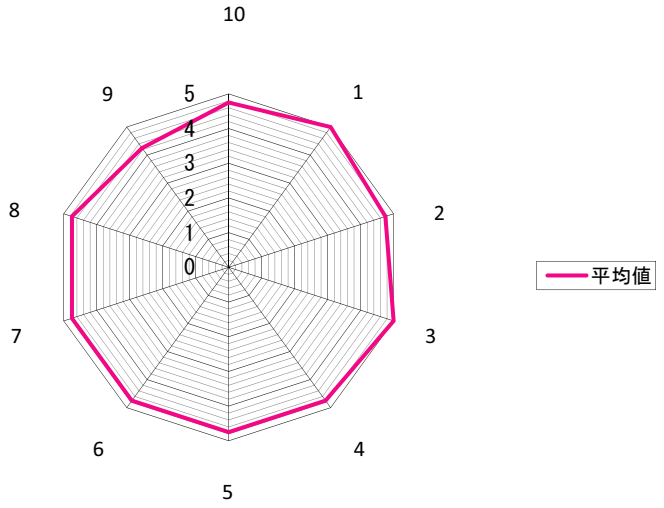
教員のコメント

受講学生の興味のある内容による授業であり，学生の自主的な練習等の活動により授業が進められたことが，学生にも高く評価されたようである。 本来なら，このように自由に自らの表現意欲を発揮することが可能な授業なので，より一層積極的な活動を期待するものであるが，本学学生の全般的な特徴である「指示待ち」になってしまうことが多く，そこには多少歯がゆさも感じた。しかしそのためにも，教員の事前指導は必要であり，その点についてはさらに研究する必要があると感じた。

結果報告書

授業科目名　作曲法基礎演習
評価実施日　平成26年2月20日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3			1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



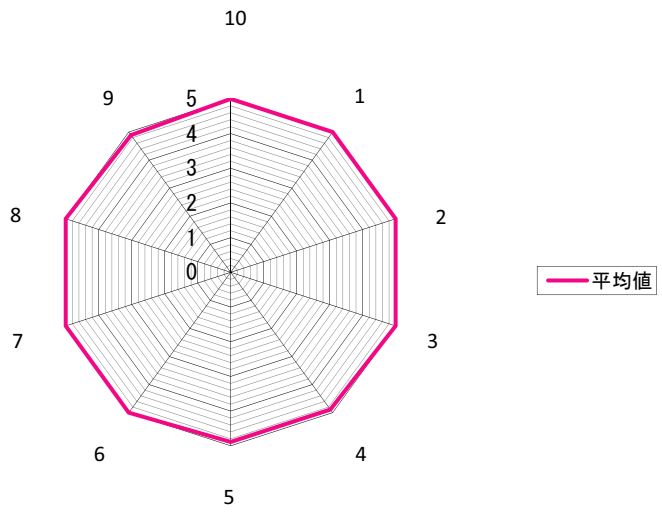
教員のコメント

授業では，楽曲分析の方法を提示し，学校教材を含め，受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い，演奏表現にそれをどう生かすか，演奏を交えながら検討を行った。受講者は終始積極的に取り組み，このような授業内容が求められていることがひしと感じられた。実際，毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ，その結果，総合評価4.8となり，満足度の高い授業であったといえよう。自由記述には次のようなものがあった。「作曲の基礎が学べた。」「作曲に本格的に取り組めて作品が残せて良かった。きちんと直してくださったのできれいな作品になり、うれしい。」「個人の考えを尊重してアドバイスをいただき、とても勉強になった。」「和声学、対位法、楽曲分析を関連づけた音楽理論の学修が大学院進学の理由でもあったが、この授業は、それを全うしてくれる内容だった。」「毎回楽しく受講し、自然と主体的な学びとなった。」「夜中もがんばって作曲して、思い出に残った。」「先生がいつも幸せそうに講義してくださることに、幸せを感じた。」「皆さんの作品がすばらしくて、最後の発表会がとても楽しかった。」

結果報告書

授業科目名　音楽科授業研究
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　小山　英恵　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



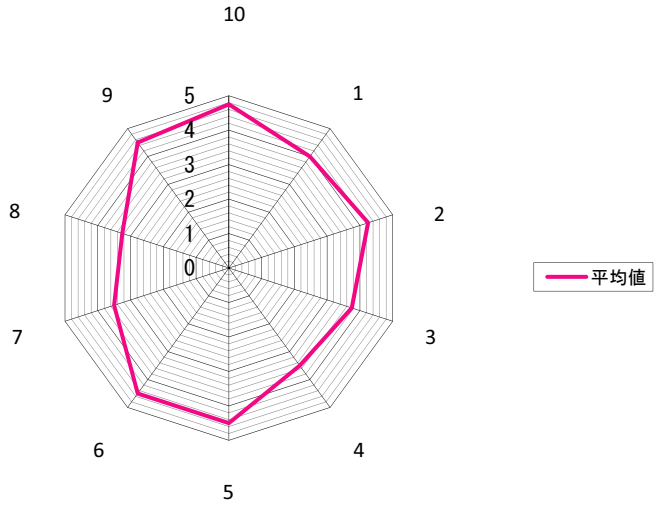
教員のコメント

本授業では、学生らによるディスカッション等を多く取り入れている。今回の授業では、学生自身の音楽科授業に対する熱意や関心が高く、ディスカッション等にも積極的に参加してくれたため、本授業の目標到達に向けて授業を進めることができた。

結果報告書

授業科目名　油画制作演習
評価実施日　平成26年2月13日
担当教員名　鈴木　久人　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2	1				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	1				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		2	2				3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		3				3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	3				3.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



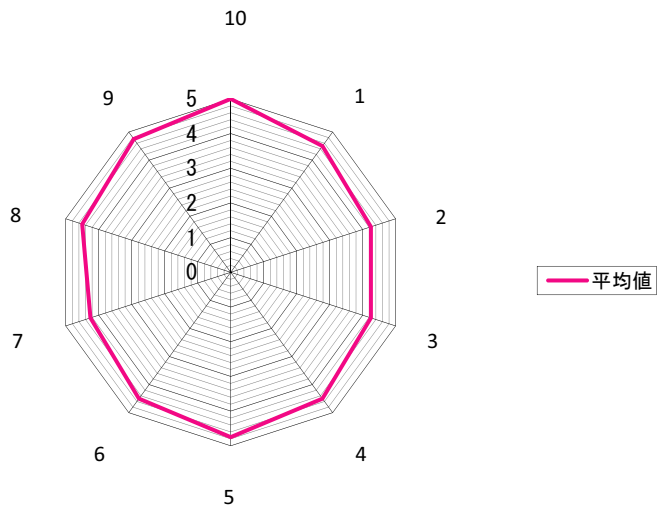
教員のコメント

総合評価が4.8という数値は概ね好意的評価だと受け止めている。質問事項(3)(7)(8)が数値として低く目立つが、本授業は各自の絵画制作の深化を目的とした多様な演習を中心としているため，教科書や視聴覚機材を使用しなかったためと思われる。また(3)ついては教員側としてはこのような内容は教育現場での実践に寄与するものと考えるが，学生には浸透していないものと考えられ，反省材料である。本授業で習得した内容が現場での展開の可能性や教材開発の可能性、児童，生徒の作品鑑賞や評価法等にどのように寄与するものであるかを学生たちと考えていきたい。(4)についても授業の冒頭，時間を取って説明したのだが3.5とうい評価になっている。この点も今後の課題と受け止めている。

結果報告書

授業科目名　彫刻制作研究
評価実施日　平成26年2月24日
担当教員名　野崎　窮　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



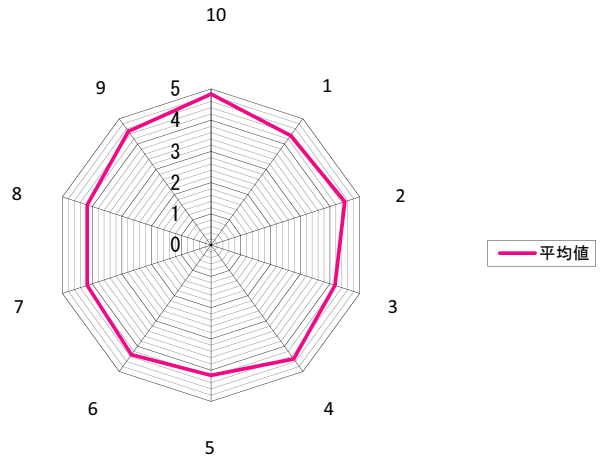
教員のコメント

この授業は実技が中軸であり、着衣のモデルを使用した塑造（全身像）制作である。受講生は絵画・デザインなど様々なコースを専攻している学生がいる。彼らが求めている彫刻における立体把握力を伸長させるべく、各自のその能力に応じて個別に支援・指導した。結果として、各項目の平均値は「4」以上であり、特に10の項目で「5」という評価をえている。授業において、様々な作家の作品解説行い、興味が尽きないよう適宜な工夫を今後も続けていきたい。

結果報告書

授業科目名　デザイン制作研究
評価実施日　平成26年1月30日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4		2				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1	1				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	2				4.2
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	1	2				4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1				4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1	2				4.2
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



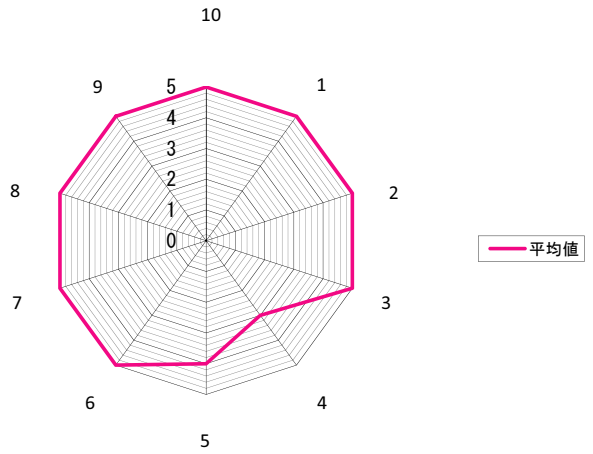
教員のコメント

この授業の受講者は6名で本年はこの全員がアンケートに回答してくれた。この授業は以下の様な流れで運営した。1時間目は全体の授業運営説明。2～4時間目はAdobe社のIllustratorの初歩的用法解説、トレーニングとしてこのソフトを使用した地図制作。5～6時間目はデジタル一眼レフの操作方法解説とスタジオでの照明操作解説および撮影演習。7～8時間目はAdobe社のPhotoshopの初歩的用法解説。9時間目はIllustrator、Photoshopの両方を応用したダイレクトメールの原稿の制作。10～14時間目は大学院美術コースのパンフレットを想定したA3サイズ両面の印刷物原稿制作。15時間目が相互発表・作品講評。美術コースではファインアート分野で制作を行う学生・院生からダイレクトメールの制作手順についての質問が時折寄せられるため、最低限デスクトップでこれが作成できるようにこの流れを考えている。昨年も述べたとおり、受講者は全くの初心者もいれば、既に問題なく操作できる者もいる。解説資料は一部紙媒体で渡しているが、大方は自分のウェブページに準備しておき、これを見せる形をとった。制作にあたっては、質問を申し出た者のところへ直接行き対応する形式であった。時として複数同時に手が挙がるケースがあったが、習熟している者にフォローをしてもらう形を取っている。評価のグラフを見ると全般的に4以上の評価を受けており、基本的に満足感を得られていると判断できる。自由筆記の記述では良かった点としては「パソコン及びソフトの使い方が判った」が3名、「カメラの使い方が判った、楽しかった」が2名、「日常生活で活かせる」が2名、「作品が実用されるかもしれない所」が1名であった。一方改善点の要望は「カメラの説明が専門的すぎる」が1名、「作品を検討する回数が多くなる（多くした方が良い？）」が1名だった。昨年2件あった「授業の早さ」についての指摘は無く、これについては改善できたようだ。カメラの説明については現在までにも改良を重ねて来たが、やはり人により構造説明など苦手とするケースもある。「誰にでも判りやすく」を目指し、改善して行きたい。「作品の検討」は講評の回数を増やすことと思われるが、時間数が制限されているため、肝心な内容を薄めない程度に対応できればと考えている。いずれにしろ、今後も出来る部分を探しながら少しずつ授業改善に臨みたい。

結果報告書

授業科目名　映像デザイン演習
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。			1				3.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



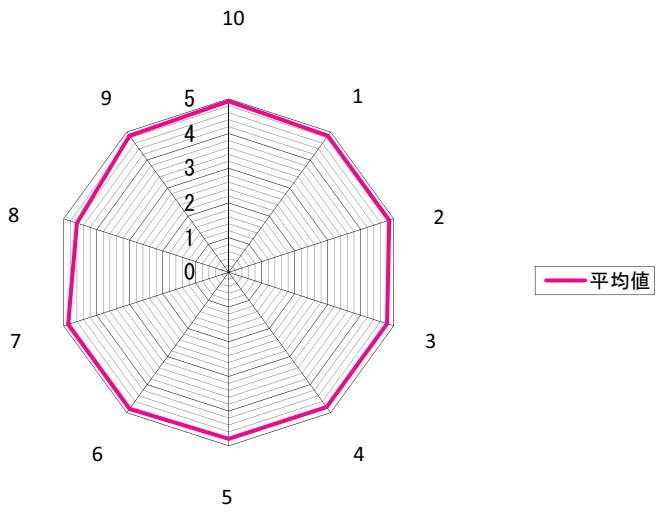
教員のコメント

本年度の受講者は1名のみ。本授業は昨年度から、「動画についての内容に触れて欲しい」という授業評価時の要望が寄せられて来たことに対応し「過去の映像作品の紹介と映像制作」を主な内容とするものにしている。(それ以前は映像原理の講義・演習からデジタル一眼レフカメラの撮影実習までを行っていた)授業の具体的内容としては、第1時間目は年間カリキュラムの説明、2・3時間目はサイレント時代をテーマとした映像の情報交換、4・5時間目はトーキー黎明期をテーマとした映像の情報交換、6・7時間目はアニメーション映像の情報交換、8時間目はCM(海外・日本)の紹介、9時間目は実験映像作品の紹介、第10時間目以降14時間目まではデスクトップビデオ編集制作、最終回に作品提出／講評と言う手順であった。各回で紹介する映像の内容は、研究室で準備したものを貸し出すか、図書館から借りて視聴させる方法をとった。アンケート結果(グラフ)からみると、「評価方法」と「授業の進む早さ」が、それぞれ3と4である。評価方法については、基本的に出席・授業態度および作品評価となり当然シラバスにも明記しているが、今回の受講生には全く難が無かった。しかし、採点結果が出される前のアンケートでもあり、受講者側から評価を判断する材料が掴みずらかったのかもしれない。「授業の進む早さ」については、今回については受講者のペースに合わせ(非常に真面目で努力家であった)、通常よりも多い資料を提供したことに原因にあるかもしれない。自由記述では「この授業で良かったと思われる点」に『映像、音声を分析する. どんな画面(が)、きれい、どんな音声がきれい、前よくわからなかった. 今、ほぼわかった』とあった。授業の本来の目的は達成されていると考えられる。一方、「この授業で改善すべきと思われる点」に『専門的な教室で授業をやってほしい」とあった。1名のみだったことから授業での参考映像視聴を、パソコン等小型モニターで行ったことが原因と思われる。この部分についての対策は46インチのモニターを昨年末に調達したため解決すると思われる。今後も、授業とその環境の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名　工芸制作研究
評価実施日　平成26年2月4日
担当教員名　栗原　慶　　回答者数　15　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	3					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	3					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	2					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	6					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	2					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14	1					4.9



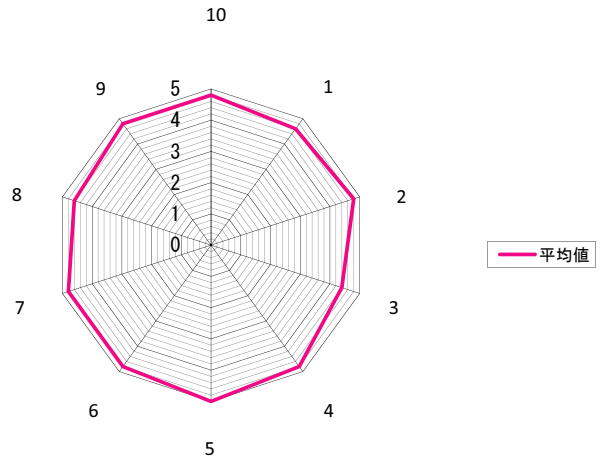
教員のコメント

総合評価4・9は、授業内容が概ね良好で受講生に受け入れられた結果と感じている。しかしながらどの項目についても、4の評価を2～3名の受講生から受けており、改善の余地がある点を精査していかねばならない。特に(8)の板書や視聴覚機器についての項目については、6名から4の評価を受けており、今後、視覚的によりわかりやすくするための工夫をしていきたい。具体的には教室の設備にプロジェクターを加えるなどして、対応していきたい。

結果報告書

授業科目名　スポーツ社会学演習
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　木原　資裕　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



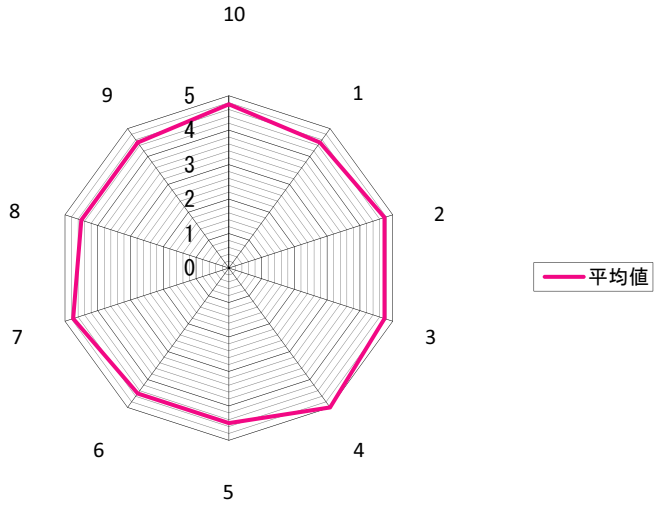
教員のコメント

今回の受講生には，私の研究生のゼミ生が5名中4名含まれており，また，残る1名も前期「スポーツ社会学研究」を熱心に受講してくれた1名であったので，気心がわかる人間関係ができている中での授業であった。総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」4.8であり，まずまずの評価であった。また，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」の評価が4.4であり，最も低い値であったが，自由記述の中に，「新聞記事から教育や社会的背景をしることができた。直接的ではないが，修論を書いていく上で，よい判断材料となった。」との感想があった。「教師の実践力の育成」においても間接的につながる内容を更に精選し，受講生にインパクトを与える授業を試行錯誤したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　学校体育経営演習
評価実施日　平成26年2月5日
担当教員名　藤田　雅文　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



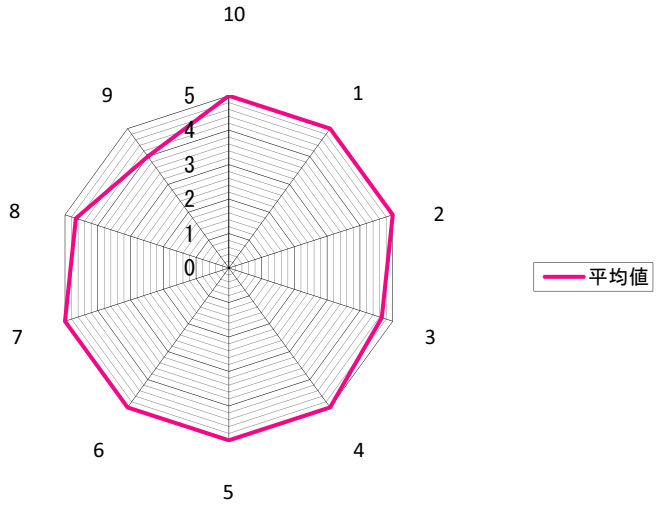
教員のコメント

9項目の平均評価点は4.6で，総合評価も4.8であることから，高い評価を得たと考えている。本授業では，パソコンを活用して，保健体育科の学習評価，体力テストのデータ分析，体育学研究のデータ分析の演習を行っている。教育実践現場に役立つ内容をさらに厳選して，次年度以降も同様のスタイルで授業を展開したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　スポーツ・トレーニング演習
評価実施日　平成26年2月9日
担当教員名　南　隆尚　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



教員のコメント

まず，本授業受講者が4名であり，本授業評価回答者も3ていであることから，受講者数を増やすことを考える必要がある。近年，長期履修生に対する単位数の制限やL2での教員採用試験の受験傾向を鑑みると，現状も致し方のない面もある。来年度以降の課題としたい。

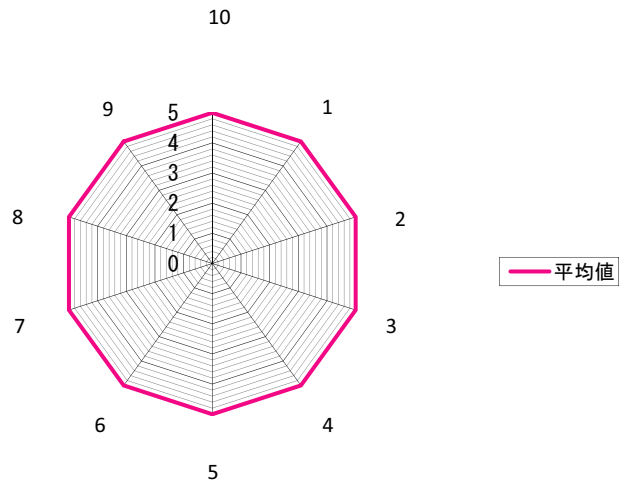
さて，評価はおおむね良好であったが，質問(9)『授業に主体的・積極的に取り組んだか』で，評価5，4，3がそれぞれ1名ずつとなった。これは，保健体育専攻以外の者もおり，積極的に自身の研究に反映できないことも起因している。ただ，受講者を鑑み，積極的に取り組める内容も盛り込みたい。その他の質問項目は多くね良好であった。

学生の感想としては，「実践的な内容が盛り込まれ，役に立った」という意見が多く，演習としては目的を達成していると考えられる。

結果報告書

授業科目名　学校保健学演習
評価実施日　平成26年2月20日
担当教員名　吉本　佐雅子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



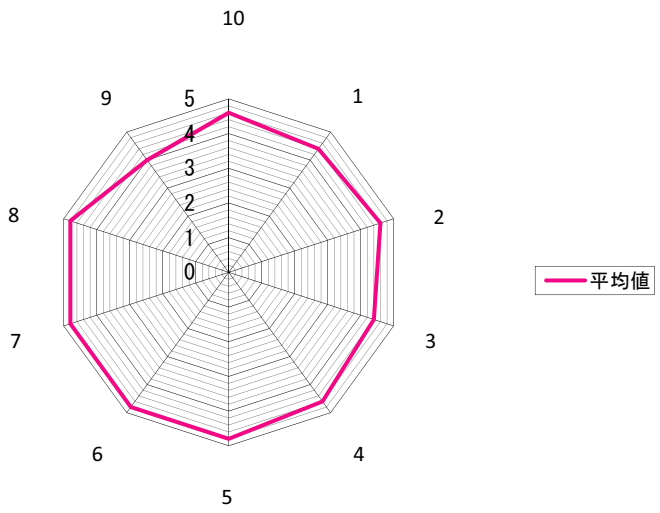
教員のコメント

受講生が少ない事もあって，学生の課題研究，修士論文作成に役に立つような内容，すなわち，統計，統計の方法，その結果の見方，表・図の作成について演習授業を行った。修士論文の作成に必須の事項であるため，好評が得られた。

結果報告書

授業科目名　健康科学演習
評価実施日　平成26年2月7日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



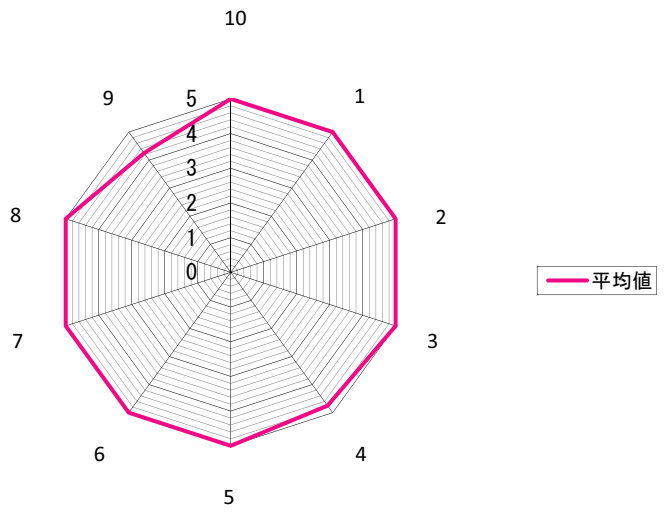
教員のコメント

健康科学演習は、健康に関する基礎的な面を学習する健康科学研究に引き続いて行うものである。できるだけシラバスに則り、かつ健康に関する学校内外の最近の報道や事件に関する内容を重点的に取り上げて、教員に有用な内容となることを心掛けている。特に、学校の健康と安全の問題に加えて、学生本人の健康問題を見つめられるように配慮している。授業では、医学的な知識のみを追求するのではなく、体の仕組みの上に成り立つ生命活動と健康を実感できて、生涯にわたって健康生活を実践できるような内容を目指した。

結果報告書

授業科目名　情報技術演習
評価実施日　平成26年2月27日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



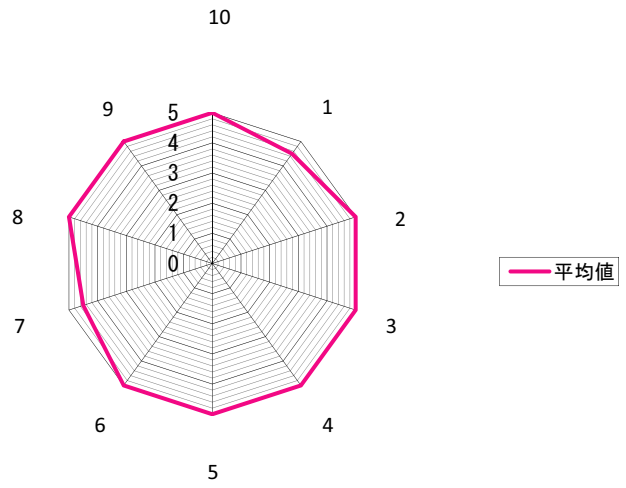
教員のコメント

ネットワークならびにファイアウォールに関わる内容であったこと，ゆっくりと授業を進めたこと，資料が実習内容と合致していたこと，実際の学校現場に合わせた順序立てた授業進行であったこと，実習内容を確認できるレポート課題であったこと等が評価された。受講者本人の積極性が弱かった点は，授業時の途中課題設定等で対応すべきであったかもしれない。結論としては，人数が少ないため，順調に授業を進めることができた。

結果報告書

授業科目名　エネルギー工学研究
評価実施日　平成26年1月17日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



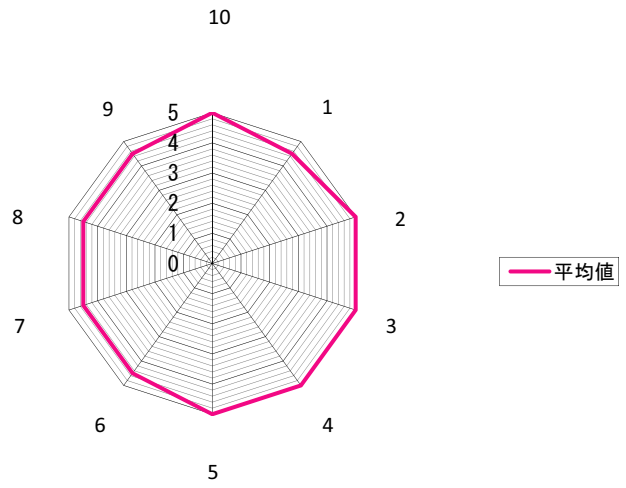
教員のコメント

受講者が2名ということもあり，受講者の興味・関心に配慮しつつ，理解の度合いも確認しながら授業を進めた結果であると思われる．この結果に満足することなく，さらに優れた授業を目指す．

結果報告書

授業科目名　エネルギー工学演習
評価実施日　平成26年1月17日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



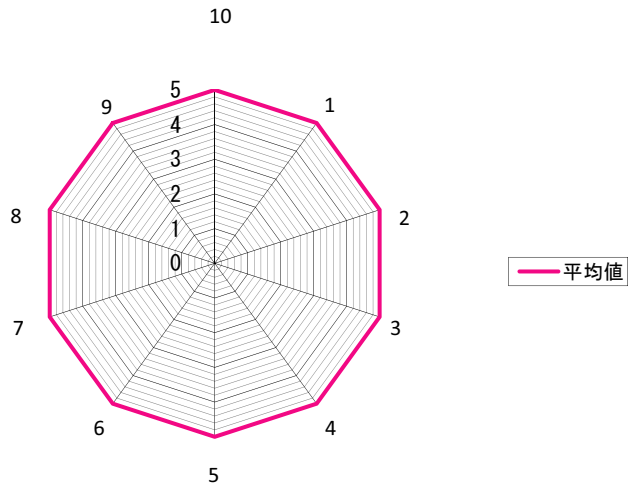
教員のコメント

受講者が2名ということもあり，受講者の興味・関心に配慮しつつ，理解の度合いも確認しながら授業を進めた結果であると思われる．この結果に満足することなく，さらに優れた授業を目指す．

結果報告書

授業科目名　画像情報処理研究
評価実施日　平成26年2月27日
担当教員名　伊藤　陽介　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



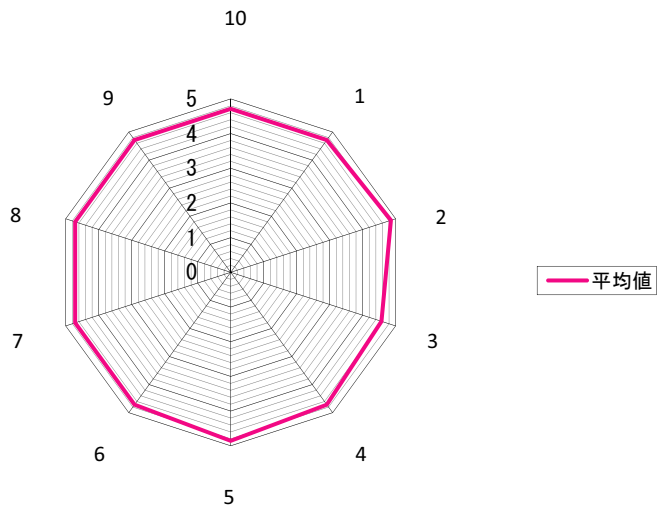
教員のコメント

総合的に見ると満足できる結果と思われるが，説明資料をより視覚的に理解しやすくするための工夫は必要である。画像処理に関する実習は受講生から好評であった。

結果報告書

授業科目名　プログラミング演習
評価実施日　平成26年1月30日
担当教員名　林　秀彦　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



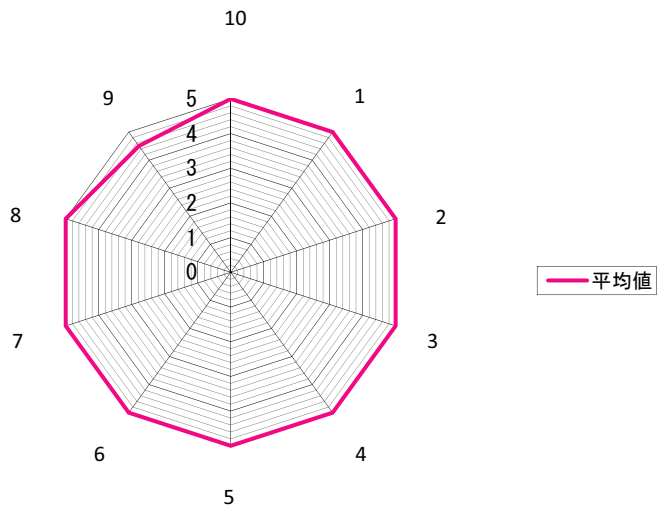
教員のコメント

本授業は，与えられた課題に取組むうえで，問題解決能力に加えて問題発見能力の習得も必要となっている。授業方法はプログラミング入門レベルの文法を習うような指導型ではなく，課題に対して多面的な観点から学習をサポートできる学習支援型である。このような授業の特性については，初回の授業で説明しており，授業評価結果では，評価値が4と5が多く、全体的に高い傾向にあったことからも，それらの点がおおむね理解されたうえで受講者は授業に取組んでいたものと考えられる。自由記述欄には，「よかったと思われる点」については，「受講者の裁量が大きい」「自身に課す課題の自由度が高い」「自分のやりたいテーマで学習し，プレゼンテーションを行うことができた」といったコメントがあった。一方，「改善すべきと思われる点」については，「特になし」「これ以上の改善は不要である」のコメントがあった。これらは，昨年度のコメント「演習時に自由度があり，学生の創造性を制限されない点が良かった」とほぼ同様の傾向を示しており，本授業の授業方法が学生の創造的問題解決を促進させる効果を発揮した一つの表れである可能性がある。また，「moodleで授業内容や予定がはっきりとしていた」とのコメントがあり，受講者はおおむね計画的に課題を進めることができたと考えられる。また，その他，昨年度はコメントのなかにプロジェクトを作って取り組むことの提案があったが，本年度は授業の早い段階において，各自の設定課題に取組む意識が明確化されていたこともあり，プロジェクトチームを作成して取組む活動は実施していないこともあり，そのような点についてのコメントも見られなかった。受講者の人数や特性によって年度毎の検討が必要になる点と評価の方法に検討が必要となる可能性があるので，今後，それらを踏まえて実践できるかどうか検討していきたい。

結果報告書

授業科目名　ディジタル制御研究
評価実施日　平成26年2月10日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



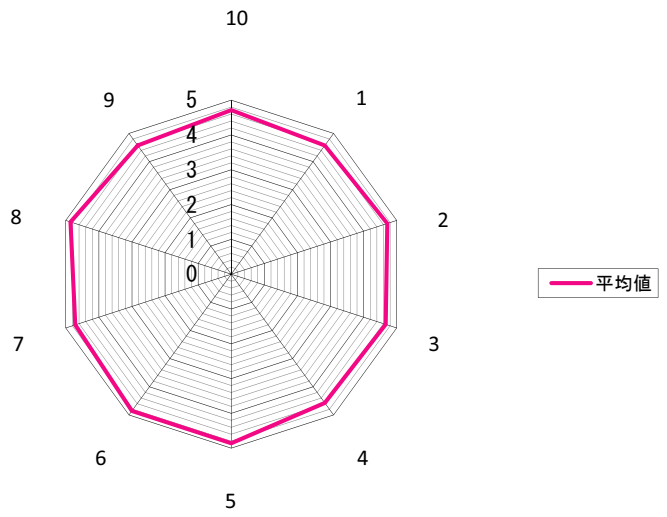
教員のコメント

制御理論に関わる実習をMATLABならびにSimulinkで行ったため，数理的な内容ではあるが，挙動が分かりやすいグラフィックスを用いたシミュレーション形式として実習でき，理解が容易になり，そのため授業者の評価が良かったものと思える。受講者の人数が少なく，均質であったために，授業進行は楽に行うことができた。

結果報告書

授業科目名　情報応用演習
評価実施日　平成26年2月7日
担当教員名　曽根　直人　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6		1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5		1			1	4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6		1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6		1				4.7



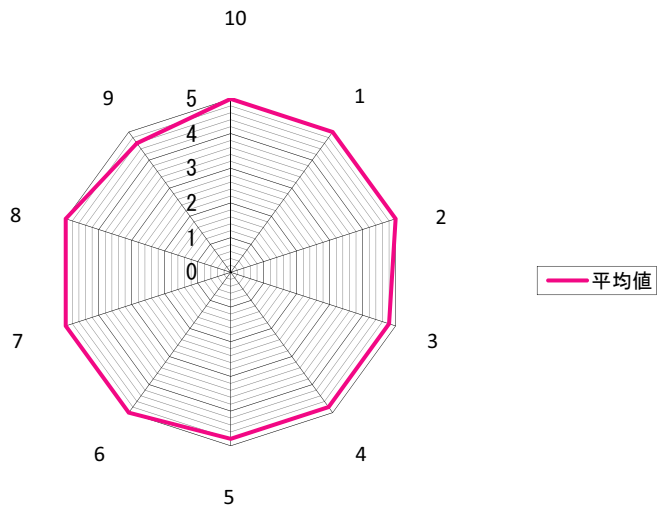
教員のコメント

受講者からのコメントを見ると，実際に調査や活動を実施したことについての評価が高かった．またもっと実際に手を動かした設定などを希望する意見もあった．授業で利用するネットワーク機材などは毎回講義室まで運び，設置しているため，準備や片付けを考えると1限の中で活動に利用できる時間が限られる．実験用のネットワーク機材を設置できる実験室などがあればより効率的な授業が実施できると考える．また，ネットワークやコンピュータを操作するためには，それに関する知識が必要になるため，どうしても講義も必要になるが，より受講者自らが設定や実験を行なうことができるようにバランスを考慮したい．

結果報告書

授業科目名　コンピュータ科学演習
評価実施日　平成26年2月12日
担当教員名　宮本　賢治　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



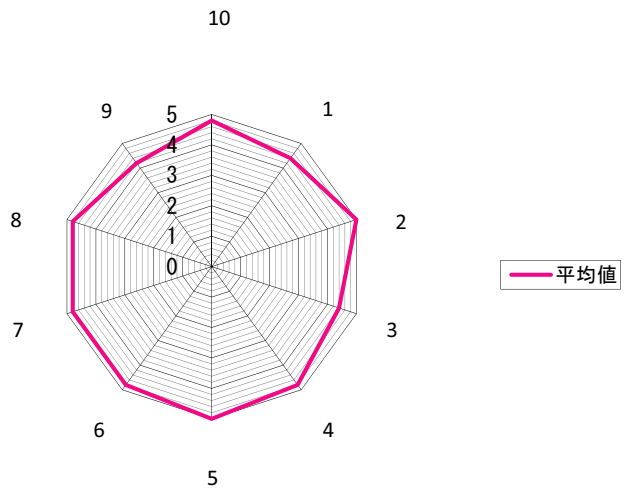
教員のコメント

すべての質問項目で4.6以上の高評価が得られて満足できる結果となった。プログラムによる計測・制御の学習が中学校技術・家庭科の技術分野で必修化されたことが、質問項目「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」において教員養成に向けた本授業の目的や意義が理解された要因の1つであると考えられる。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名　シミュレーション研究
評価実施日　平成25年12月21日
担当教員名　高曽　徹　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1	1				4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



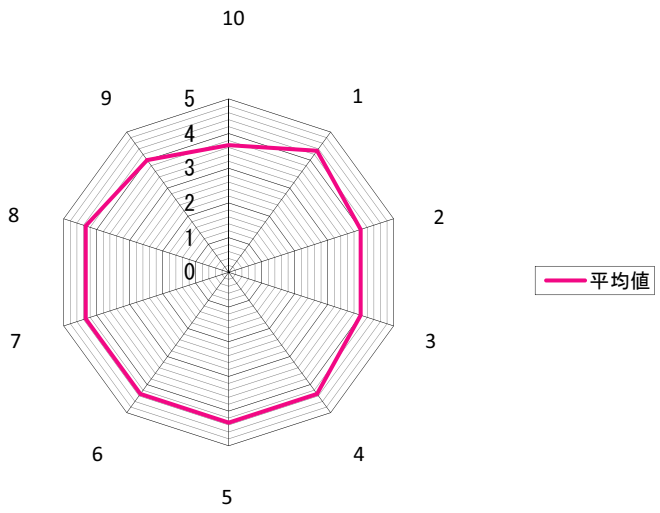
教員のコメント

熱心に聴講していただいたように思います。今後は、双方向の授業を進める検討していきたいと思います。

結果報告書

授業科目名　機械工学演習
評価実施日　平成26年1月14日
担当教員名　宮下　晃一　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2		1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2		1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1		1			3.7



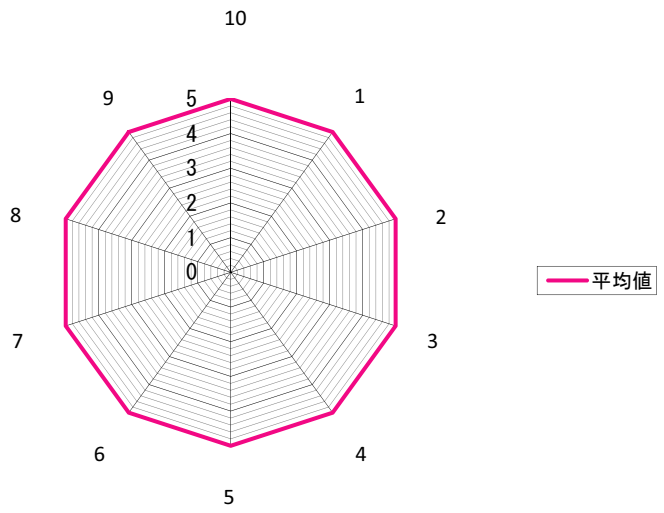
教員のコメント

簡単に製作でき，軽量で十分な強度を持つ大きな構造物を製作するという課題を設定し，3本の棒で構成された三角形が安定した形状であるという知識を発展させて，正20面体ならびにフラードームの製作に取り組んだ。
受講生3人のうち2名からは高い評価を得たが，1名からはやや低い評価がなされた。教員志望や民間企業志望など，志向の異なる学生に対して幅広く興味を持ってもらえなかった可能性がある。

結果報告書

授業科目名　技術科教育演習
評価実施日　平成26年3月3日
担当教員名　尾崎　士郎，宮下　晃一　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



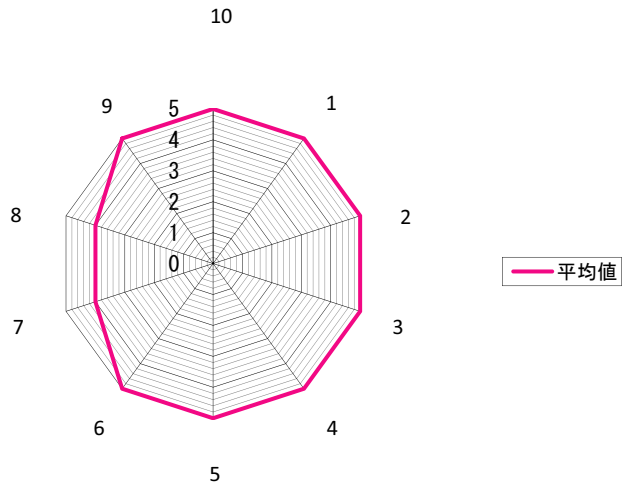
教員のコメント

望外の高い評価であるが、偶然を含む多様な要因が重なった結果ではないかと考えている。一方で、前半の授業実施期日に出張が重なり、中盤または後半に授業を実施した。したがって、授業時間数確保のために正規の授業時間帯にも実施した点について、受講者には申し訳ないと思っている。高い評価につながった点があるとすれば、各人の研究課題ほか内容を聞き、教育的側面から貢献できる内容（統計学や教材開発技術等）を取り上げて演習内容を工夫した点が考えられる。また、間接的にではあっても、将来に教育者を目指す受講者が多かったことも高い評価につながった可能性がある。今後も授業の目的を重視しながらも、受講者の希望を共有できる内容については、演習課題として取り上げるなどの工夫を試みたい。

結果報告書

授業科目名　衣生活学演習
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



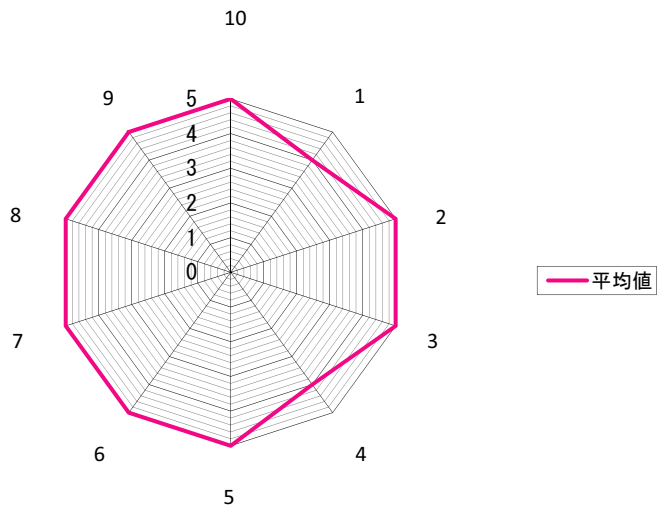
教員のコメント

平成25年度「衣生活学演習」の受講生は1名であった。教員研修留学生1名(ガーナ)の聴講と受講生の希望から浴衣を製作した。今回初めての製作内容であったため，大学院生1名(昨年度履修済み)と学部4年生3名も浴衣の製作を希望して授業に参加した。浴衣は、高等学校の専門教科の中で取り上げられている教材であり，中･高等学校の家庭科の教員採用試験に出題されることの多い教材である。今回の授業では，受講した学生のモチベーションが高かったため，意欲的に授業に参加していた。そのため，授業評価も高い結果となった。来年度以降も、受講生の技量と希望に添った内容としたい。

結果報告書

授業科目名　食生活学演習
評価実施日　平成26年2月18日
担当教員名　松永　哲郎，西川　和孝　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



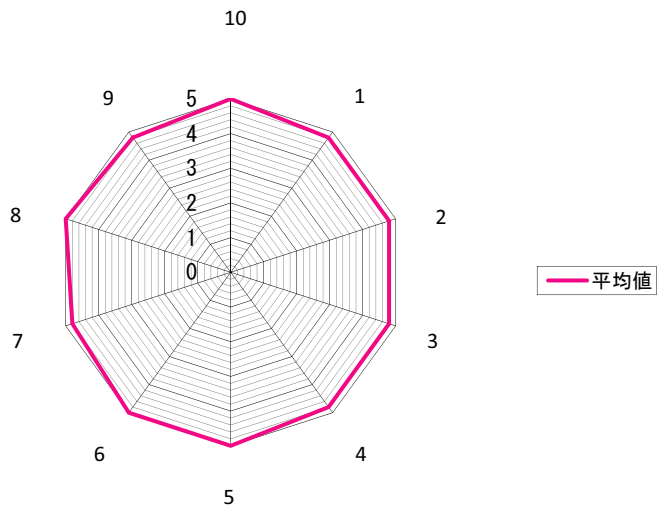
教員のコメント

受講生が1名であった。そのため、ゼミ方式で実施した。概ね問題ないと思われる。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学演習
評価実施日　平成26年2月6日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



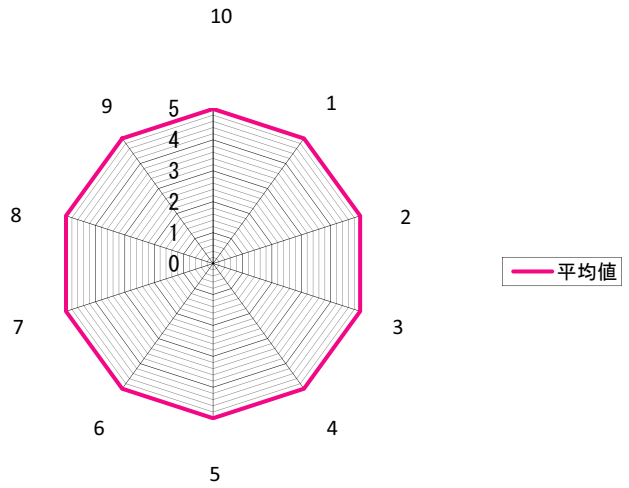
教員のコメント

学生の総合評価は5.0であり、すべての質問項目に対する回答の平均が4.8以上であったことからも、受講者5名全員が満足できる授業であったと判断できる。
受講者は、全員が大学院修了後の進路として、小・中・高のいずれかの校種の教員を目指しており、学校で活用できる教材や機器を扱うことを中心とした授業を行った。また、今年度は新しい試みとして校外学習を取り入れた。学校現場で役立つようにと、各自でねらいを絞った校外学習計画を立てて、その中から1つを選び、さらに改善を加えて、実際に相手先との交渉も行って授業時間外に校外学習を行った。時間は要したが、実践的に学ぶことができた。
アンケートの自由記述欄には、「いろいろな教材や機器を使ったので、指導方法に幅が広がった。」、「実践に役立つ内容が多く、自分自身が楽しかっただけでなく、興味を持ちながら取り組めた」、「実践的な内容が多く、現場で役立つ内容が多くてとてもためになった」、「人数も少ないので、話し合いがスムーズに行え、全員の共通理解を深めるのに効果的であった」などの記述があり、今後に生かせると実感している様子がわかる。
今後も少人数での授業となることが予想されるため、その特性を生かして、教員としての実践力の育成を図るような授業をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　家庭科授業・教材開発研究
評価実施日　平成26年1月31日
担当教員名　渡邉　廣二，福井　典代，松永　哲郎　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



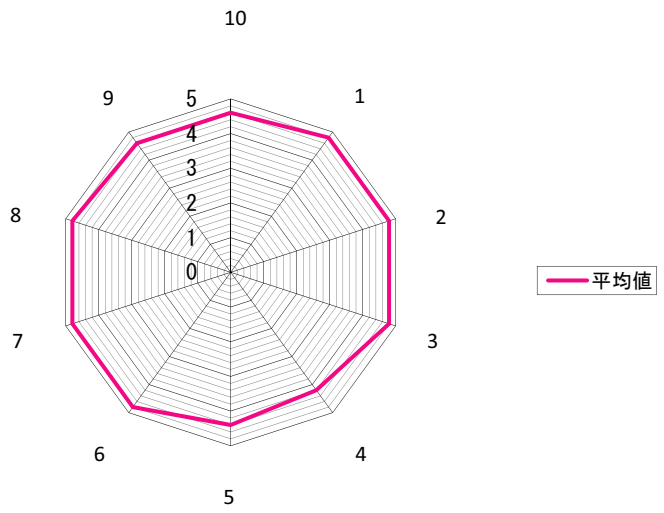
教員のコメント

家庭科で扱う内容の専門領域が広いため，この授業では3名の教員で授業を分担している。食生活，衣生活，生活経営の各領域での教材開発の事例を紹介し，講義の中で実験や実習を取り入れた活動を行った。今年度は1名の受講生であったが，授業評価において高い評定を得た理由として，学校現場で活用できる教材の提示や、授業方法の工夫を提案したためと思われる。来年度以降も、学生のニーズに合った内容で授業を進める予定である。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅱ
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　小澤　大成，近森　憲助　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	4					4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



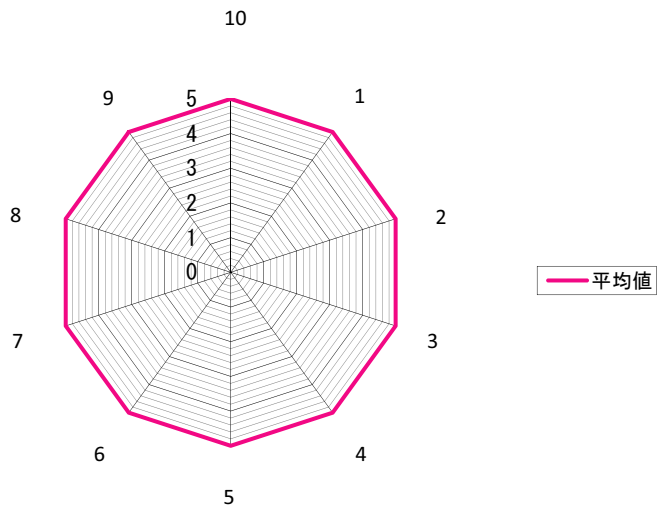
教員のコメント

授業研究を開発途上国の文脈に即して体験的に学ぶことを通じて、途上国での授業改善にとって必要な手法を理解することが目的の講義である。総合評価4.6とまずまずの評価であった。成績評価や授業の進む速さへの評価がやや低く，今年度では成績評価方法の説明を明確にする等の改善を予定している。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力演習
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　石坂　広樹，近森　憲助　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



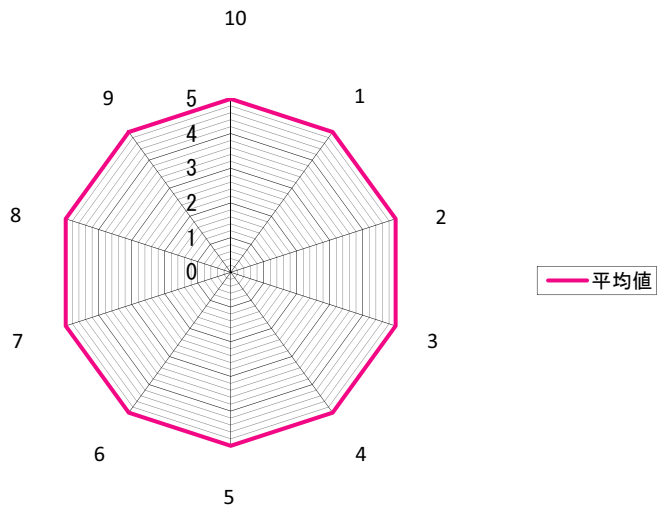
教員のコメント

本件授業は、ワークショップ型の活動を通じて国際教育協力プロジェクトの形成・評価をシュミレーション体験することを目的としている。演習に参加した学生は分析能力・立案能力・評価能力の向上を図ることができた。ワークショップ内においてもディスカッションが活発に行われており、学生の満足度も高かったものと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際理解教育特論Ⅱ
評価実施日　平成26年2月14日
担当教員名　近森　憲助，小澤　大成　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



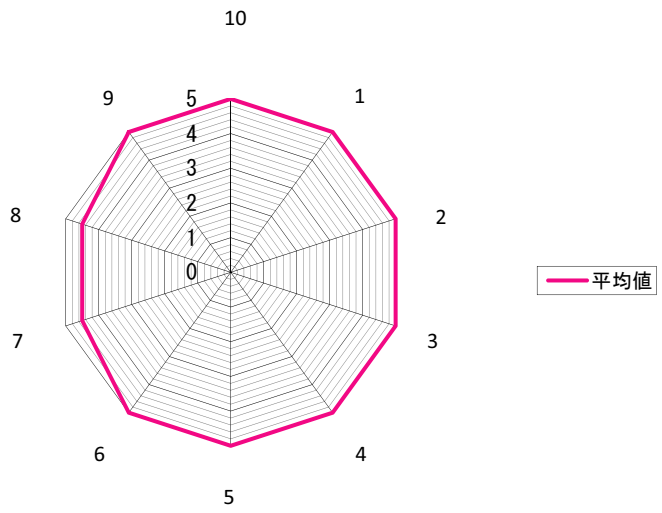
教員のコメント

持続可能な開発のための教育（ESD）という視点から国際理解教育について受講者とともに検討を加えた。そのためのツールとして、2編の論文（和文及び欧文各1編）を用い、授業方法は、主として論文に関する発表及び発表を踏まえたディスカッションを採用した。授業全体の流れは、授業担当者によるESDの概説に始まり、論文講読を通して浮かび上がってくるESDに対する多様な問題を、国際理解教育と絡めて受講生間で協議するよう促した。このような現代的でグローバルな課題を扱ったこと、受講生の発表やディスカッションなどが中心となっていたことなどが、人数は少ないが高い評価につながったものと考えられる。

結果報告書

授業科目名　国際理解教育演習
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　近森　憲助，小澤　大成　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



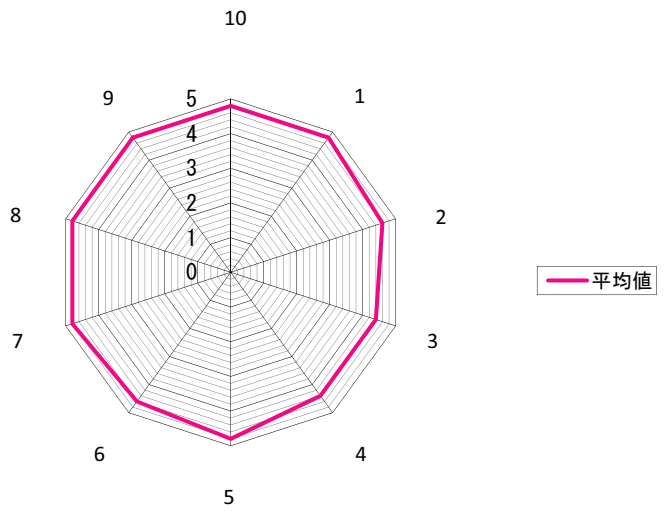
教員のコメント

国際理解教育の実践に必要な手法について地球的な課題を対象として文献購読，教材開発及び模擬授業の実施と検討を通じて理解することを目的とした演習である。国際理解教育に関する教材を紹介し，受講者の参加を促しながら授業を実施したため5.0と高い総合評価を受けたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名　国際教育総合セミナーⅡ
評価実施日　平成26年2月17日
担当教員名　石村　雅雄，近森　憲助，小澤　大成，石坂　広樹　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3					4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	2					4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



教員のコメント

この授業は、課題研究に関する課題や成果などを発表、受講生や授業担当者よる発表内容に関する質問及びコメント、さらに、それらを踏まえた研究内容に関するディスカッションにより構成されており、極めて受講生の授業参加を主体とし、授業担当者-受講生間だけではなく受講生間の相互作用を重視した授業である。このような点が受講生にとっては高い評価に示されるようなこの授業の魅力となっているのではないかと考えられる。